松山市文化財調査報告書 70

船ヶ谷遺跡

—2次調査—

1999

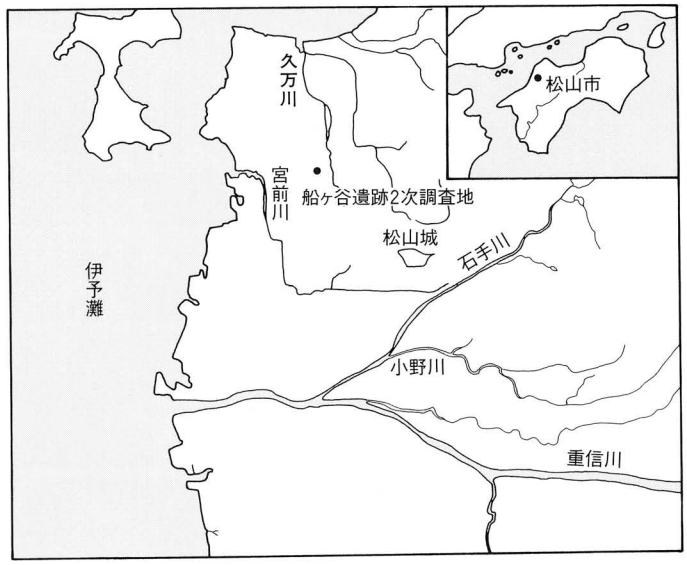
松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

船ヶ谷遺跡（ふながたに）

―2次調査―



1999

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版１　調査地（南より）

巻頭図版 2　SR 1 出土遺物

序

船ヶ谷遺跡が位置する松山平野の北西部には、縄文時代から古墳時代までの遺跡が数多く分布しています。松山市では、その一角に新しく学校給食共同調理場を建設することになりました。本書は、これに伴う事前発掘調査の成果をまとめたものです。

調査地の北方には縄文時代の大渕遺跡・船ヶ谷遺跡、弥生時代の三光遺跡が位置し、西方の丘陵上には前方後円墳の船ヶ谷向山古墳、円墳の船ヶ谷三ツ石古墳がある。特に、船ヶ谷向山古墳からは、円筒埴輪列を含む多数の形象埴輪が出土しています。本調査地は、この古墳の裾野にあり遺跡が豊富にみられるなかになります。

発掘調査では、古墳時代前期の流路を検出し、その中からは多数の土師器が出土しました。これによって、調査地周辺には古墳時代集落の存在が明らかになり、貴重な成果を得ることができました。

このような成果をあげることができましたのも、関係各位の方々の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力のたまものであり、心から感謝申し上げる次第です。

なお、本書が今後各方面にわたってご活用いただければ幸いに存じます。

平成11年３月31日

財団法人　松山市生涯学習振興財団

理事長　田　中　誠　一

例　言

1．本書は、松山市埋蔵文化財センターが平成９年８月～平成10年１月に、松山市西長戸636番１号で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．遺構は、呼称を略号で記述した。溝：SD、土坑：SK、柱穴：SP、自然流路：SR、性格不明遺構：SXである。

3．遺物の実測・製図、遺構の作図・製図は、高尾和長の指示のもと田﨑真理、中村紫、宮内真弓が行った。

4．写真図版は高尾と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。

5．遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。

6．本書に使用した方位はすべて真北である。

7．本書にかかわる遺物や記録物は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。

8．本書の執筆と編集は高尾和長が行った。作成に際しては梅木謙一の協力を得た。浄書は中村紫が行った。

9．製版　カラー図版―175線、白黒図版―133線
　印刷　オフセット印刷
　用紙　カラー図版―ニューＶマット菊〈93〉５使用
　　白黒図版―ニューＶマット菊〈93〉５使用

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに
1．調査の経過……1
(1)　調査に至る経緯
(2)　調査・刊行組織
2．立地と環境……2
3．調査の経緯

第Ⅱ章　遺構と遺物……7
1．層　位
2．古墳時代
(1)　自然流路
(2)　溝……30
(3)　土坑……39
(4)　性格不明遺構……42
3．古　代……53
(1)　溝
4．その他の出土遺物……56

第Ⅲ章　自然科学分析……81
1．船ヶ谷遺跡2次調査出土木材の樹種同定――――――――――――（古環境研究所）

第Ⅳ章　調査の成果と課題……84

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡分布図（縮尺１/50,000）……3
第２図　調査地位置図（縮尺１/2,500）……4
第３図　遺構配置図（縮尺１/80、１/250）……5
第４図　SR １第１地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺１/３、１/20）……8
第５図　SR １第２地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺１/３、１/20）……10
第６図　SR １第３地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺１/３、１/20）……11
第７図　SR １第４地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺１/３、１/20）……12
第８図　SR １第５・６地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺１/３、１/20）……13
第９図　SR １第７・８・９地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺１/３、１/20）……14
第10図　SR １第10地点出土遺物実測図(1)（縮尺１/３）……15
第11図　SR １第10地点出土遺物実測図(2)（縮尺１/３、１/４）……16
第12図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(1)（縮尺１/３）……18
第13図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(2)（縮尺１/３）……19
第14図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(3)（縮尺１/３）……20
第15図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(4)（縮尺１/３）……22
第16図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(5)（縮尺１/３）……23
第17図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(6)（縮尺１/３）……24
第18図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(7)（縮尺１/３）……25
第19図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(8)（縮尺１/４）……26
第20図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(9)（縮尺１/４）……27
第21図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(10)（縮尺１/４）……28
第22図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(11)（縮尺１/４）……29
第23図　SR １グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(12)（縮尺１/３）……30
第24図　SD ５測量図（縮尺１/20）……31
第25図　SD ６測量図（縮尺１/20、１/40）……32
第26図　SD ６出土遺物実測図（縮尺１/３）……33
第27図　SD ７測量図及び出土遺物実測図（縮尺１/３、１/20、１/40）……34
第28図　SD ８測量図（縮尺１/20、１/40）……35
第29図　SD ９測量図及び出土遺物実測図（縮尺１/３、１/20、１/40）……36
第30図　SD 10測量図（縮尺１/20、１/40）……37
第31図　SD 11測量図（縮尺１/20、１/40）……38
第32図　SK ６測量図（縮尺１/40）……39
第33図　SK ６出土遺物実測図（縮尺１/３）……40
第34図　SK ７測量図及び出土遺物実測図（縮尺１/３、１/20）……41
第35図　SK 14測量図及び出土遺物実測図（縮尺１/３、１/40）……43
第36図　SK １・２測量図及び出土遺物実測図（縮尺１/４、１/40）……44
第37図　SX １・２測量図（縮尺１/40）……45

第38図　SX 3 測量図（縮尺 1 /40）……46
第39図　SX 4 ・ 5 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 4 、 1 /40）……47
第40図　SX 6 ・ 7 ・ 8 測量図（縮尺 1 /40）……48
第41図　SX 9 ・10・11測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 4 、 1 /40）……49
第42図　SX 12測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /40）……50
第43図　SX 13・14測量図（縮尺 1 /40）……51
第44図　SX 15測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /40）……52
第45図　SX 16・17測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /40）……53
第46図　SD 1 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /20、 1 /40）……54
第47図　SD 2 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /20、 1 /80）……55
第48図　SD 3 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /20、 1 /100）……57
第49図　SD 4 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /20、 1 /40）……58
第50図　SD 12測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1 / 3 、 1 /20）……59
第51図　その他出土遺物実測図(1)（縮尺 1 / 3 ）……60
第52図　その他出土遺物実測図(2)（縮尺 1 / 4 ）……61
第53図　その他出土遺物実測図(3)（縮尺 1 / 1 、 1 / 3 ）……62
第54図　船ヶ谷遺跡 2 次調査出土木材の顕微鏡写真……83

表　目　次

表 1　自然流路一覧……62
表 2　溝一覧
表 3　土坑一覧……63
表 4　性格不明遺構一覧
表 5　SR 1 出土遺物観察表　土製品……64
表 6　SR 1 出土遺物観察表　石製品……74
表 7　SD 6 出土遺物観察表　土製品
表 8　SD 7 出土遺物観察表　土製品……75
表 9　SD 9 出土遺物観察表　土製品
表10　SK 6 出土遺物観察表　土製品
表11　SK 7 出土遺物観察表　土製品……76
表12　SK 14出土遺物観察表　土製品
表13　SK 2 出土遺物観察表　土製品
表14　SX 5 出土遺物観察表　土製品
表15　SX 9 出土遺物観察表　土製品
表16　SX 12出土遺物観察表　土製品……77
表17　SX 15出土遺物観察表　土製品
表18　SX 17出土遺物観察表　土製品
表19　SD 1 出土遺物観察表　土製品
表20　SD 2 出土遺物観察表　土製品

表21　SD 3出土遺物観察表　土製品 ……78
表22　SD 4出土遺物観察表　土製品
表23　SD 4出土遺物観察表　石製品
表24　SD 12出土遺物観察表　土製品
表25　その他出土遺物観察表　土製品
表26　その他出土遺物観察表　石製品……80
表27　その他出土遺物観察表　装身具
表28　船ヶ谷遺跡2次調査から出土した木材の樹種同定結果……81

図　版　目　次

巻頭図版1　調査地（南より）
巻頭図版2　SR 1出土遺物
図版1　1．調査前（西より）
　　2．東区遺構遺存状況（東より）
図版2　1．東区遺構遺存状況（南西より）
　　2．東区遺構検出状況（南西より）
図版3　1．西区遺構遺存状況（南より）
　　2．西区遺構検出状況（南西より）
図版4　1．SR 1遺物出土状況①第2地点（東より）
　　2．SR 1遺物出土状況②第1地点（東より）
　　3．SR 1遺物出土状況③第3地点（東より）
図版5　1．SR 1遺物出土状況④（北東より）
　　2．SR 1遺物出土状況⑤（南より）
　　3．SR 1遺物出土状況⑥（東より）
図版6　1．SD 1・6・11完掘状況（西より）
　　2．SD 3完掘状況（西より）
図版7　1．SK 6遺物出土状況（北より）
　　2．SK 7遺物出土状況（北より）
　　3．SK 14遺物出土状況（西より）
図版8　1．SR 1出土遺物①
図版9　1．SR 1出土遺物②
図版10　1．SR 1出土遺物③
図版11　1．SR 1出土遺物④
図版12　1．SR 1出土遺物⑤
図版13　1．SR 1出土遺物⑥
図版14　1．SR 1出土遺物⑦
図版15　1．SK 6出土遺物①
図版16　1．SK 6出土遺物②（225）・SK 7出土遺物（227）・SK 14出土遺物（228～231）

第Ⅰ章　はじめに

1．調査の経緯

(1)　調査に至る経緯

1996（平成８）年、松山市学校保健課から学校給食共同調理場建設にあたって、埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下、文化教育課）に提出された。

当該地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地の『N0.17　東山町古墳群』内にあり、周知の遺跡として知られている。同包蔵地内では、これまでに３回の調査が行われ、平地では1974（昭和49）年の船ヶ谷遺跡の調査で縄文時代晩期の遺物が多数出土し、丘陵部では1987（昭和62）年の船ヶ谷向山古墳の調査で後円部径26mを測る前方後円墳を検出している。

文化教育課は事前の試掘調査を行い古墳時代～古代の遺物と遺構を検出した。調査結果をうけ文化教育課、㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（以下、埋蔵文化財センター）ならびに松山市学校保健課の３者は遺跡の取扱いについて協議を行い、開発によって失われる遺跡について、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。発掘調査は古墳時代～古代の集落の広がりの解明を目的とし、埋蔵文化財センターが主体となり、平成９年８月に開始した。

(2)　調査・刊行組織（平成11年３月31日現在）

調 査 地　松山市西長戸638番１号外６筆

対象面積　4,543.16㎡

調査期間　平成９年８月１日～平成10年１月30日

松山市教育委員会	教育長	池田　尚郷
事務局	局長	大野　嘉幸
	次長	岩本　一夫
	次長	丹下　正勝
文化教育課	課長	松平　泰定
㈶松山市生涯学習振興財団	理事長	田中　誠一
	事務局長	池田　秀雄
	事務局次長	河口　雄三
埋蔵文化財センター	所長	河口　雄三
	次長	田所　延行
	調査係長	田城　武志
	主任	栗田　正芳（文化教育課）
	担当	髙尾　和長
		大森　一成（平成10年退職）
		大西　朋子

2．立地と環境

松山平野は愛媛県のほぼ中央に位置し、西は伊予灘・斎灘に面し、南東部は石鎚山系、北部を高縄山塊に狭まれた平野である。この高縄山塊に源を発した河川によって形成された沖積平野が松山平野である。船ヶ谷遺跡は、松山平野北部の沖積低地に立地する。

縄文時代

調査地北方300mの船ヶ谷遺跡（坂本1984）では、縄文晩期刻目凸帯文に先行する時期の河川や竪穴式住居址と共に、多数の土器、石器、木器類が出土している。また、北方1500mには大渕遺跡（栗田1986）があり、縄文後期中葉から晩期までの土器、石器、木器が多数出土している。このうち土器にはなすび形の紋様をつけた壺形土器や、籾圧痕を有する鉢形土器が出土し、初期農耕遺跡として注目される。

弥生時代

調査地北方1200mの三光遺跡では、弥生時代前期から後期までの土器が出土している。

古墳時代

古墳時代の集落はこの地域ではあまり知られていないが、墳墓は丘陵上に数多く分布している。

調査地西100mには船ヶ谷向山古墳、南西200mには船ヶ谷三ツ石古墳がある。船ヶ谷向山古墳は、前方後円墳で後円部径26mを測る。墳丘からは円筒埴輪列を検出し、周溝からは円筒埴輪、形象埴輪が多数出土している。船ヶ谷三ツ石古墳は2基の円墳の周溝部を検出し、周溝内からは須恵器が出土した。船ヶ谷向山古墳と船ヶ谷三ツ石古墳の時期は、5世紀末から6世紀初頭までの古墳と考えられている。

3．調査の経緯

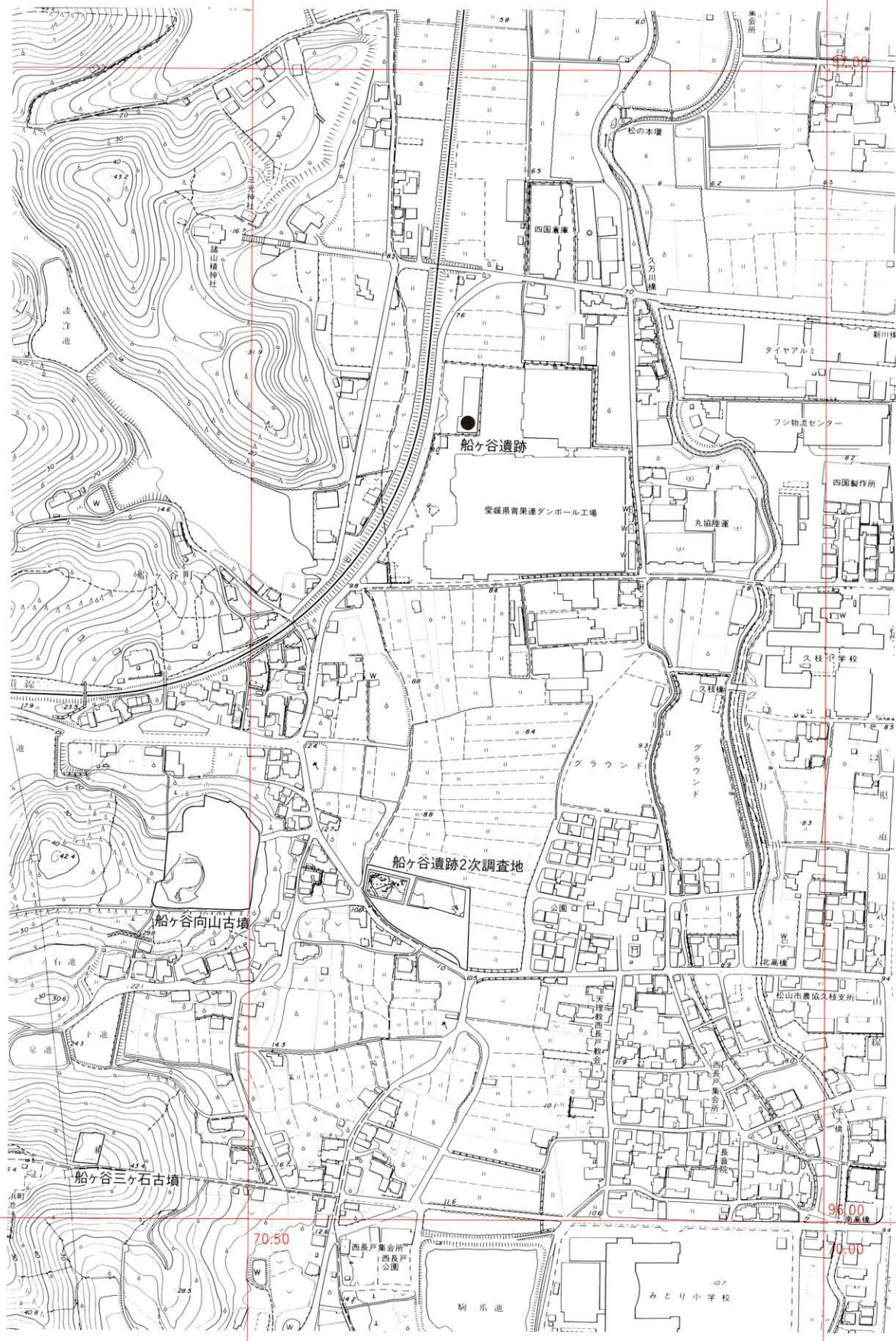
調査地は東西に長いため、東と西に分けて調査区を設定した。調査は東側から開始する。まず、トレンチ調査の結果から、地表下1.2mまでを重機によって掘削した。調査区内には水が湧くため、周囲に排水用の溝を掘る。次に、遺構検出作業を行い、流路と土坑を検出した。流路は東側の輪郭を検出しただけで、流路西岸は西の調査区内にあるものと判断した。流路の調査は時間的な関係からトレンチ調査とした。遺構測量後、完掘状況の写真撮影を行い、東側の調査を終了する。続いて西側の調査を行った。重機によって周囲に水抜き用のトレンチを掘削し、その後に全面の掘削を行った。遺構検出作業の結果、流路の西側の輪郭と土坑、溝を検出した。遺構は時期の新しいものから掘り下げかつ測量を行い、完掘状況の写真撮影及び航空写真撮影を行い、野外調査を終了する。なお調査区内は4mグリットを設定し、この作業に際しては国土座標にそって杭打ちをした。

〔文献〕

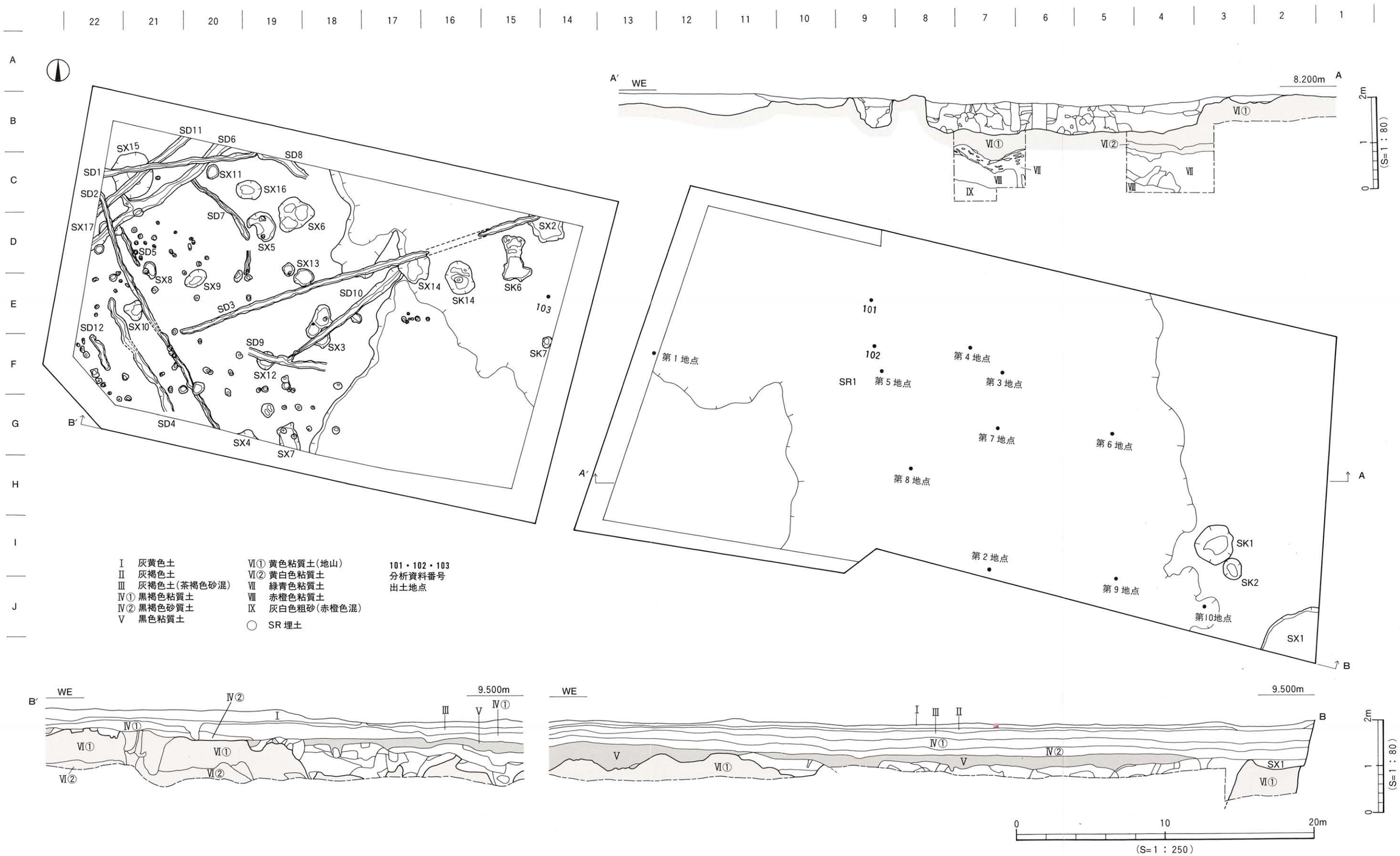
阪本安光　1984　『船ヶ谷遺跡』愛媛県教育委員会
栗田茂敏　1989　「大渕遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報II』松山市教育委員会
池田学・宮崎泰好　1989「船ヶ谷向山古墳」『松山市文化財調査年報II』松山市教育委員会
武正良浩　1991　「大渕遺跡2次調査地」『松山市文化財年報III』松山市教育委員会、（財）松山市埋蔵文化財センター
藤原敏秀　1993　「船ヶ谷三ッ石古墳」『和気・堀江の遺跡』松山市教育委員会、（財）松山市埋蔵文化財センター

(S=1:50,000)

第1図　周辺遺跡分布図



第２図　調査地位置図　(S＝1：2,500)



22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
A B C D E F G H I J
SD1 SD2 SD3 SD4 SD5 SD6 SD7 SD8 SD9 SD10 SD11 SD12
SX1 SX2 SX3 SX4 SX5 SX6 SX7 SX8 SX9 SX10 SX11 SX12 SX13 SX14 SX15 SX16 SX17
SK1 SK2 SK6 SK7 SK14
103
B′
A′
WE
8.200m
A
Ⅵ①
Ⅵ②
Ⅶ
Ⅷ
Ⅸ
2m
1
0
(S=1：80)
101
102
SR1
第1地点
第2地点
第3地点
第4地点
第5地点
第6地点
第7地点
第8地点
第9地点
第10地点
A
B
Ⅰ 灰黄色土
Ⅱ 灰褐色土
Ⅲ 灰褐色土(茶褐色砂混)
Ⅳ① 黒褐色粘質土
Ⅳ② 黒褐色砂質土
Ⅴ 黒色粘質土
Ⅵ① 黄色粘質土(地山)
Ⅵ② 黄白色粘質土
Ⅶ 緑青色粘質土
Ⅷ 赤橙色粘質土
Ⅸ 灰白色粗砂(赤橙色混)
SR 埋土
101・102・103
分析資料番号
出土地点
9.500m
Ⅳ①
Ⅳ②
Ⅲ
Ⅴ
Ⅱ
0
10
20m
(S=1：250)

第3図　遺構配置図

第II章　遺構と遺物

1．層　位（第3図）

土層は9層を検出した。第Ⅰ層灰黄色土、第II層灰褐色土、第III層灰褐色土(茶褐色砂混)、第IV①層黒褐色粘質土、第IV②層黒褐色砂質土、第Ⅴ層黒色粘質土、第VI①層黄色粘質土(地山)、第VI②層黄白色粘質土、第VII層緑青色粘質土、第VIII層赤橙色粘土、第IX層灰白色粗砂（赤橙色混）である。第VI層以下は深掘トレンチ調査での検出である。遺構は第VI層上面で検出した。

第Ⅰ層　耕作土である（厚さ5～10cm)。

第II層　水田耕作に伴う床土である（厚さ3～8cm)。

第III層　第Ⅰ層以前の耕作土である（厚さ20～25cm)。

第IV層　黒褐色粘質土と黒褐色砂質土の2層に分層する（厚さ30～40cm)。

第Ⅴ層　黒色粘質土で、SR 1 の埋土になる（厚さ20～50cm)。

第VI層　地山と呼ばれるものであり黄色粘質土と黄白色粘質土の2層に分層する（厚さ20～80cm)。

第VII層　緑青色粘質土である（厚さ50cm)。

第VIII層　赤橙色粘質土である（厚さ10cm)。

第IX層　灰白色粗砂（赤橙色混）(厚さ40cm)。

遺構は第VI層にて古墳時代から古代の自然流路1条、溝11条、土坑5基、柱穴85基、性格不明遺構17基を検出した。

2．古墳時代

古墳時代の遺構は、自然流路1条、溝6条、土坑5基、性格不明遺構17基である。

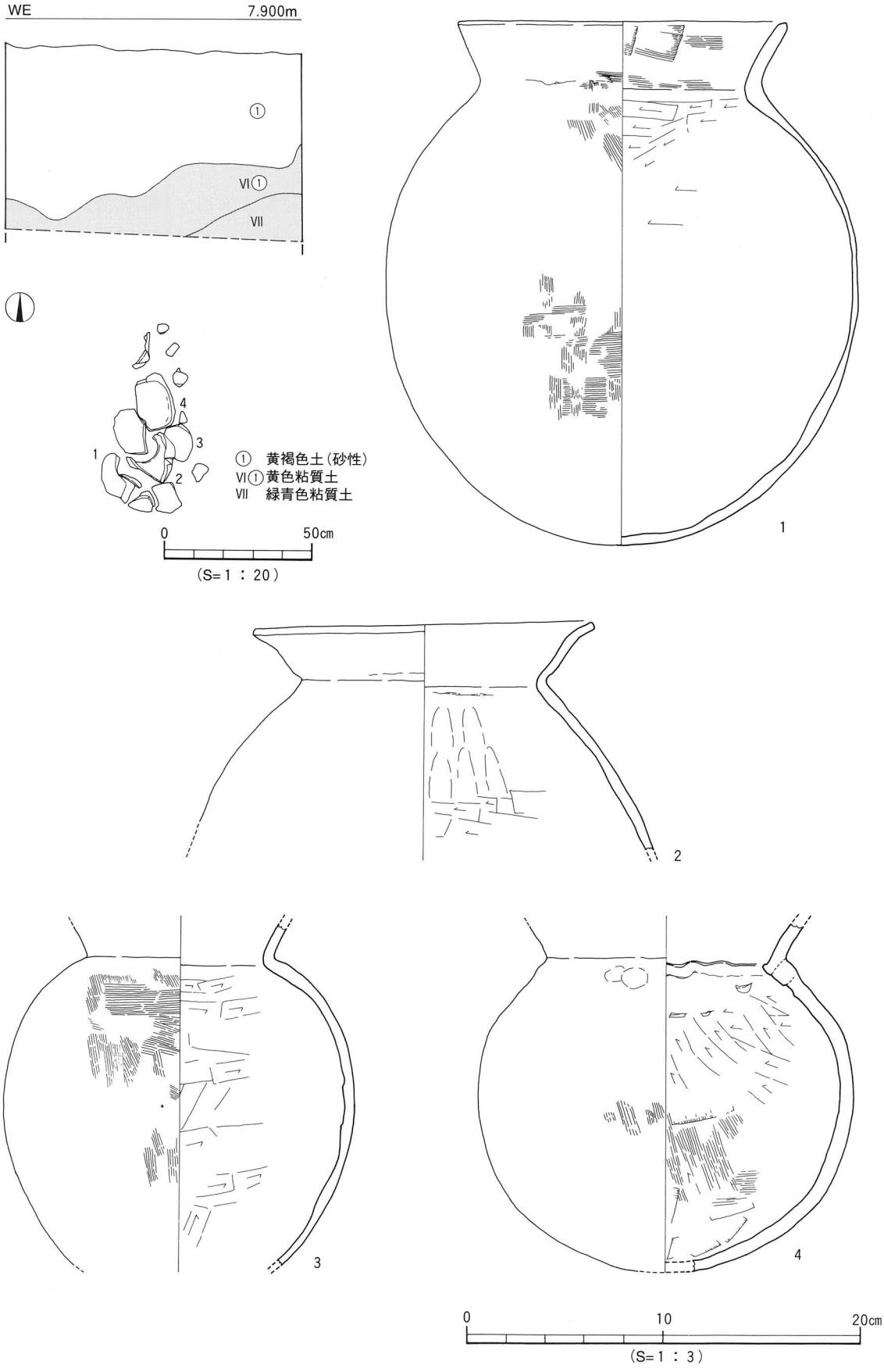
(1)　自然流路（SR）

SR 1（第3図）

調査区の中央部に全体の60％をしめる。SD3、SK6・14、SX14に切られる。西側に段をもち、南西から北西に湾曲している。規模は検出長24m、幅55m、深さ100cmを測る。底面は凹凸が著しい。

SR 1の調査は、時間的な関係からトレンチ調査となった。トレンチはグリッド杭に沿って東西方向と南北方向とに6本を設定した。東西方向のトレンチは、EF区の間とGH区の間とに2本、南北方向のトレンチは、4・5区の間、6・7区の間、8・9区の間、11・12区の間に4本を設定した。トレンチは幅1mで掘削し、土器が集中した地点では拡張を行った。遺物は測量と写真撮影を行い、取り上げた。埋土は、8つの土壌がブロック状に混合した状況で検出された。埋土の上層には基本層位の第Ⅴ層があり、調査地南壁とSR内で部分的に検出した。第VI層(地山)はほとんどの地区で検出したが、南東部では深掘りを行っても第VI層は検出されなかった。よって、南東部は深く落ち込むものと考えられる。出土遺物には、土師器、須恵器、弥生土器、石器、木材があり、特に木材の出土は多い。土器は完形品や大型片が多く、磨滅もみられない。器種は甕形土器と壺形土器とが多くを占める。

以下、遺物が集中出土した10地点について、地点ごとに出土状況を記述する。土層の測量図は、遺物が出土したトレンチの土層に限って掲載している。



第4図　SR 1 第1地点出土遺物測量図及び実測図

第１地点（第４図、図版４・８）

SR １中央西部のＦ12・13区、東西トレンチ内にある。検出土層は上部から黄褐色土（砂性）、黄色粘質土、緑青色粘質土となり、遺物は黄褐色土（砂性）から出土している。遺物は40×70cmの範囲で４個体が出土し、甕形土器１～３の３個体は重なり合い、甕形土器４は他の３個とは離れた位置で出土した。

出土遺物（１～４）

１～４は甕形土器。１は球形の体部に外傾する口縁部をもち、口縁端部は尖り気味に丸く仕上げる。２は肩の張らない胴部に、外傾し外反する口縁部をもつ。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。３は肩の張らない丸味のある胴部に、外傾する口縁部をもつ。内面にはケズリ痕が顕著である。４は球形の胴部に、外傾する口縁部をもつ。内面にケズリ痕が顕著に残る。

第２地点（第５図、図版４・８）

SR １南部のＩ７区、南北トレンチ内にある。トレンチ壁面で完形品と思われる土器を検出したため、西側に1.5×1.5mの範囲で拡張を行った。検出土層は上部から暗灰褐色土、茶褐色土、黄白色粘質土であり、遺物は茶褐色土から出土した。遺物は70×120cmの範囲で、掲載した土器３個体の土器と大型の胴部片が同じ高さで出土した。また、各々の出土状況は、甕形土器５は完形品で口縁部が上に向いて出土し、甕形土器６は口縁部が下に向いて出土した。壺形土器７は大型品で、底部から胴部までの破片は底部を下にした状態で出土し、口縁部片は胴部片内とその周辺から出土した。５・７は、出土状況から２つの土器を意図的に据え置いた可能性をもつ。

出土遺物（５～７）

５・６は甕形土器で、５は胴中位が最大径になり、胴部はわずかに長球形化する。口縁部は頸部で「く」の字状に折れ曲がり外傾する。口縁端部は丸味をもつ。６はやや肩の張る胴部と外傾する口縁部をもつ。口縁端部はナデにより内側に肥厚され、端面はくぼむ。７は壺形土器で、大型品になる。球形の体部には直立する短い頸部がつき、口縁部は外反後、内湾して上方に伸びる。口縁端部は尖り気味である。

第３地点（第６図、図版４・８）

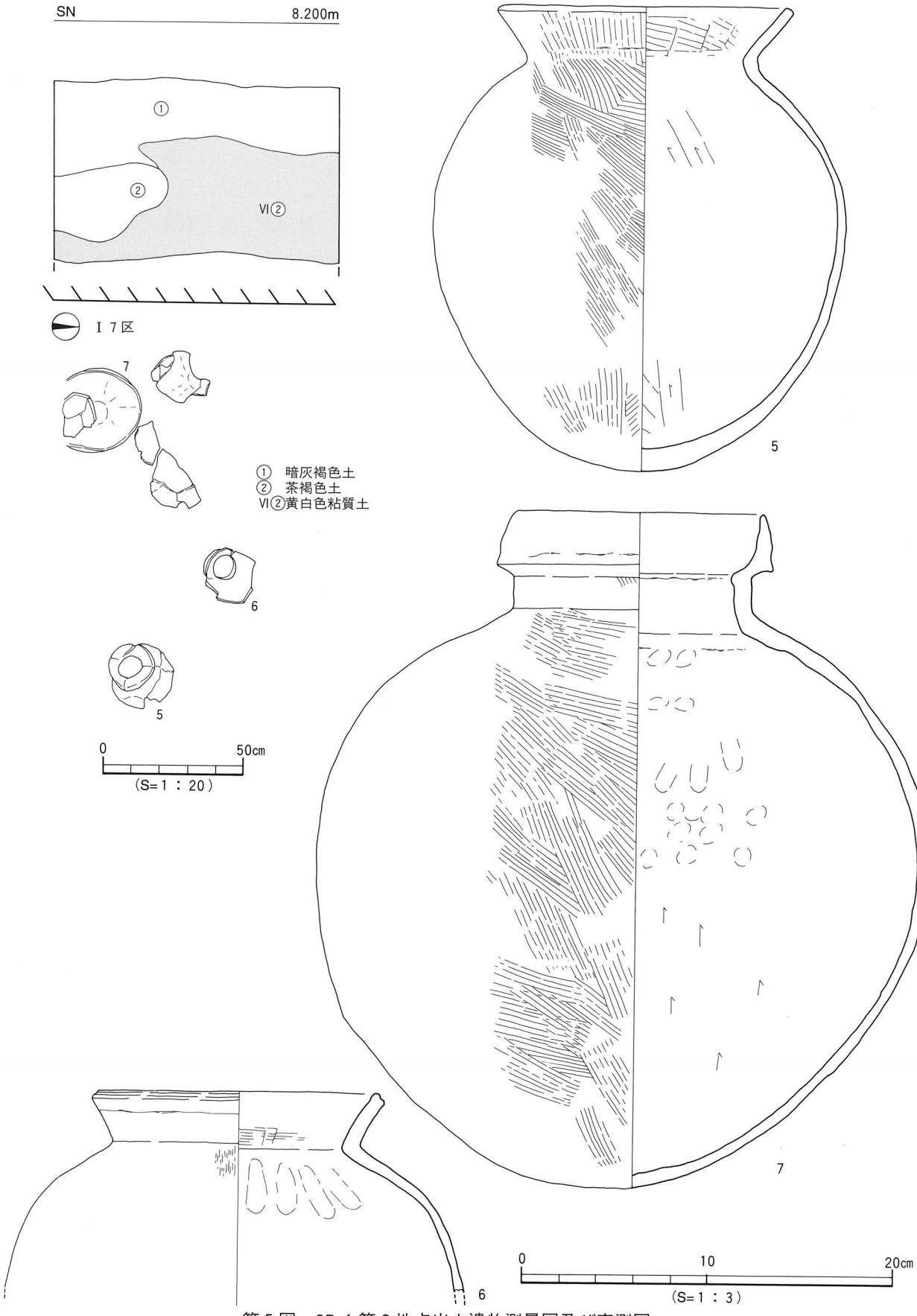
SR １中央東部のＦ７区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から暗灰褐色土、黒色土(粘性)、黄褐色土（砂性)、黄白色粘土と暗灰色粘土との混合土であり、遺物は黒色土（粘性）から出土した。遺物は壺形土器の完形品１点と60cm離れた位置から別個体の大型胴部片が出土した。壺形土器８は完形品が転倒し、土圧により胴部が押し潰された状況であった。

出土遺物（８）

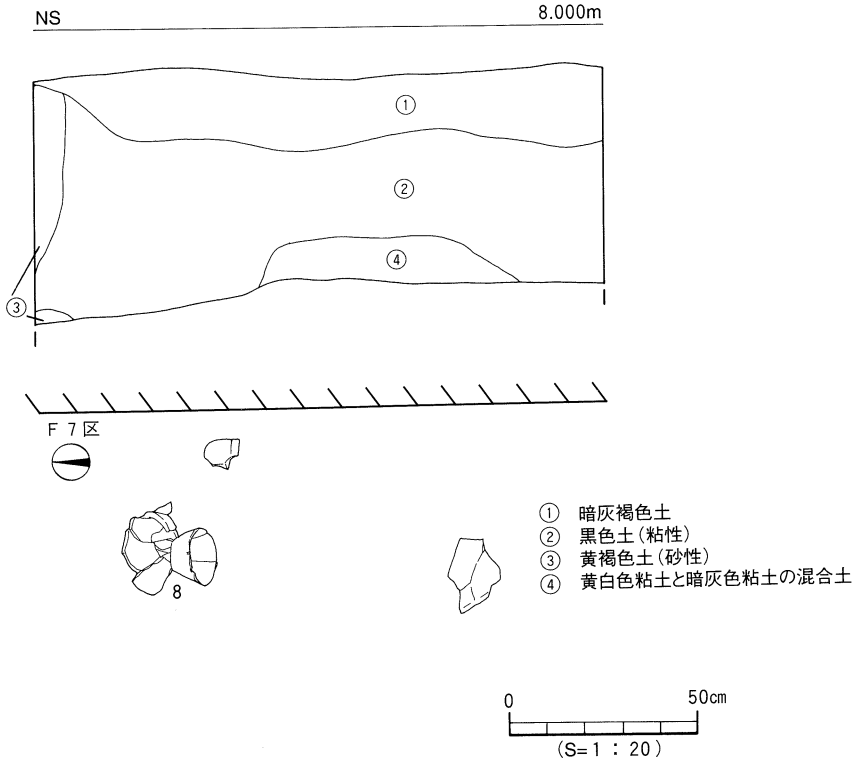
８は壺形土器の完形品である。球形の胴部に、外傾する長い口縁部をもつ。口縁端面はほぼ水平で丸い。胴部内面には、粘土接合痕が顕著に見られる。

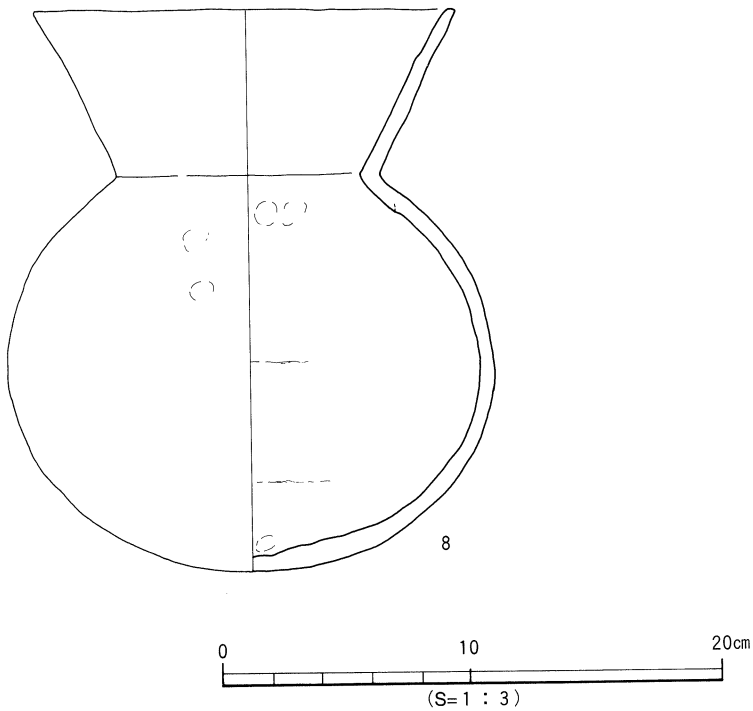
第４地点（第７図、図版９）

SR １中央東部のＦ７区、東西トレンチ内にある。検出土層は上部から黄褐色土（砂性)、緑灰色土（砂性）となり、遺物は緑灰色土（砂性）から出土した。遺物は50×50cmの範囲で検出し、出土状況

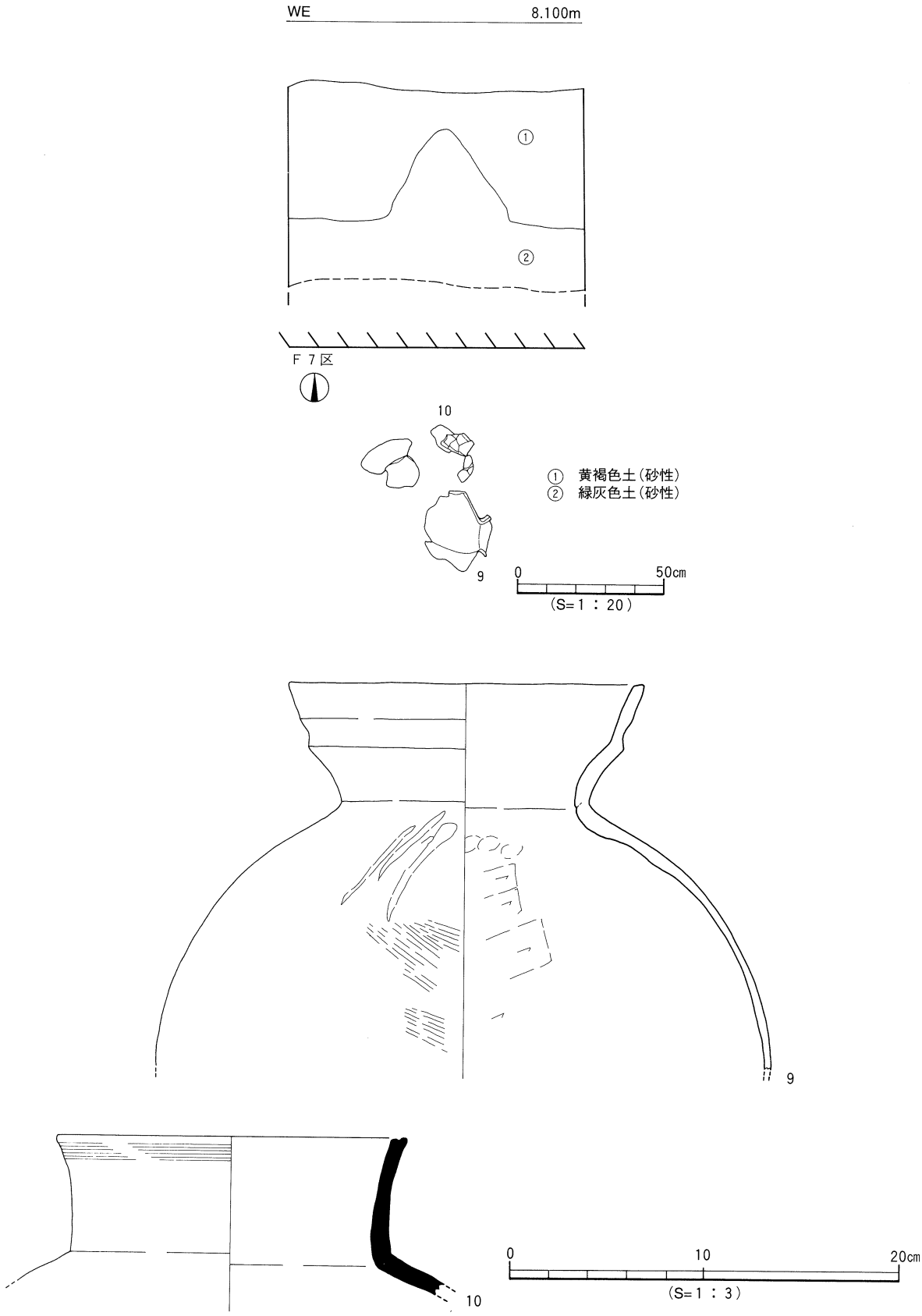


第5図　SR 1 第2地点出土遺物測量図及び実測図

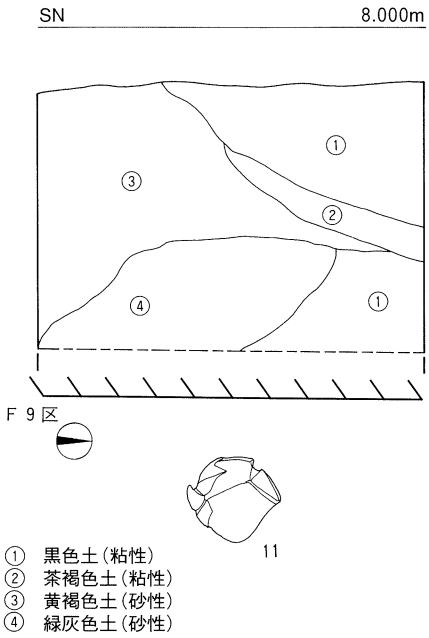




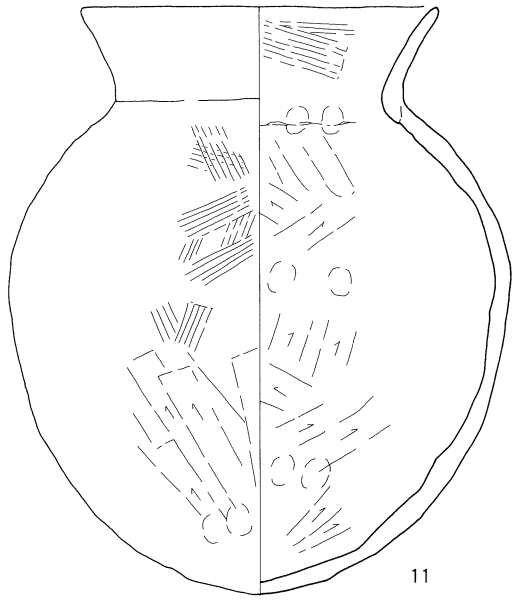
第6図　SR 1 第3地点出土遺物測量図及び実測図

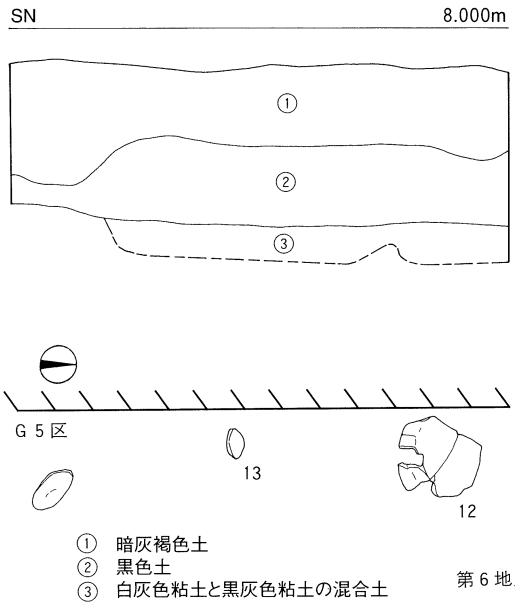


第7図　SR 1 第4地点出土遺物測量図及び実測図

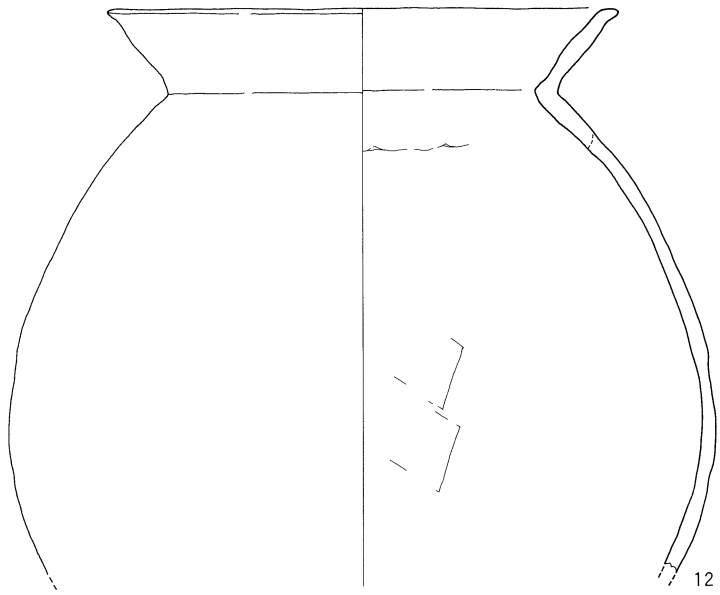


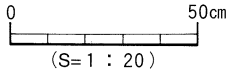
第 5 地点

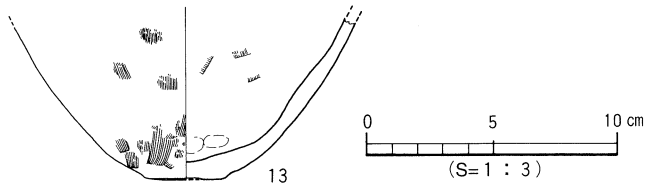




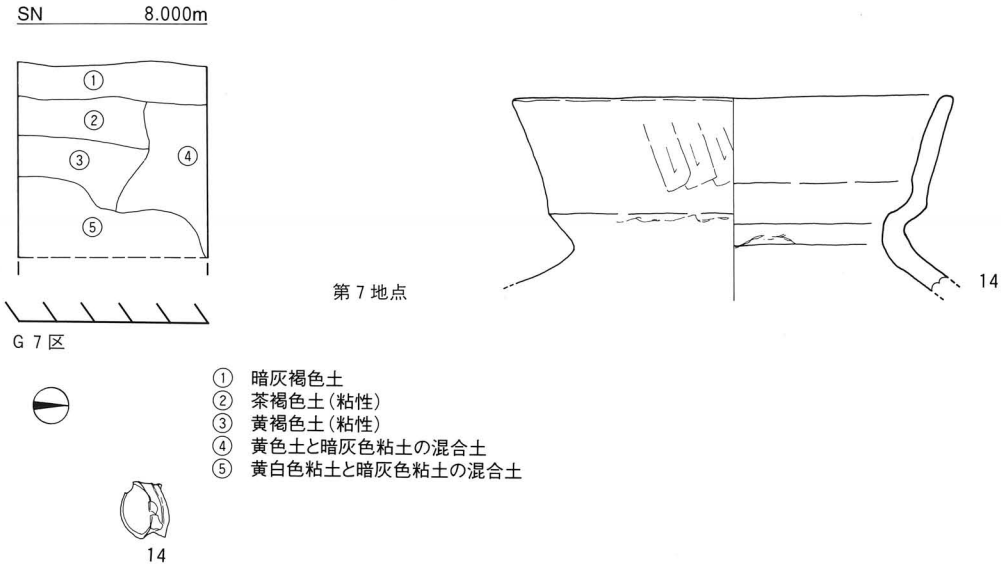
第 6 地点

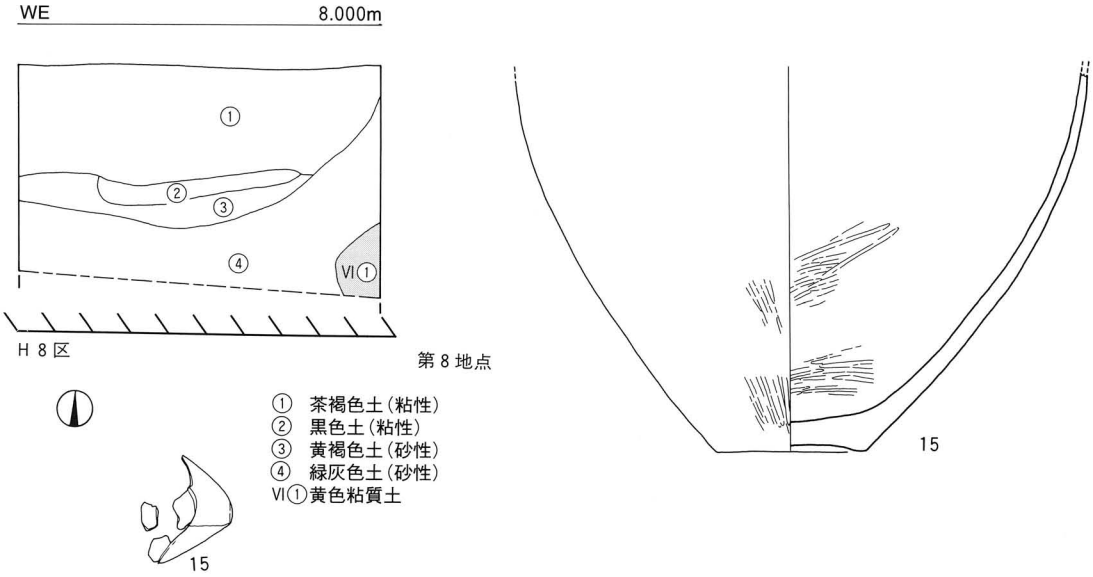


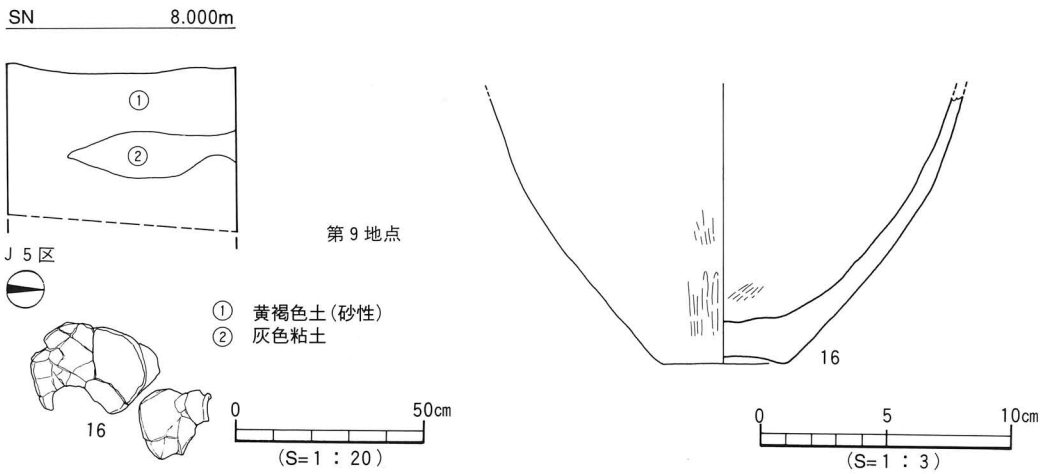




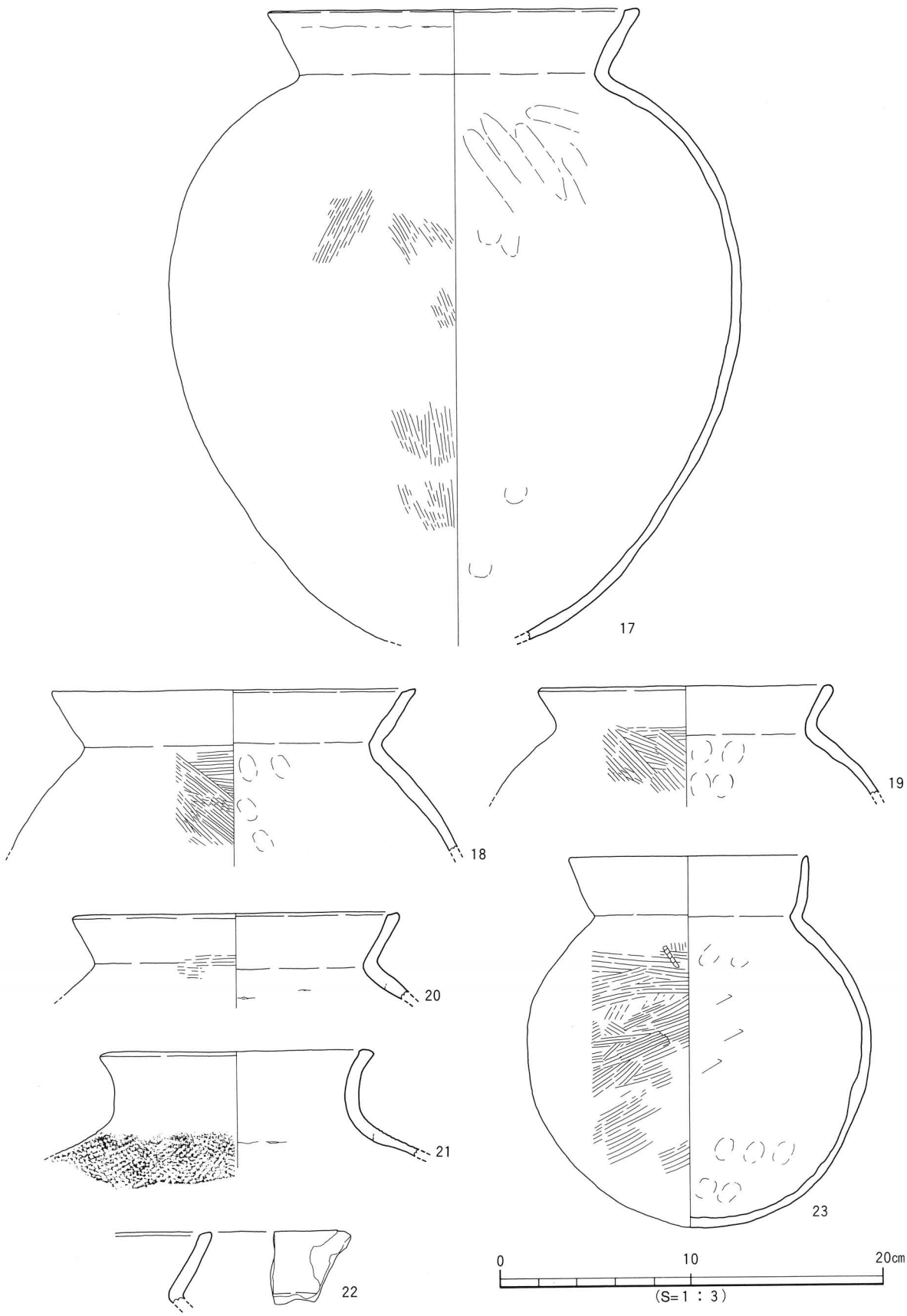
第 8 図　SR 1 第 5 ・ 6 地点出土遺物測量図及び実測図



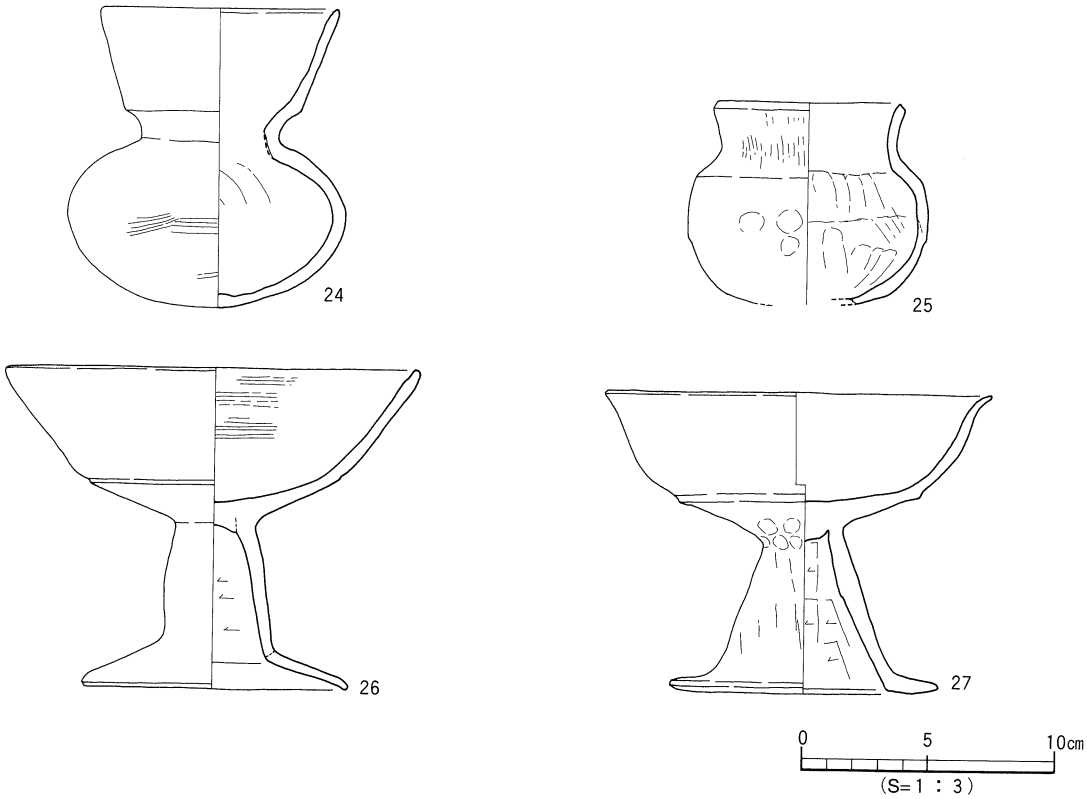




第 9 図　SR 1 第 7 ・ 8 ・ 9 地点出土遺物測量図及び実測図



第10図　SR 1 第10 地点出土遺物実測図(1)



第11図　SR 1 第10 地点出土遺物実測図(2)

は土師器の壺形土器と須恵器の壺形土器とが同じ高さで隣り合っていた。

出土遺物（9・10）

9は壺形土器で、肩部から口縁部までの残存である。口縁部は外傾して中位で段をもち、口縁端部はわずかに内傾し面をもつ。肩部は緩やかな曲線を描き、外面にはヘラ状工具による太い工具痕が縦方向に3条ある。10は須恵器の壺形土器で、頸部から口縁部までが遺存する。口縁部はわずかに外反し、口縁端部はナデによりくぼむ。口縁部外面にはカキメ調整が残る。

第5地点（第8図、図版9）

SR 1中央部のF 9区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から黒色土（砂性）、茶褐色土（粘性）、黄褐色土（砂性）、緑灰色土（砂性）を検出し、遺物は緑灰色土（砂性）から土師器の甕形土器の大型片が1点出土した。

出土遺物（11）

11は甕形土器である。球形の胴部は、最大径が胴中位のやや上にある。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸い。

第6地点（第8図）

SR 1東部のG 5区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から暗灰褐色土、黒色土、白灰色粘土と黒灰色粘土の混合土であり、遺物は白灰色粘土と黒灰色粘土の混合土内から出土した。遺物は120cm四方の範囲で大型片を検出し、土師器2点が同じ高さで、50cm離れた位置にあった。

出土遺物（12・13）

12は甕形土器で、口縁部から胴部までが遺存する。緩やかな曲線を描く胴部に、外傾する口縁部をもつ。口縁端部はナデにより水平で幅広になる。13は壺形土器の底部片で、丸味をもつ。

第7地点（第9図、図版9）

SR 1東部のG 7区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から暗灰褐色土、茶褐色土（粘性）、黄褐色土(粘性)、黄色土と暗灰色粘土の混合土、黄白色粘土と暗灰色粘土の混合土である。遺物は黄色土と暗灰色粘土の混合土から出土した。出土状況は土師器の壺形土器の大型片が横向きで検出されている。

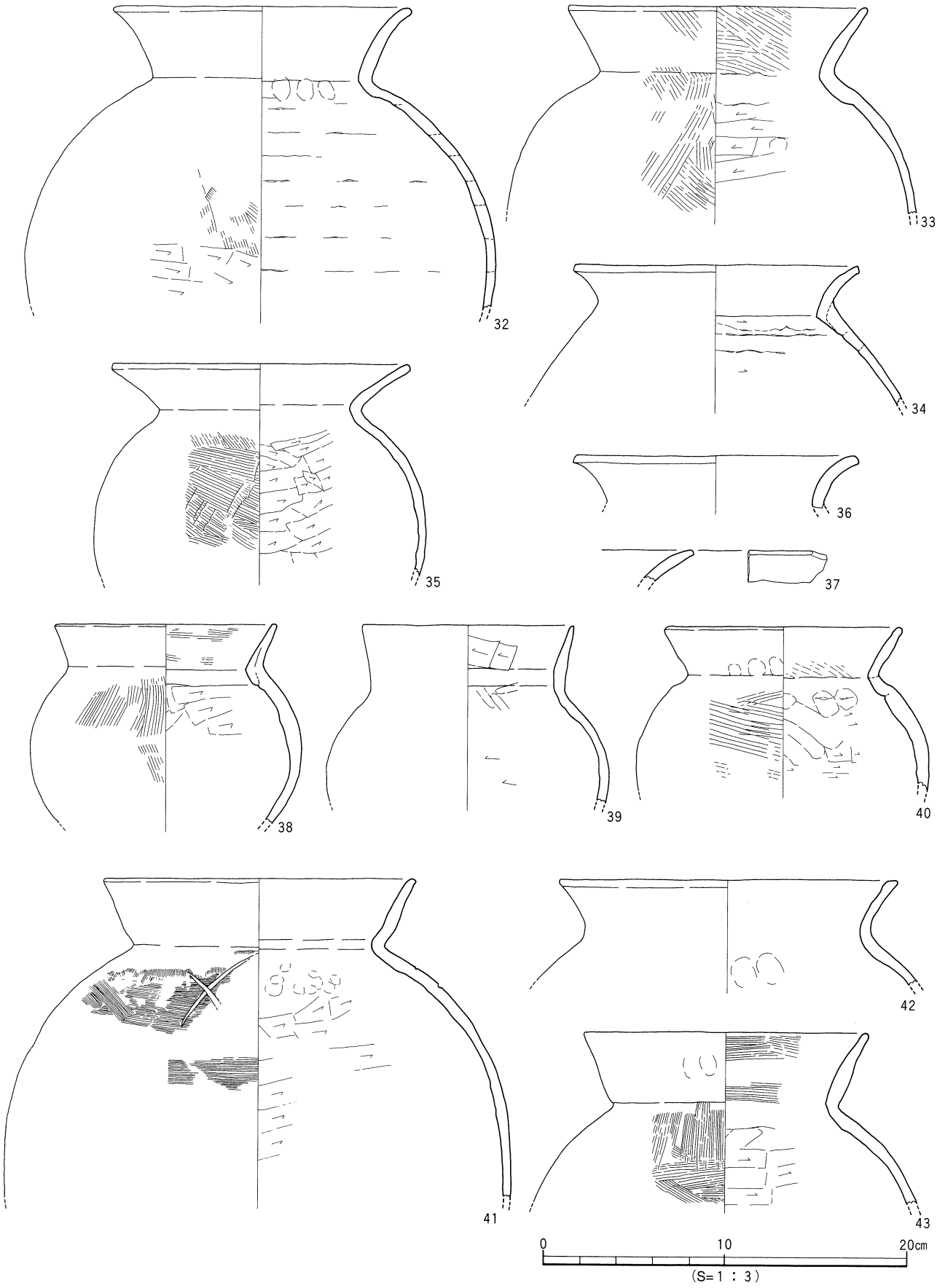
出土遺物（14）

14は壺形土器である。口縁部は短く外反したのち、長く上外方に立ち上がる。口縁端部は丸味をもって、わずかに水平面をもつ。

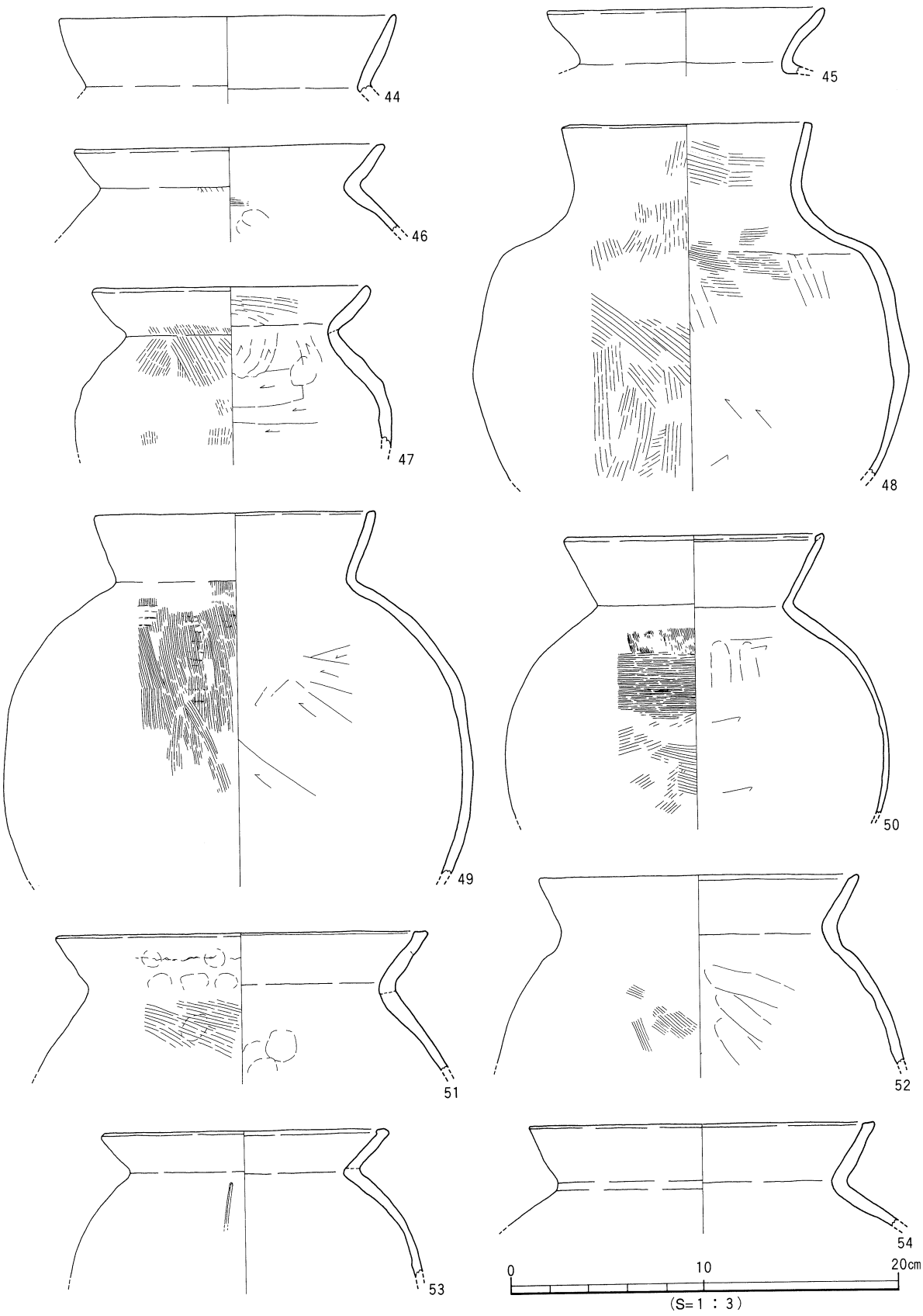
第8地点（第9図）

SR 1中央部のH 8区、東西トレンチ内にある。検出土層は上部から茶褐色土（粘性）、黒色土（粘性）、黄褐色土（砂性）、緑灰色土（砂性）、黄色粘質土であり、遺物は黄褐色土（砂性）から土師器1点が出土した。出土品は土師器の壺形土器で、底部から胴部までの大型片である。底部を横に向けた状況で検出した。

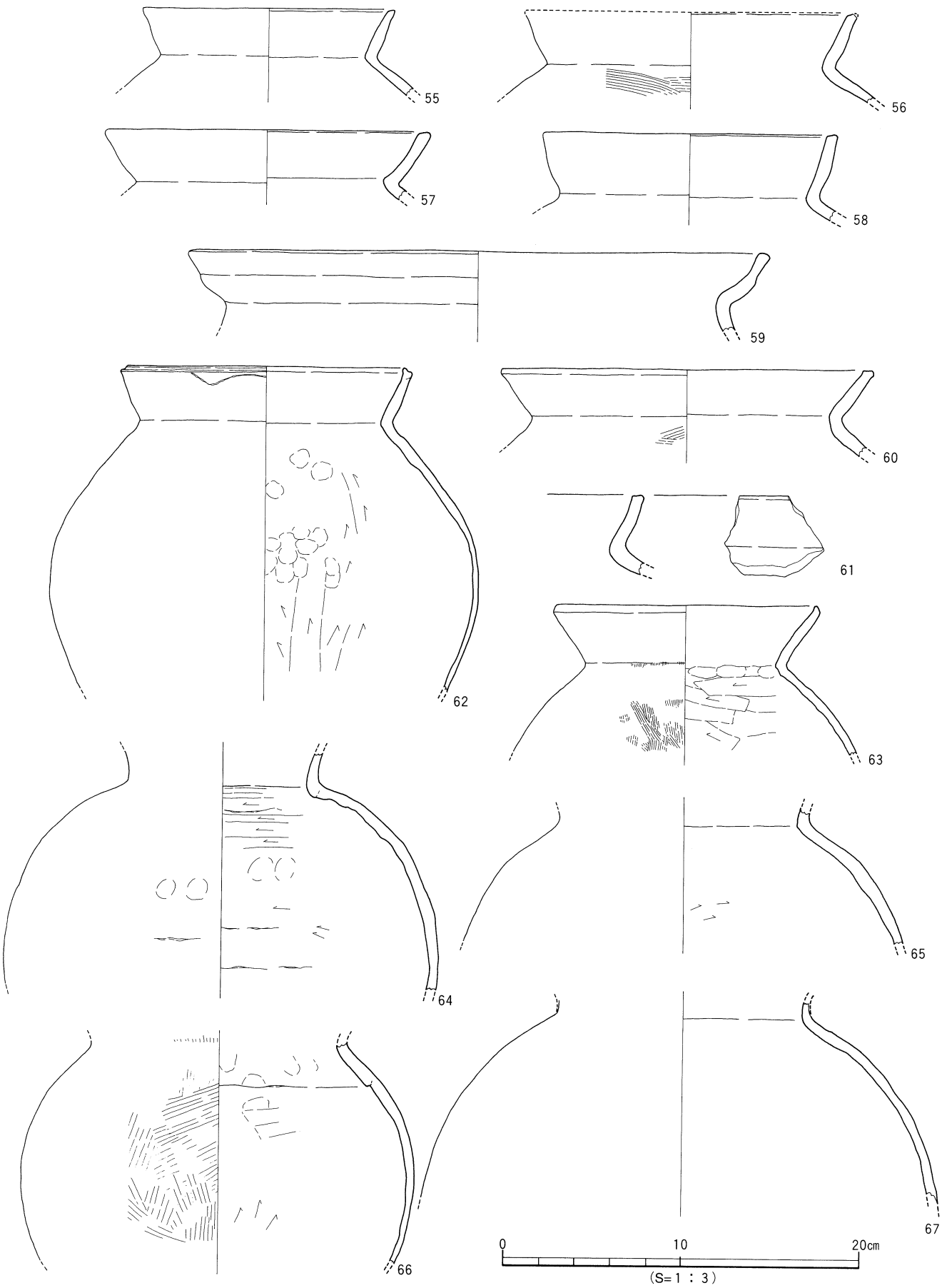
出土遺物（15）



第12図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(1)



第13図　SR 1グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(2)



第14図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(3)

15は壺形土器で、底部から胴部までが遺存する。わずかに上がる底部と、外傾して立ち上がる胴部をもつ。

第9地点（第9図）

SR 1南東部のJ 5区、南北トレンチ内にある。検出土層は黄褐色土（砂性）と、この層に含まれる灰色粘土を確認し、遺物は黄褐色土（砂性）から出土した。出土状況は、土師器の壺形土器の底部片と胴部片とが破損した状況で出土した。

出土遺物（16）

16は壺形土器で、底部から胴部までが遺存する。わずかに上がる底部と、外傾して立ち上がる胴部をもつ。

第10地点（第10・11図、図版9・10）

SR 1南東部のJ 3区にある。遺物はSR 1東岸のテラス状の浅いくぼみ（2×2m）から出土した。埋土は黄褐色土で、上層には第Ⅴ層黒色粘質土がある。出土遺物には土師器の甕形土器、壺形土器、高坏形土器があり、完形品や大型破片が多数ある。このうち甕形土器23、壺形土器24、高坏形土器26・27は底面近くに集中して出土している。また、出土品には韓国系軟質土器の口縁部片と、弥生土器が少量含まれる。

出土遺物（17～31）

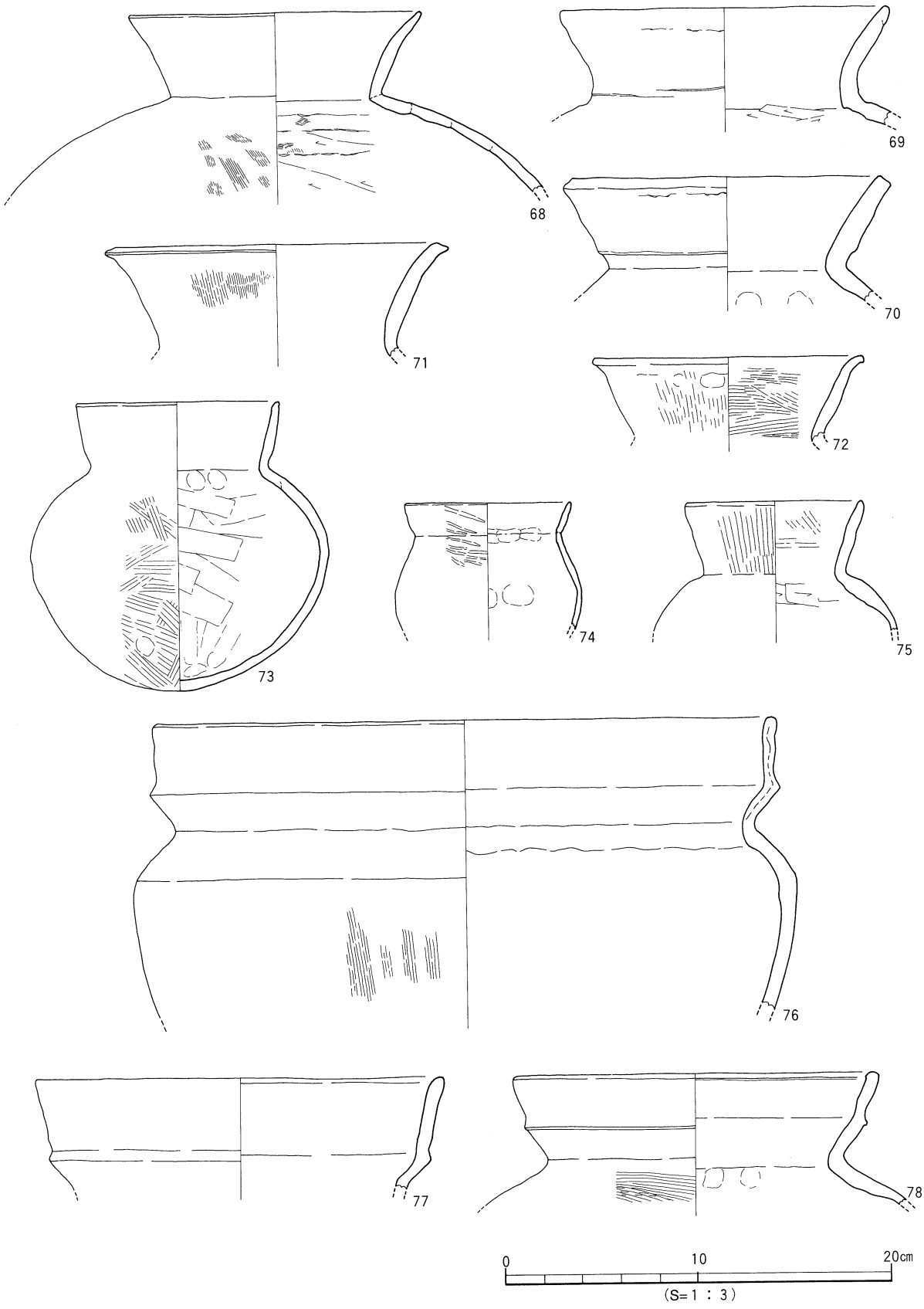
17～23は甕形土器である。17は大型品で、口縁部から胴部までが遺存する。やや肩の張る胴部は胴中位やや上が最大径になる。口縁部は「く」の字状で、口縁端部はナデにより水平な面をもつ。18の口縁部は「く」の字状で、口縁端面はナデにより内傾する。19の口縁部は「く」の字状で、口縁端部は厚く丸味をもつ。20は「く」の字状の口縁部で、口縁端部はナデにより内傾し面をもつ。21は韓国系軟質土器である。直立して外反する口縁部は口縁端部がナデにより肥厚される。外面には格子目状のタタキ痕が残る。22は口縁部片で、口縁部はわずかに内湾して立ち上がり、口縁端部はナデにより内傾する。23は完形品で、球形の胴部をもつ。口縁部は歪みがあり、外傾する部分と直立する部分とがある。

24・25は壺形土器である。24は小型品で、扁球形な胴部に短く外反して、外上方に長く伸びる口縁部をもつ。口縁端部は尖り、丸味をもつ。25は小型品である。緩やかな曲線の胴部に、直立気味に外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸味をもつ。内外面には指ナデ痕や指頭痕が見られ、粗製の土器である。

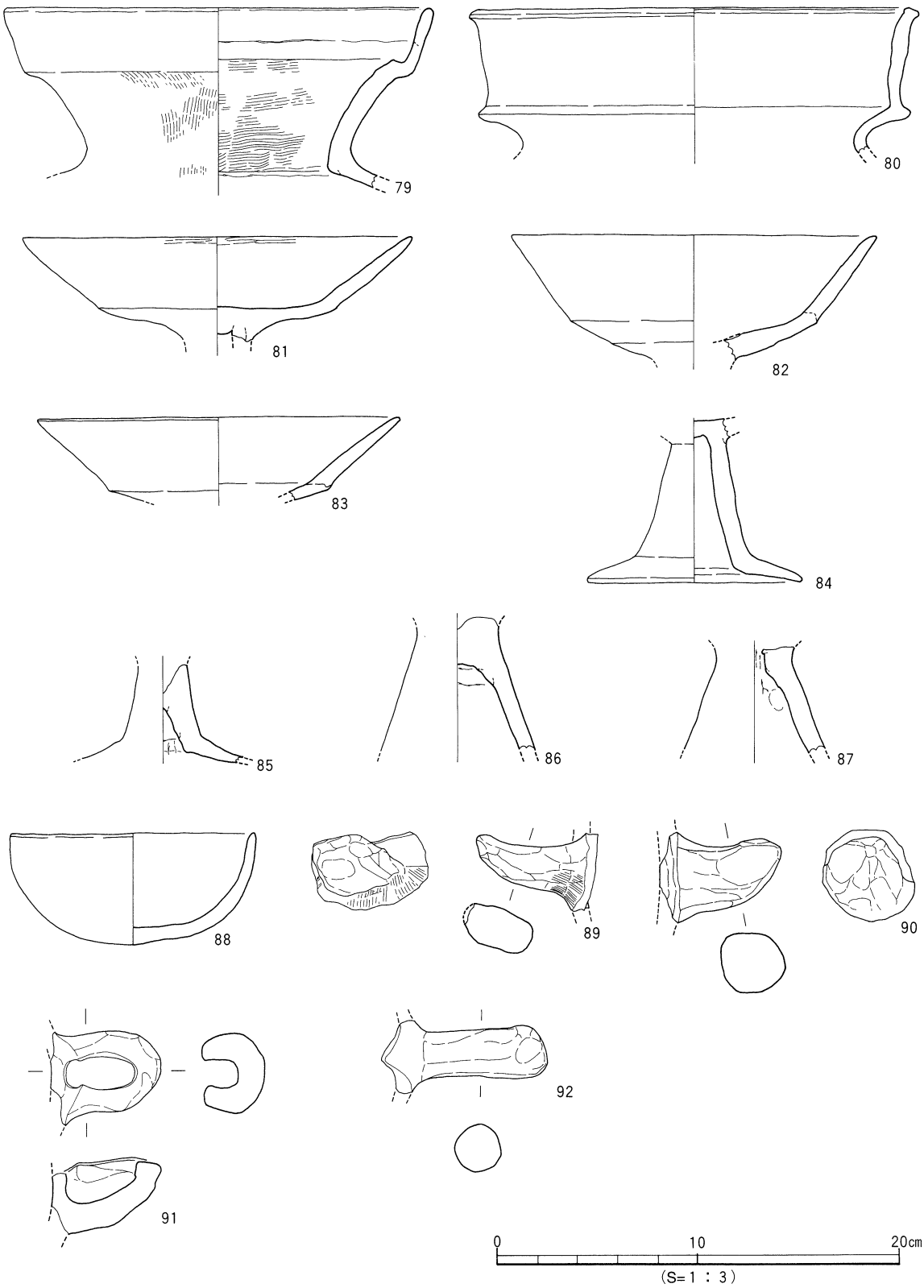
26・27は高坏形土器である。26は直立気味にわずかに開く柱部に、大きく広がる短い裾部をもつ。坏部は口縁部が外傾して立ち上がり、わずかに内湾する。口縁部と坏底部との境は段をなす。口縁端部はナデにより丸く、内面にはわずかに段がある。27の坏部は口縁部が外傾し、内湾しながら立ち上がる。口縁端部は外反する。柱部は円錘形をなし、裾部は水平に開き、端部は尖り丸い。

28～31は弥生土器である。28・29は甕形土器で、28の口縁部は折り曲がり、29は平底の底部片である。30は壺形土器の底部片。31は支脚形土器で、角状突起が1ケ残る。上部には貫通孔をもつ。

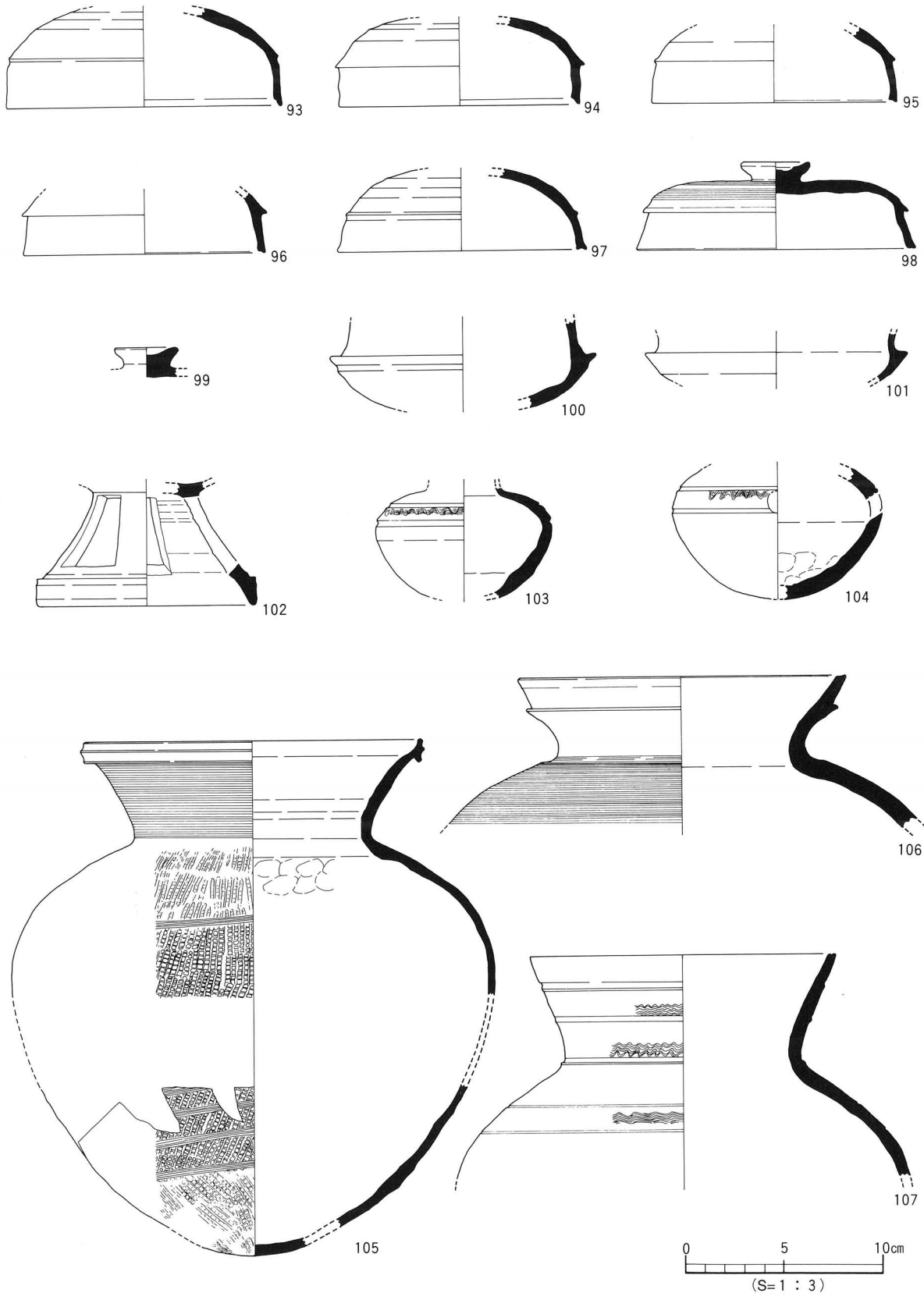
SR 1グリッド・出土地点不明出土遺物（第12～23図、図版10～14）



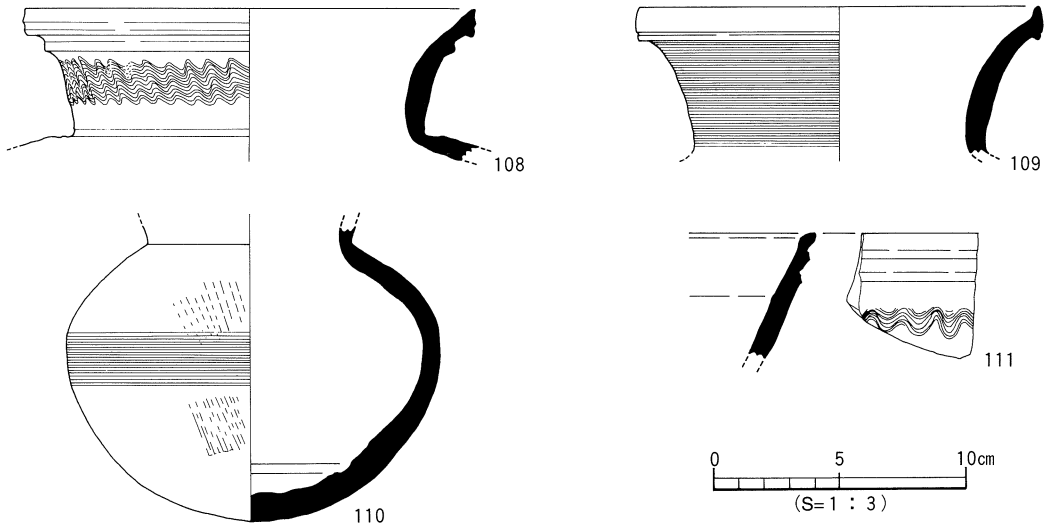
第15図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(4)



第16図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(5)



第17図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(6)



第18図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(7)

第12～23図の遺物は、トレンチ掘削時とSR上面の精査時に出土したものである。遺物には土師器、須恵器、弥生土器がある。土師器は東区から出土したものが多数を占め、須恵器はほとんどが西区からの出土である。弥生土器は東西の両調査区から出土している。ここでは注目される遺物について説明を行う。

土師器

甕形土器（32～67）32はなだらかな曲線の胴部に、外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸く、胴部内面には粘土巻き上げ痕が顕著に見られる。35は大きく外傾しわずかに内湾する口縁部をなす。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。38は球形の胴部に外傾する口縁部がつき、口縁端部は先細りする。41は外傾する口縁部をもち、口縁端部は丸味をもつ。胴部は長球形になると思われる。肩部には「メ」の字状のヘラ記号がある。48は直線的に外傾する口縁部をもち、口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。肩部と胴中位に緩やかな稜をもつ。50は球形の胴部に、外傾する口縁部をもつ。口縁端部は内面に粘土を貼付け、内側に突出する。器壁はケズリにより薄く作られている。51・54は外傾する口縁部をもち、口縁端部は水平面をなし、ナデによりややくぼむ。59は大型品である。口縁部は外傾後、短く屈曲する。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。62は胴部から口縁部までが遺存する。胴部は最大径を上半部にもち、口縁部は外傾し、内湾して立ち上がる。口縁端面はナデによりくぼむ。

壺形土器（68～75・77～80）68は大きく肩の張る胴部に、外反する口縁部をもつ。口縁端部は先細りし丸い。70は外傾する口縁部をもち、口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。頸部にはナデによる段が見られ、器壁は厚い。73は完形品で、球形の胴部に直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部は尖り気味に丸い。78の口縁部は外傾して中位で屈折する。口縁端部は丸く、口縁部全体が内側に肥厚される。79は口縁部が大きく外反して、口縁上位で屈曲し短く立ち上がる。口縁端部は丸い。80の口縁部は短く外反し、段をなして屈曲したのち外反気味に立ち上がる。口縁端部は肥厚され、内外面をわずかに拡張する。

鉢形土器（76）76は口縁部から胴部までが遺存する。口縁部は短く外傾したのち、屈折して直立気味に立ち上がる。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。

甑形土器（89～92）89～92は把手部である。89～91は舌状の把手で、断面形は89が隅丸長方形で、

90は丸くなる。91は上部が溝状にくぼんでいる。92は棒状で、水平に伸び、断面形は丸くなる。

須恵器

坏(93～101) 93～99は坏蓋である。98は平坦な天井部に、中央部がくぼむつまみが付く。口縁部は「ハ」の字状に広がり、端部はくぼむ。天井部と口縁部とを分ける稜は断面三角形になる。100・101は坏身片である。

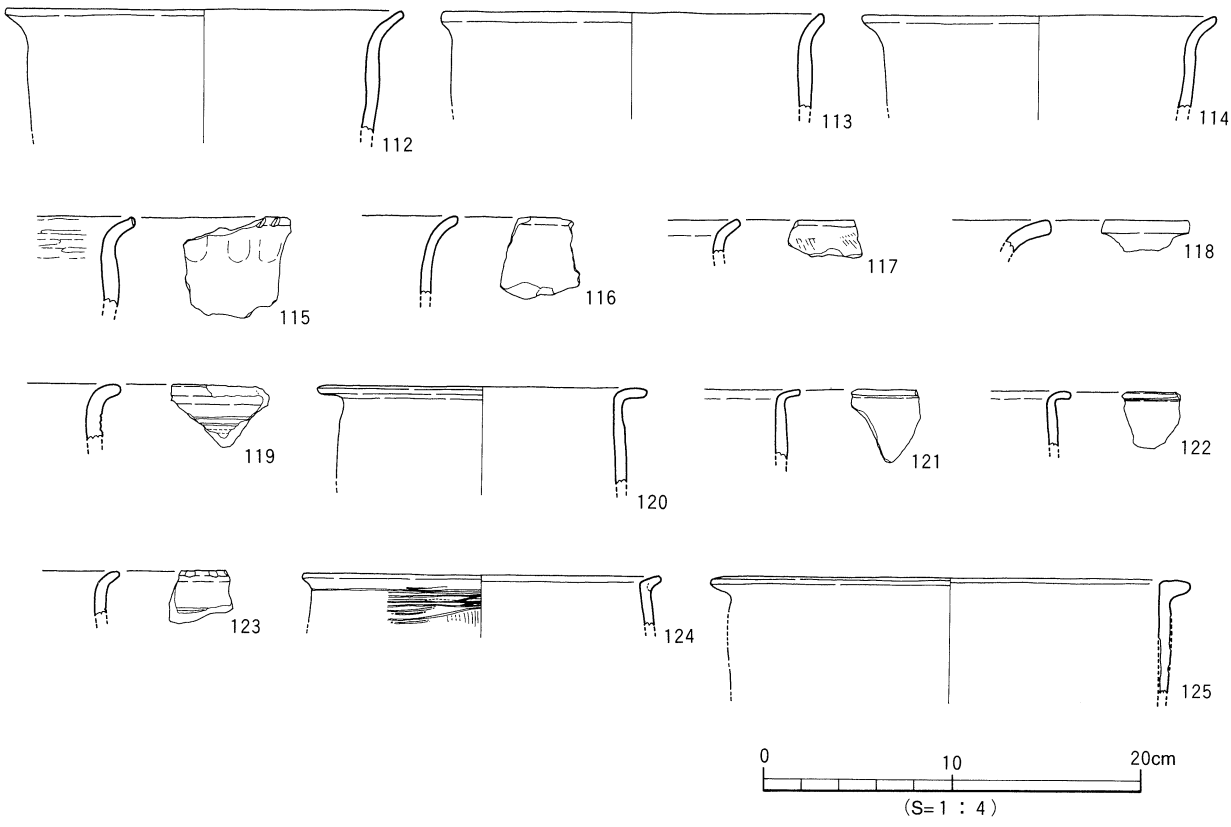
高坏 (102) 102は「ハ」の字状に広がる脚部で、台形状の透かしを施す。

甕 (103・104) 103は小型品で肩が張る。103・104の胴上半部には沈線文2条と波状文を施す。

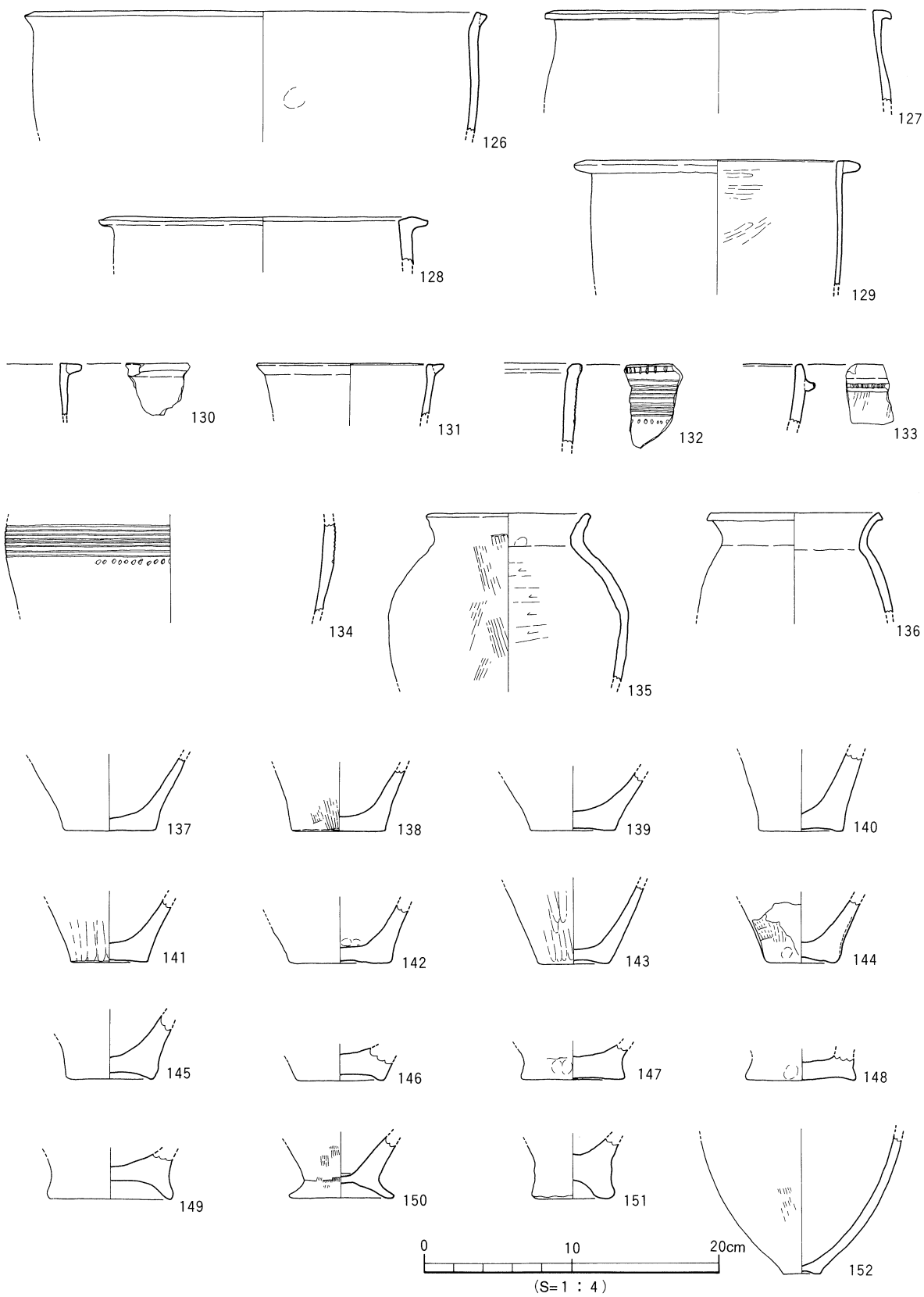
壺 (105～110) 105は口縁部が大きく外反し、口縁端部は上下に拡張される。胴部外面にタタキ痕が残る。106は口縁部の中位に段をもつ。口縁端部はわずかに内傾し、口縁端面の中央部がわずかにくぼむ。107は外傾する長い口頸部をもつ。口縁端部は水平で、中央部がわずかにくぼむ。頸部から口縁部までの外面には凸帯文3条と波状文2条、胴部には沈線文2条と波状文1条を施す。108は外傾して外反する口縁部をもつ。口縁端部は下方に伸びる。口縁部直下には1条の凸帯文、頸部には幅広の波状文を施す。

器台 (111) 高坏形器台の坏部片である。口縁部直下には段をもち、口縁端部は内傾する。

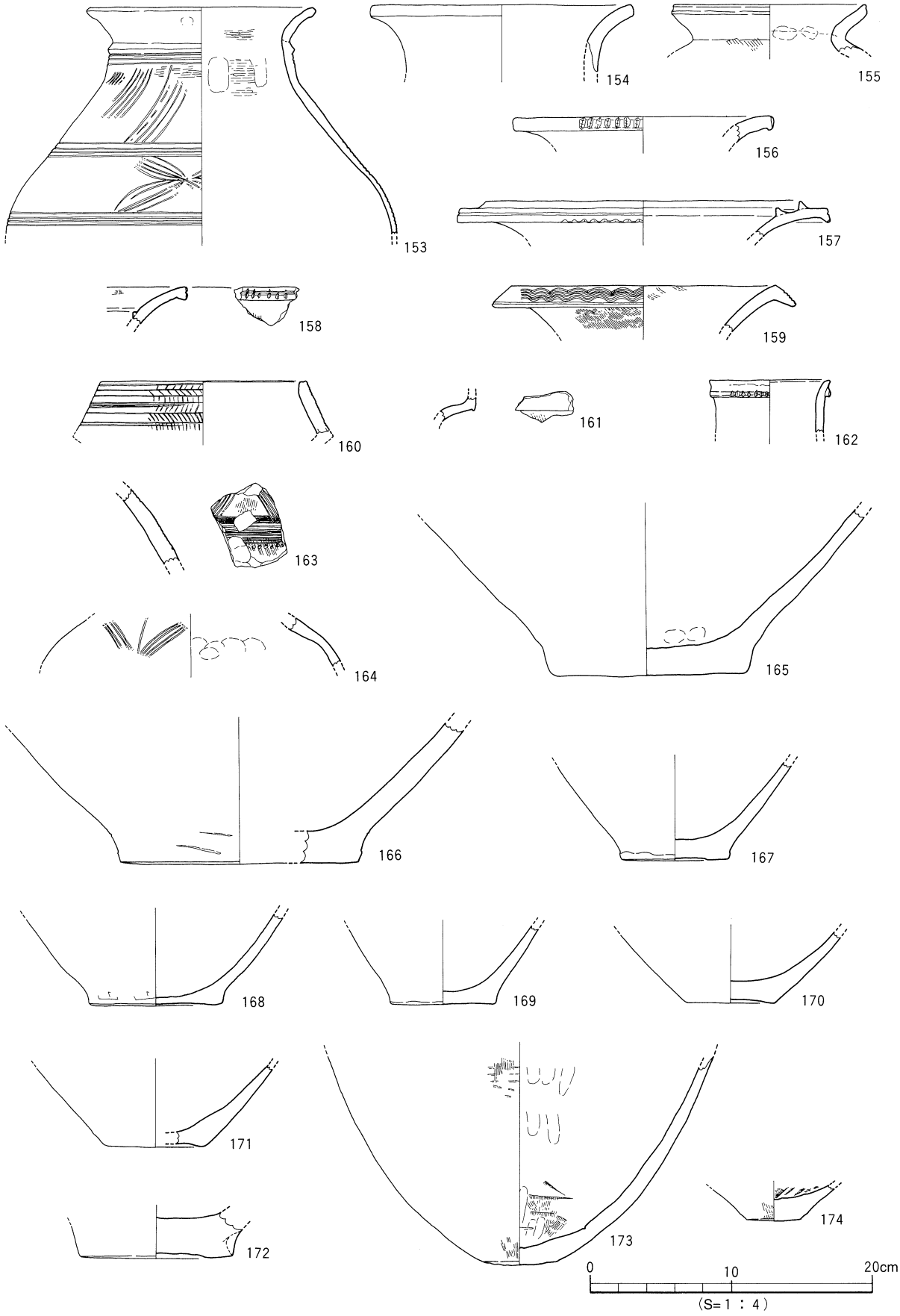
石製品 (193～197) 193・194は石斧である。193は伐採斧で、刃部は欠損している。断面は丸味のある長方形で、全面に研磨が行われ、側面に使用痕 (敲痕) が見られる。194は加工斧で、残存面には研磨がみられる。195はスクレイパーで、一部に自然面が残る。196は大陸系磨製石器で、器種は不明である。背の部分には明瞭な稜をもち、片面に縞をもつ。全面に丁寧な研磨が行われている。197は礫石錘である。小口面には紐掛け用の抉りを打ち欠いている。



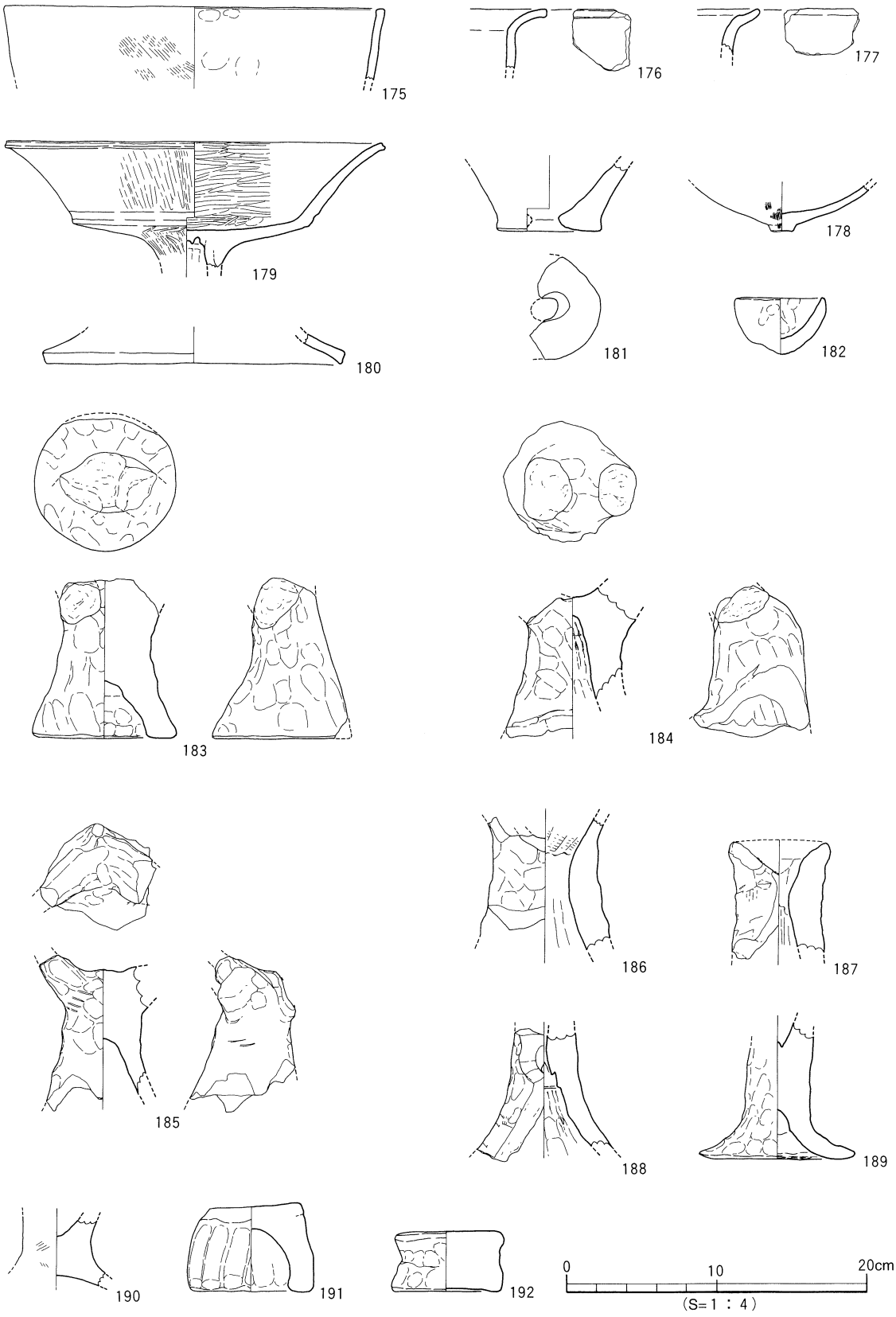
第19図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(8)



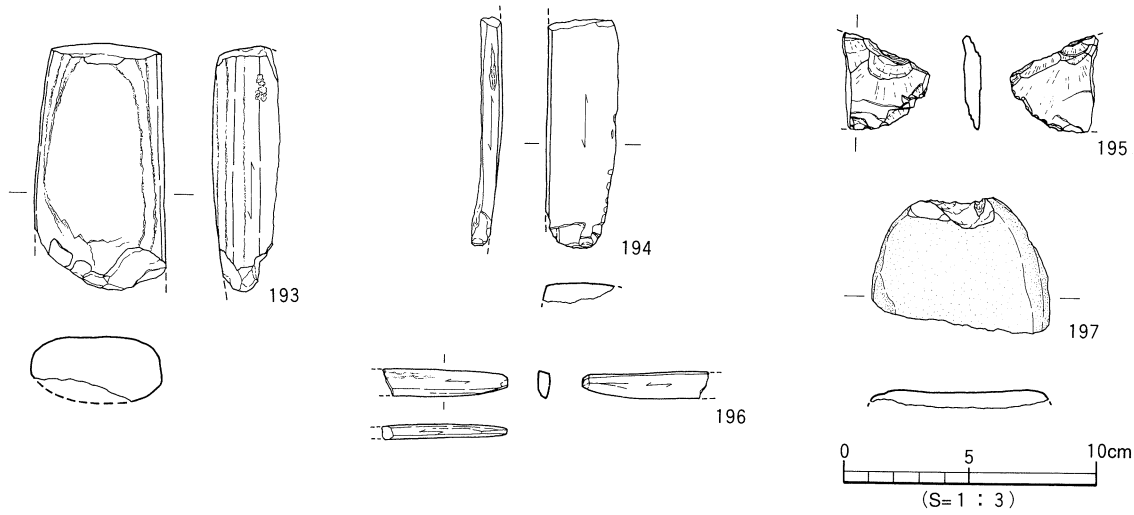
第20図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(9)



第21図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(10)



第22図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(11)



第23図　SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(12)

時期：SR 1 は、出土した遺物の形態から 5 世紀前半とする。

(2) 溝（SD）

SD 5 （第24図）

調査区西のD21区に位置しSX17を切る。規模は検出長3.0m、幅0.2m、深さ5cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

時期：遺物は出土していないが埋土から 5 世紀末と考えられる。

SD 6 （第25図）

調査区北西のB20～D22区に位置しSX17を切りSD 1・2 に切られる。規模は検出長1.1m、幅0.6m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、石器が出土した。

出土遺物（第26図）

198は弥生土器の支脚形土器である。裾部はわずかに開き上げ底状である。199～206は土師器。199～201は甕形土器の口縁部片である。199は外傾する口縁部の端部は丸い。200は緩やかな頸部に外傾する口縁部の端面は外側に面をもつ。201は外傾する口縁部の端面は水平気味に丸い。202は高坏形土器の柱部である。203～205は埦形土器である。203の口縁部はわずかに内湾し端部は尖り気味に丸い。204・205の口縁端部は内傾する面をもつ。206は甑形土器の把手である。接合面に突起するボタン状の粘土を貼り付ける。207～211は須恵器。207～210は坏蓋片である。207の口縁部は内湾気味に接地し端面は内傾し段をもちくぼむ。208は直立する口縁部の端部は尖り気味である。209は直立気味に接地する口縁部の端部はくぼむ。210はわずかに開く口縁部の端面は内傾してわずかにくぼむ。211は埦形土器である。口縁部は内湾気味に立ち上がり端部手前で段をもち外反し端部は尖り気味である。外面に凹線文 2 条と波状文を施す。

時期：出土した遺物と埋土から 5 世紀末と考えられる。

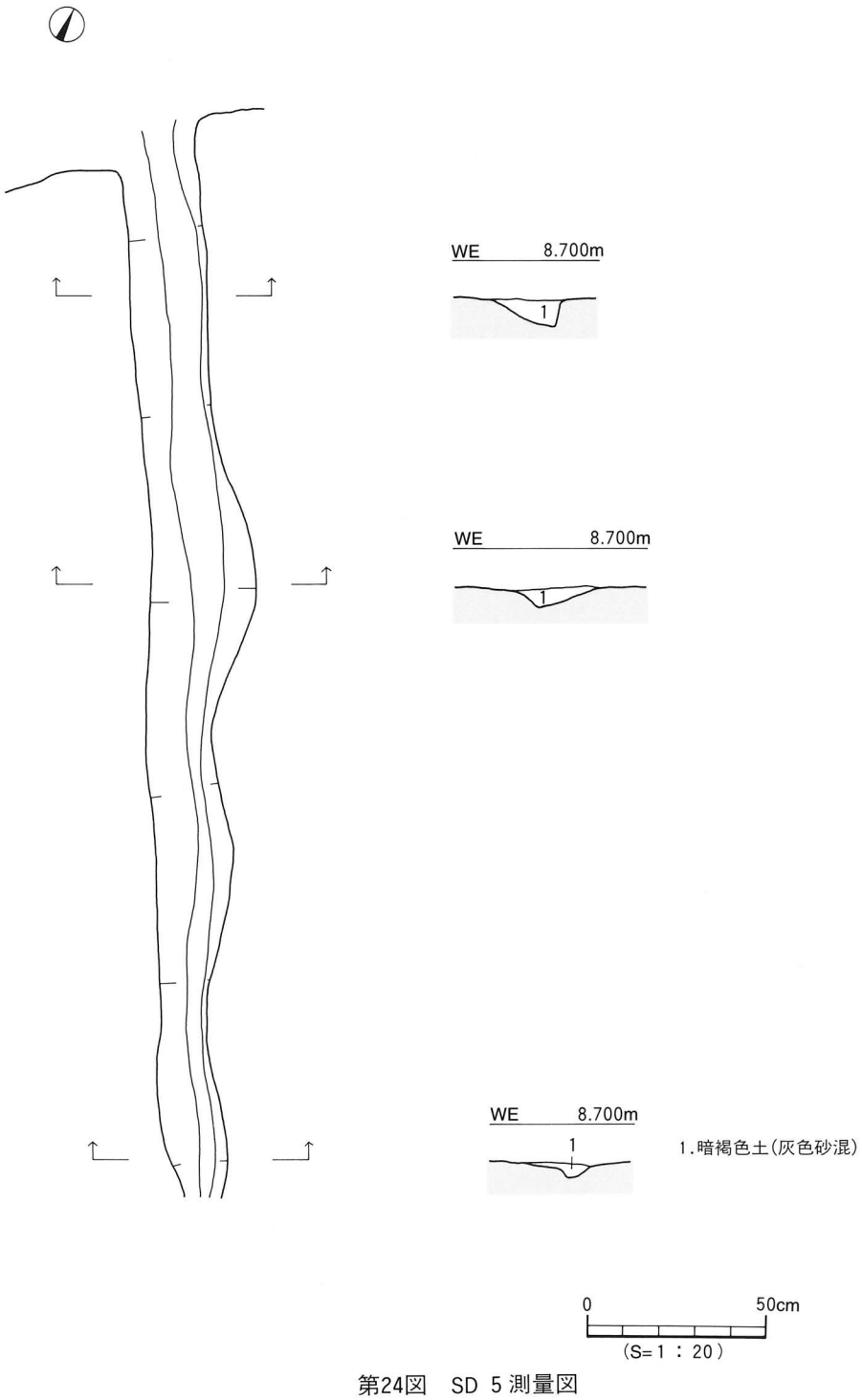
SD 7 （第27図）

調査区西のC20～E19区に位置しSD 6に切られ、一部分途切れる所がある。規模は検出長5.0m、幅0.3m、深さ3cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

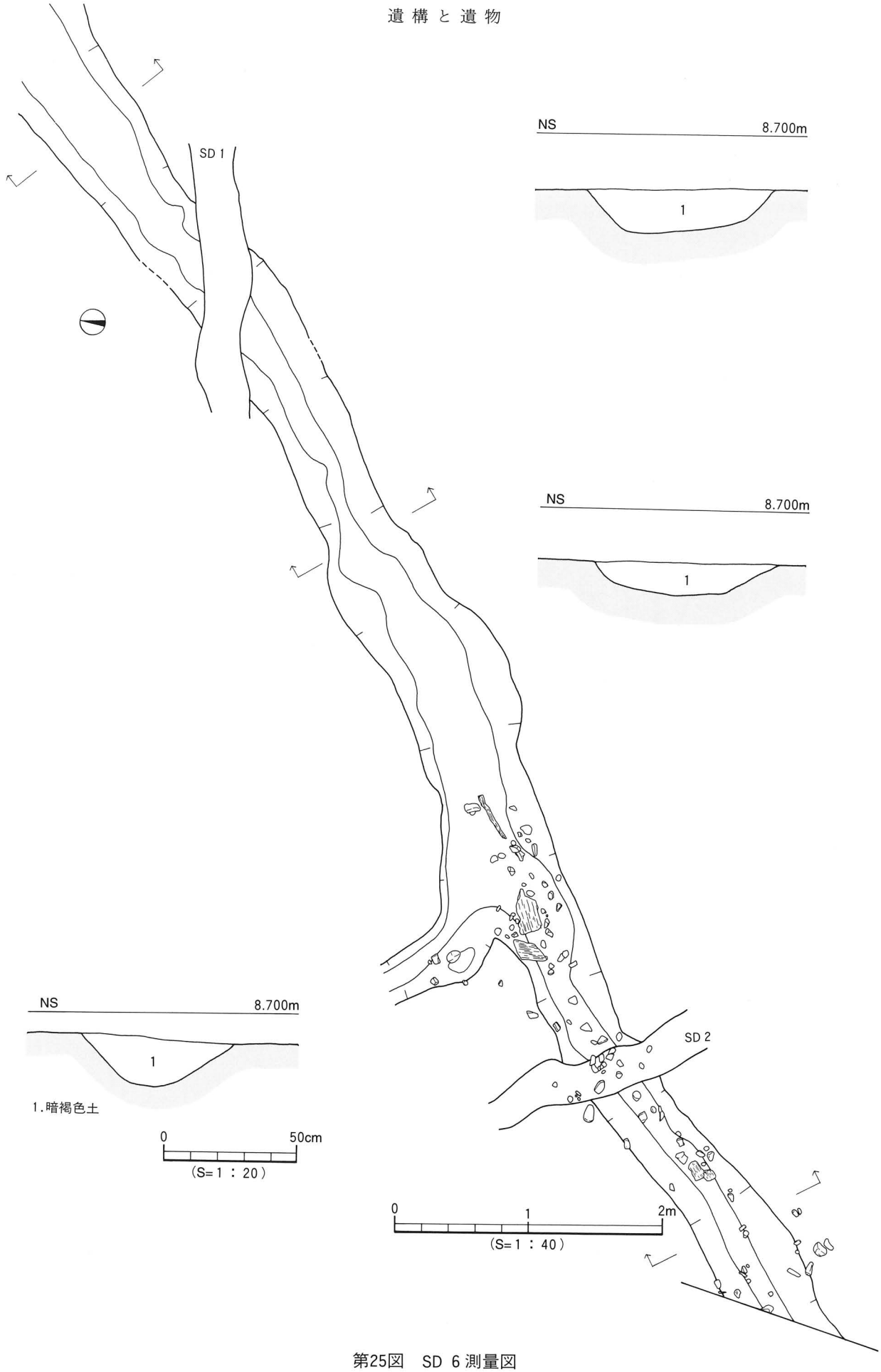
出土遺物（第27図）

212は土師器の高坏形土器の柱部である。213・214は坏蓋である。213は低い天井部に直立気味に接地する口縁部、端面は内傾しくぼむ。214は丸味のある天井部。口縁部はわずかに開き端部はくぼむ。

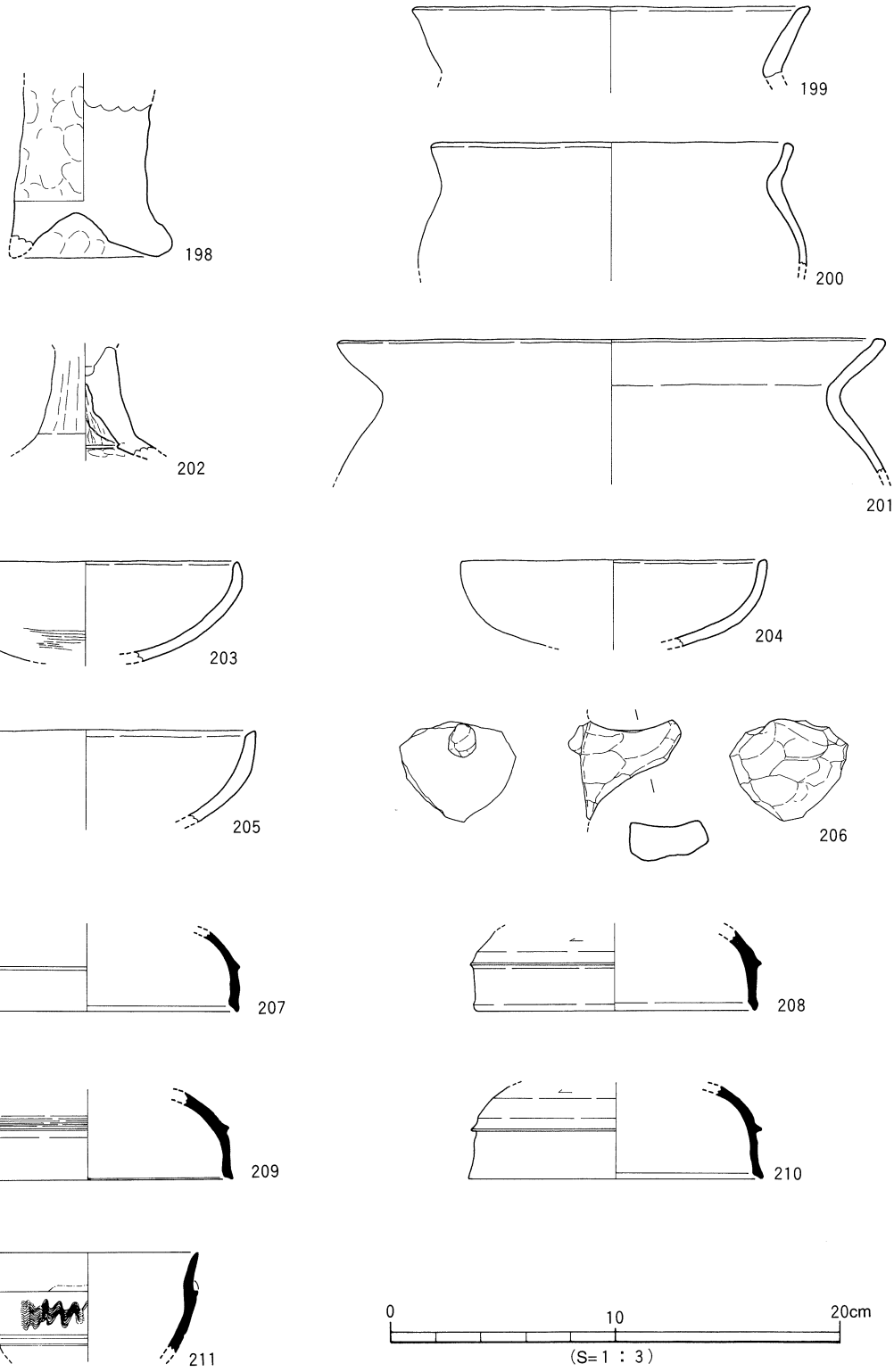
時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。



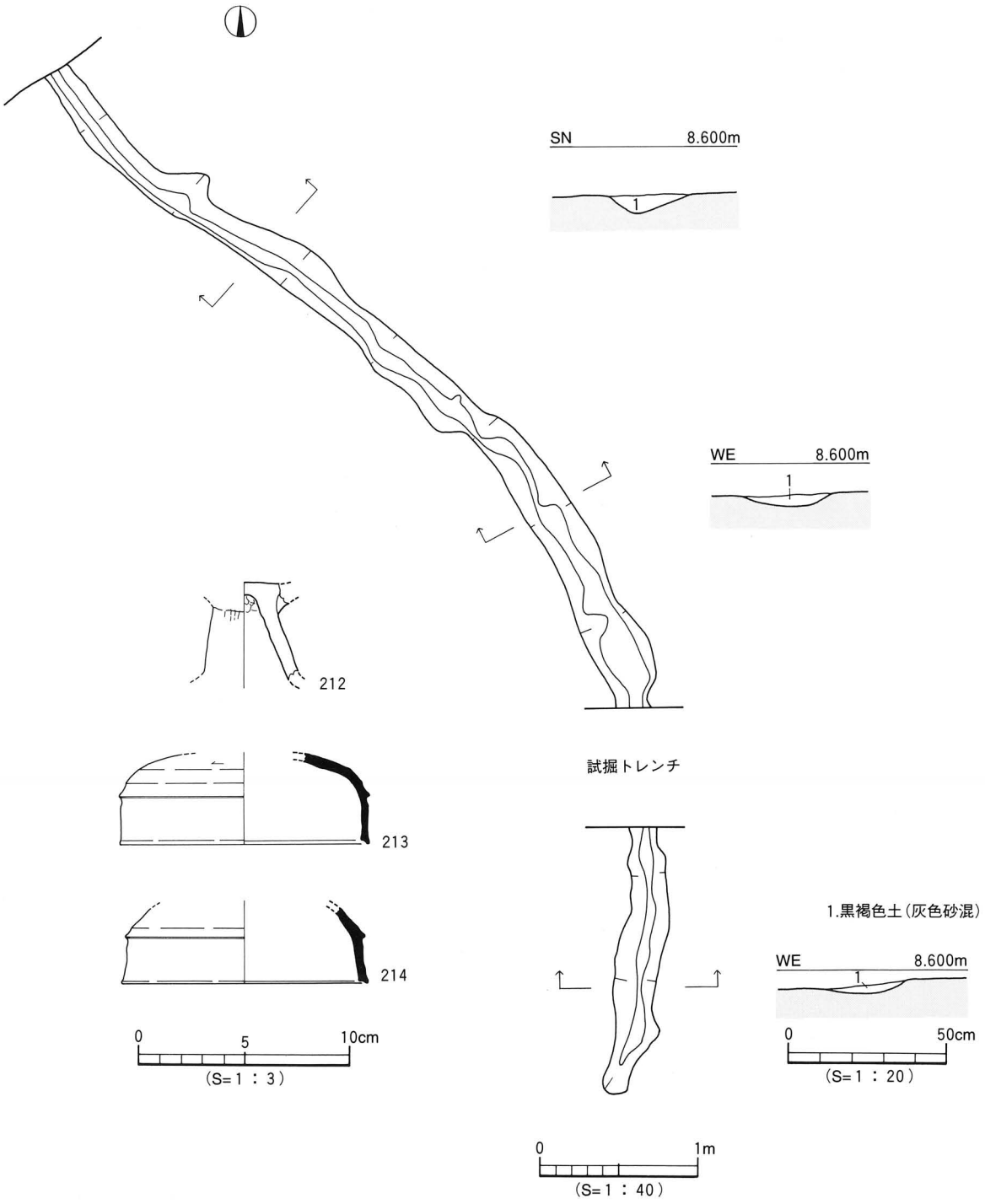
第24図　SD 5 測量図


SD 1
NS
8.700m
1
NS
8.700m
1
NS
8.700m
1
1.暗褐色土
0
50cm
(S=1 : 20)
SD 2
0
1
2m
(S=1 : 40)

第25図　SD 6 測量図



第26図　SD 6 出土遺物実測図



第27図　SD 7 測量図及び出土遺物実測図

SD 8 （第28図）

調査区北西のC18・19区に位置する。規模は検出長3.6m、幅0.5m、深さ8㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

時期：遺物が出土していないが埋土はSD 6と同じであり、5世紀末と考えられる。

SD 9 （第29図）

調査区西のF18・19区に位置する。規模は検出長5.2m、幅0.3m、深さ7㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物（第29図）

215は坏身である。短く水平に伸びる受部と内傾して立ち上がる口縁部をもち端部はくぼむ。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

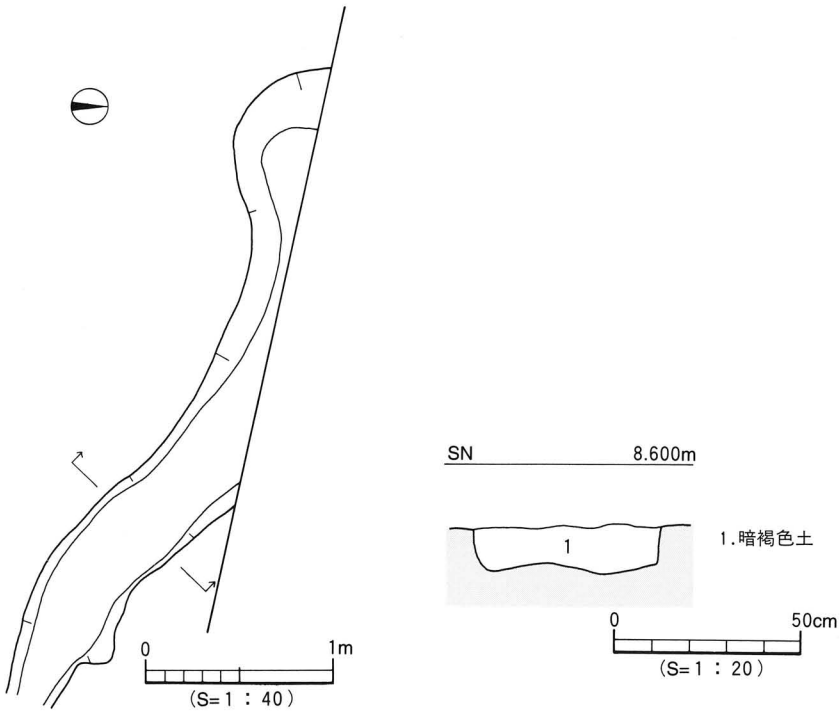
SD 10（第30図）

調査区西のD17～F19区に位置する。規模は検出長3.5m、幅0.6m、深さ20㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

SD 11（第31図）

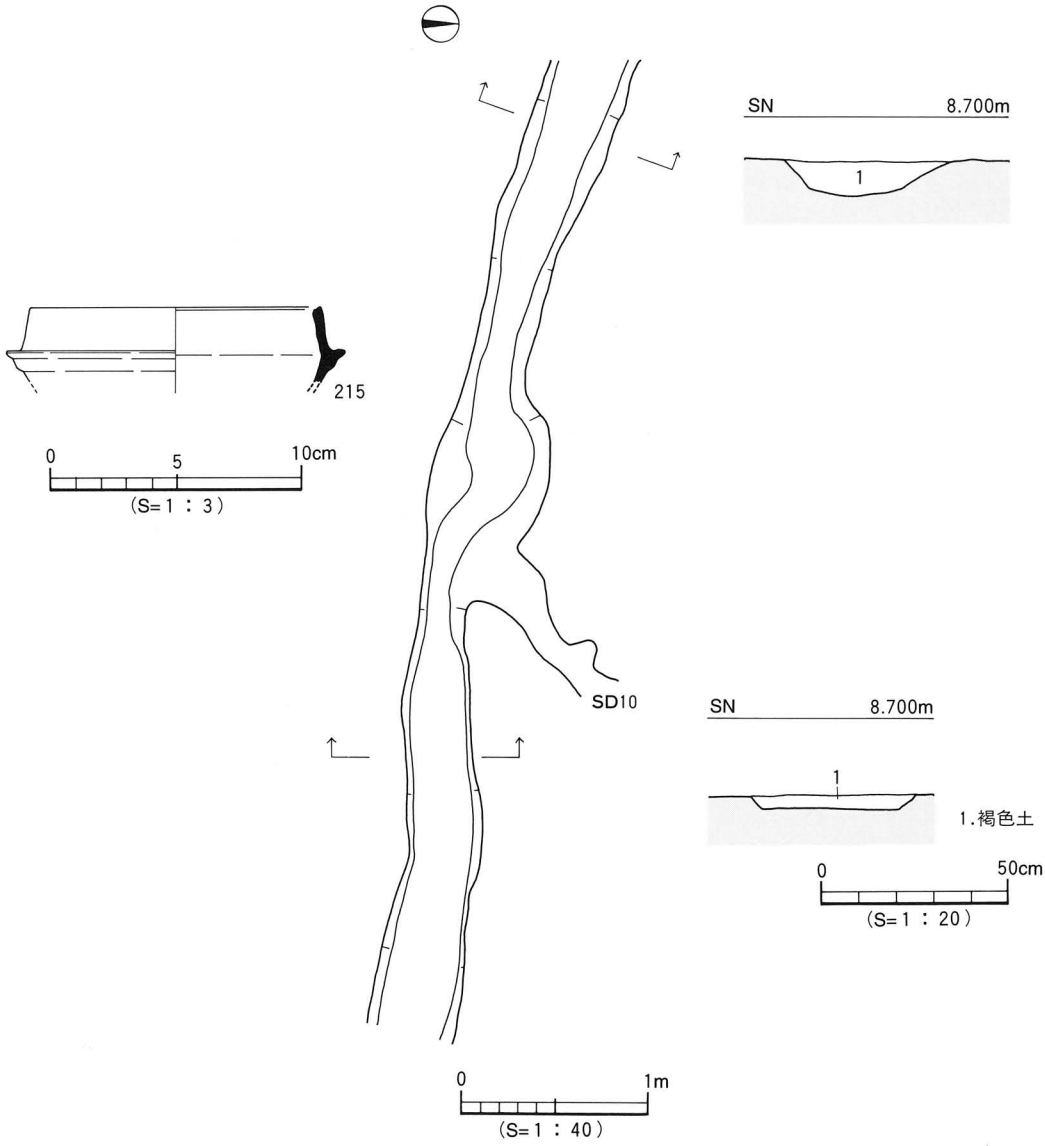
調査区北西のB20～C22区に位置しSD 1・2に切られ、SX 15を切る。SD 6とほぼ平行な溝である。規模は検出長8.5m、幅0.5m、深さ13㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は茶褐色土で



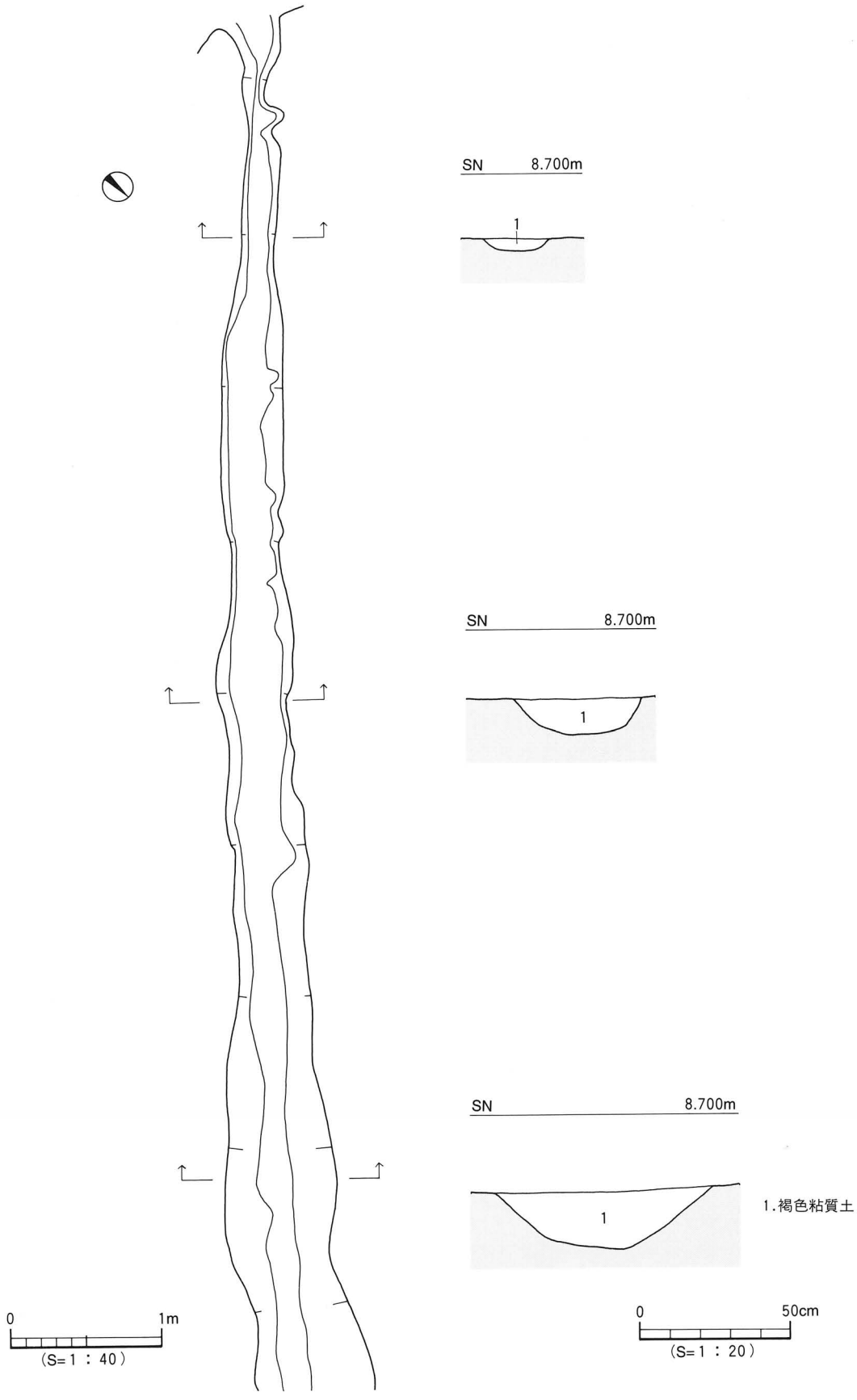
第28図　SD 8 測量図

ある。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

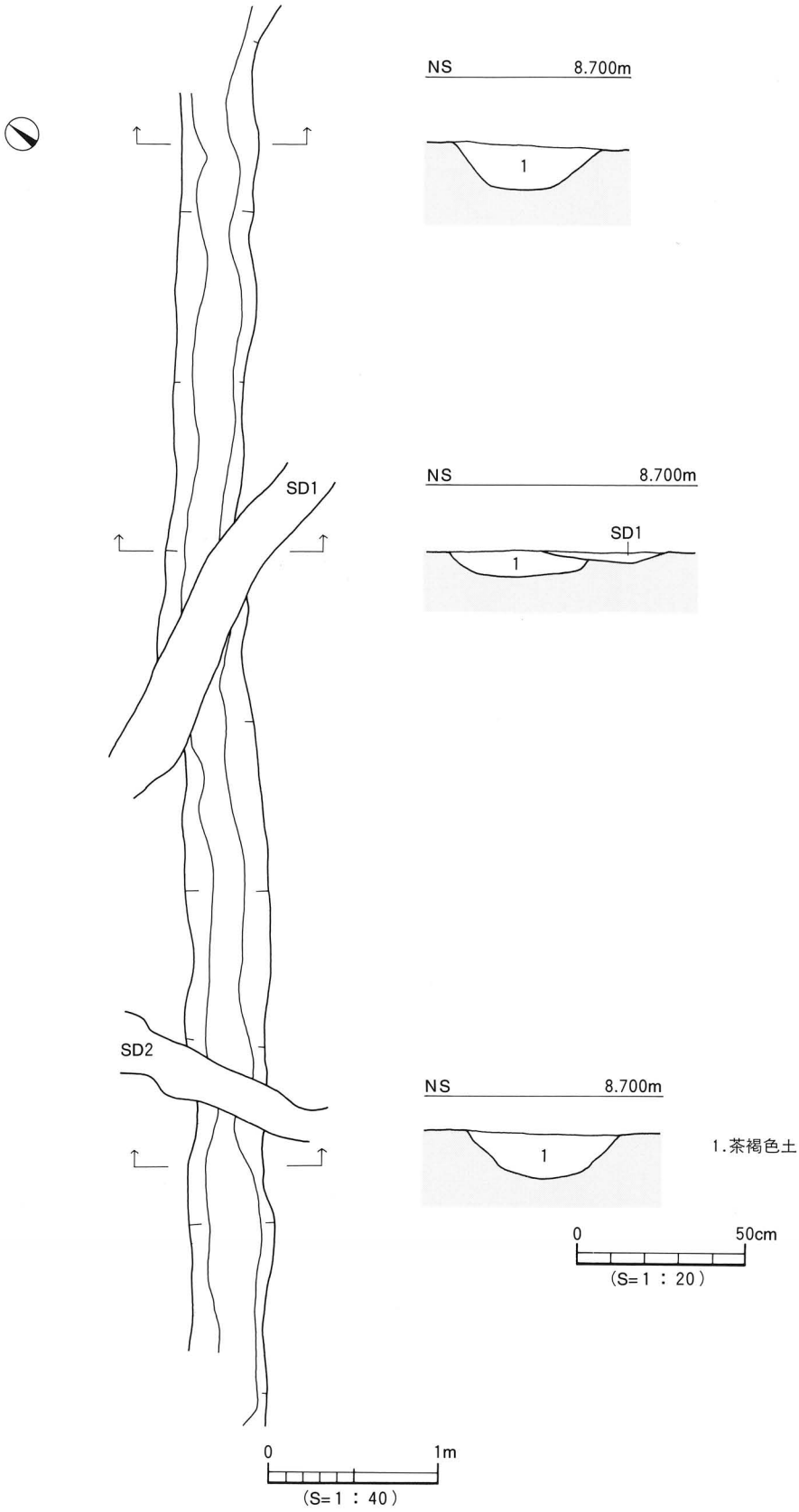
時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。



第29図　SD 9 測量図及び出土遺物実測図



第30図　SD 10測量図



第31図　SD 11測量図

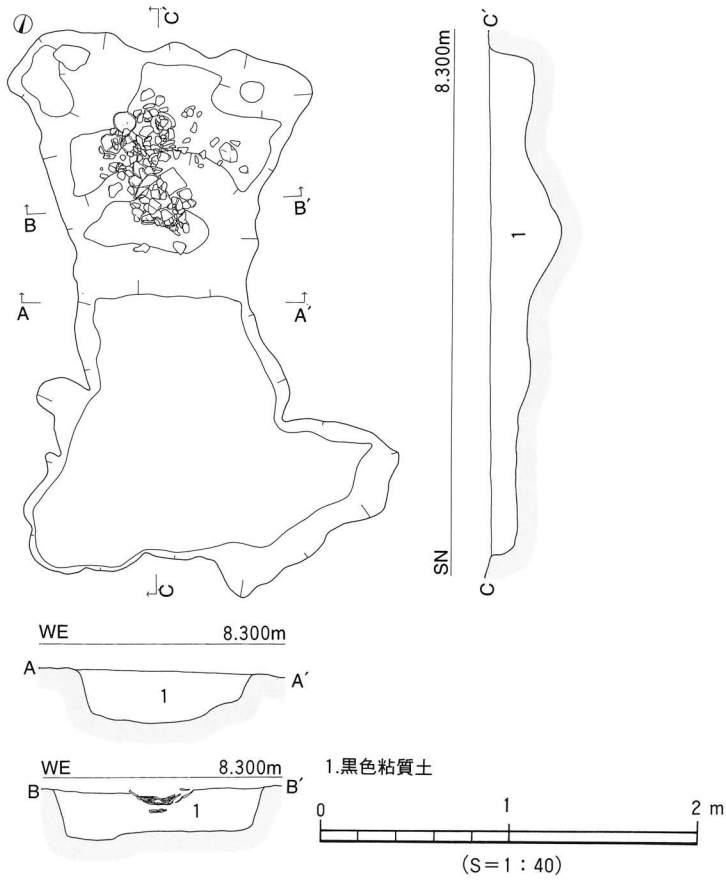
(3) 土 坑 (SK)

SK 6 (第32図)

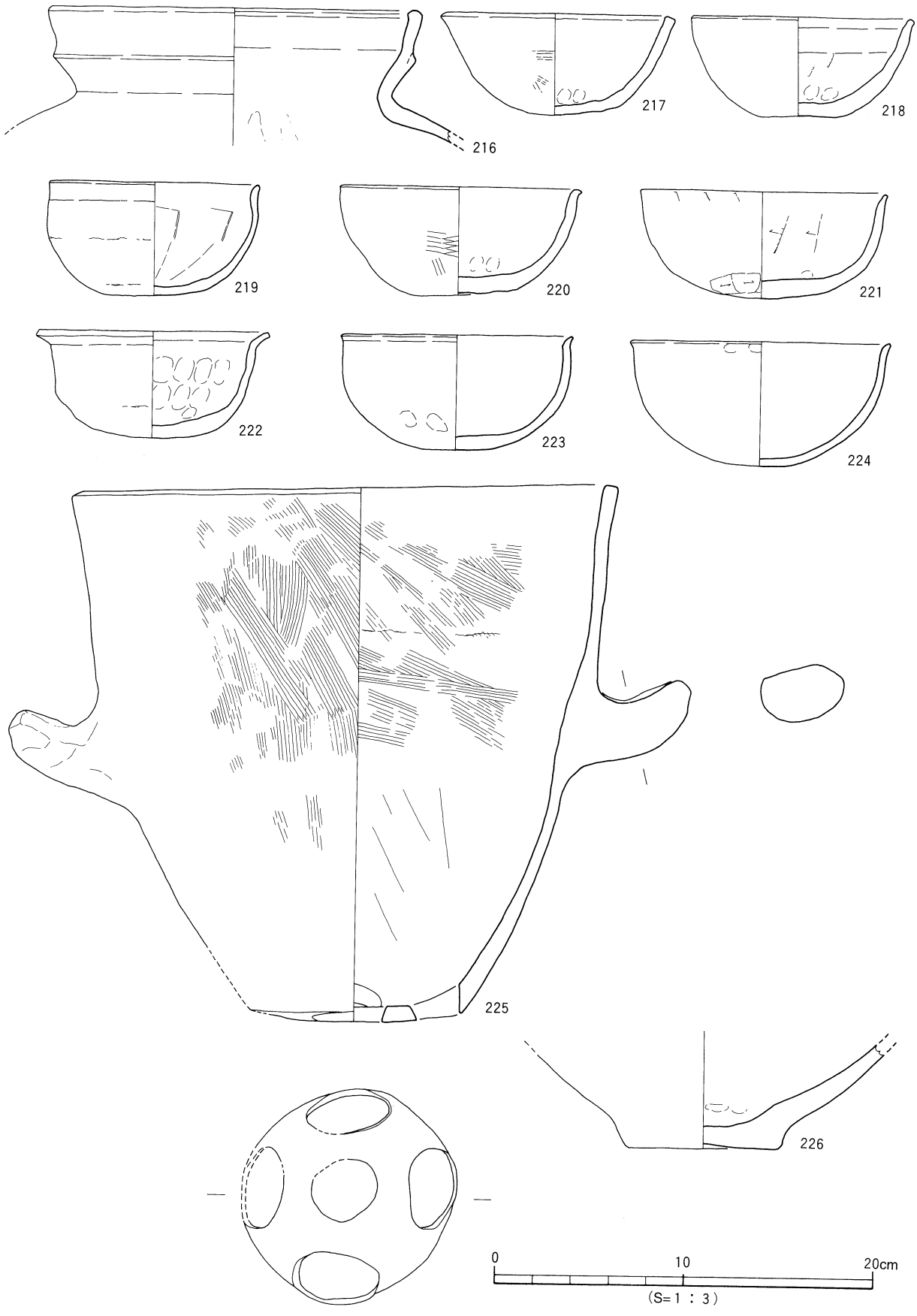
調査区北のD・E15区に位置しSR 1を切る。平面形態は不整形な長方形で規模は長軸2.7m、短軸1.0m、深さ20cmを測る。断面形態はすりばち状で埋土は黒色粘質土である。遺物は土師器の甑形土器、甕形土器、埦形土器の完形品が重なり合って出土した。

出土遺物 (第33図、図版15・16)

216～225は土師器である。216は複合口縁壺の口縁部である。口縁部は外傾し中位で折れ曲げ立ち上がる。端部内面はナデにより肥厚される。217～224は埦形土器の完形品である。217の底部は丸く



第32図 SK 6 測量図



第33図　SK 6 出土遺物実測図

口縁部は「コ」の字状に丸い。218は平たい底部の中央部がわずかにくぼむ。口縁部は内湾し端部はわずかに外反し丸い。219は内湾して立ち上がる口縁部の端部は外反し丸い。内面にヘラ状工具による強いナデが放射状に伸びる。220は凹凸のある底部に内湾して立ち上がる口縁部。端部はナデにより外方向にわずかに伸びる。221は丸い底部に内湾して立ち上がる口縁部。端部は外反しナデにより先細りし丸い。外面底部にケズリ調整が残る。222は丸い底部より外傾して立ち上がり口縁部は大きく外反する。端部は「コ」の字状である。223は丸い底部に外反して立ち上がる口縁部の端部は先細りし外反する。224は丸い底部にわずかに外反する口縁部。端部は先細りし丸い。225は甑形土器の完形品である。わずかに丸い底部に外傾する胴部。口縁部は若干外反する。端部は「コ」の字状である。胴部中位に断面楕円形の把手が付く。底部に4方向と中央部の計5個の円孔をもつ。226は弥生土器の壺形土器で、厚みのある底部になる。

時期：出土遺物の形態から5世紀後半の土坑と考えられる。

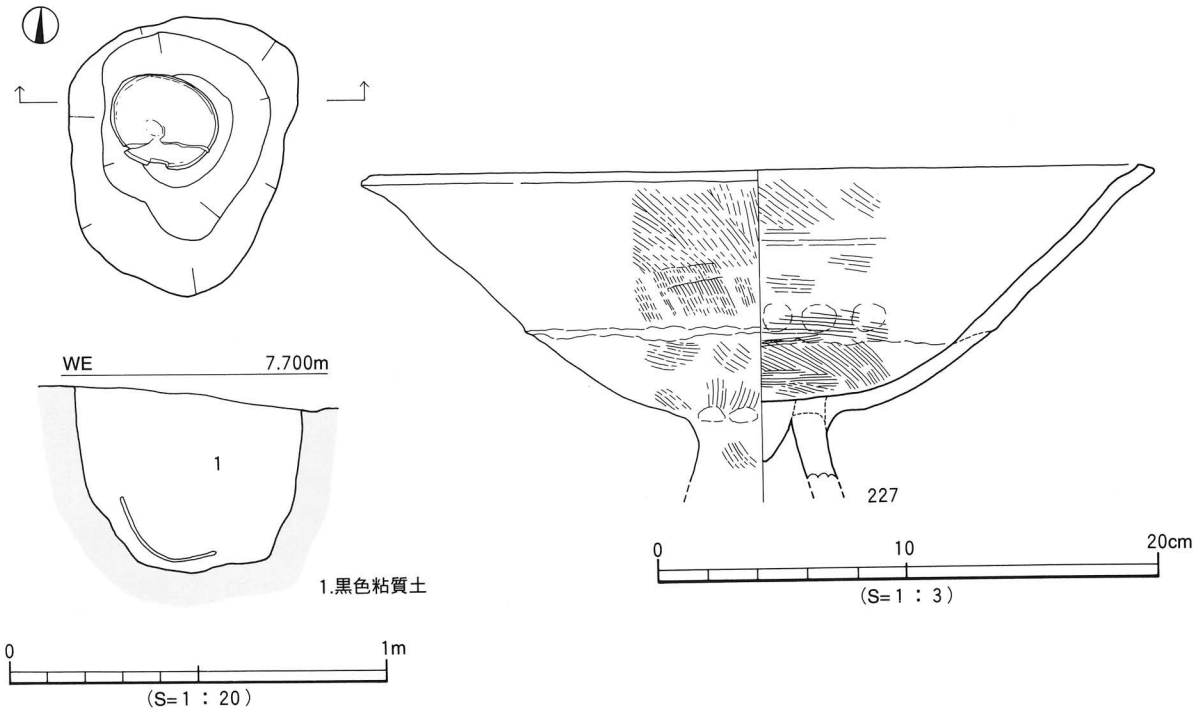
SK 7（第34図）

調査区中央のF14区に位置し、SR 1の底面で検出した。平面形態は楕円形である。規模は長軸70cm、短軸55cm、深さ45cmを測る。断面形態は「U」字状である。埋土は黒色粘質土である。遺物は高坏の坏部が上を向けた状態で1点出土した。

出土遺物（第34図、図版16）

227は大型の高坏形土器である。坏部は外傾しわずかに内湾し端部手前で外反する。端面は外傾しわずかにくぼむ。外面中央部に甘い稜をもつ。

時期：出土した高坏形土器の形態から4世紀末～5世紀初頭に時期比定される。



第34図　SK 7 測量図及び出土遺物実測図

SK 14（第35図）

調査区西のE16区に位置しSR 1を切る。平面形態は楕円形である。規模は長軸2.0m、短軸1.8m、深さ90cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は黒色粘質土である。遺物は土師器の甕形土器が出土した。

出土遺物（第35図、図版16）

228～231は土師器の甕形土器である。228～230は口縁部から胴部にかけての残存である。228の口縁部は内湾気味に立ち上がり端部は内面が肥厚され内傾する面をもつ。229は内湾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。230は外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。231はほぼ完形の小型品である。胴部はやや肩の張る長い球形である。口縁部はわずかに内湾し端部は「コ」の字状に丸い。232は弥生土器の甕形土器の底部である。くびれの上げ底を呈する。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

SK 1（第36図）

調査区東のI 3区に位置する。平面形態は円形である。規模は径2.7m、深さ55cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。

時期：出土遺物がないため埋土から5世紀末と考えられる。

SK 2（第36図）

調査区東のI・J 3区に位置する。平面形態は円形である。規模は径1.3m、深さ34cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が出土した。

出土遺物（第36図）

233は甕形土器の底部。くびれの上げ底である。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

(4) 性格不明遺構（SX）

性格不明遺構（SX）は17基を検出した。これ等は人工的な遺構でなく、自然のくぼ地を指す。

SX 1（第37図）

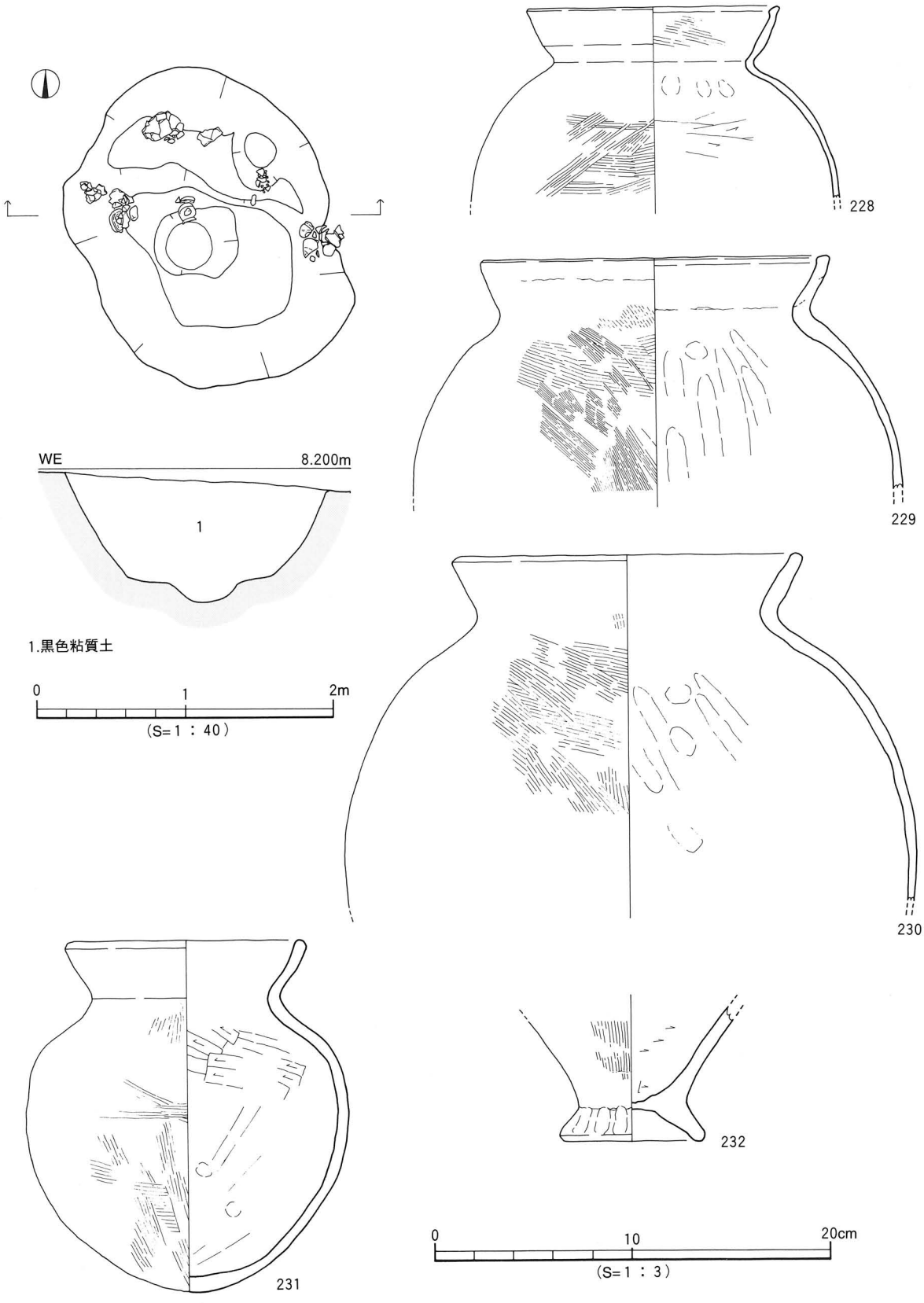
調査区南東隅のJ・K 2区に位置し、東側と南側は調査区外に続く。平面形態は検出部分が扇形であるため円形と思われる。規模は検出長軸3.16m、短軸3.08m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器と土師器の小片が出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

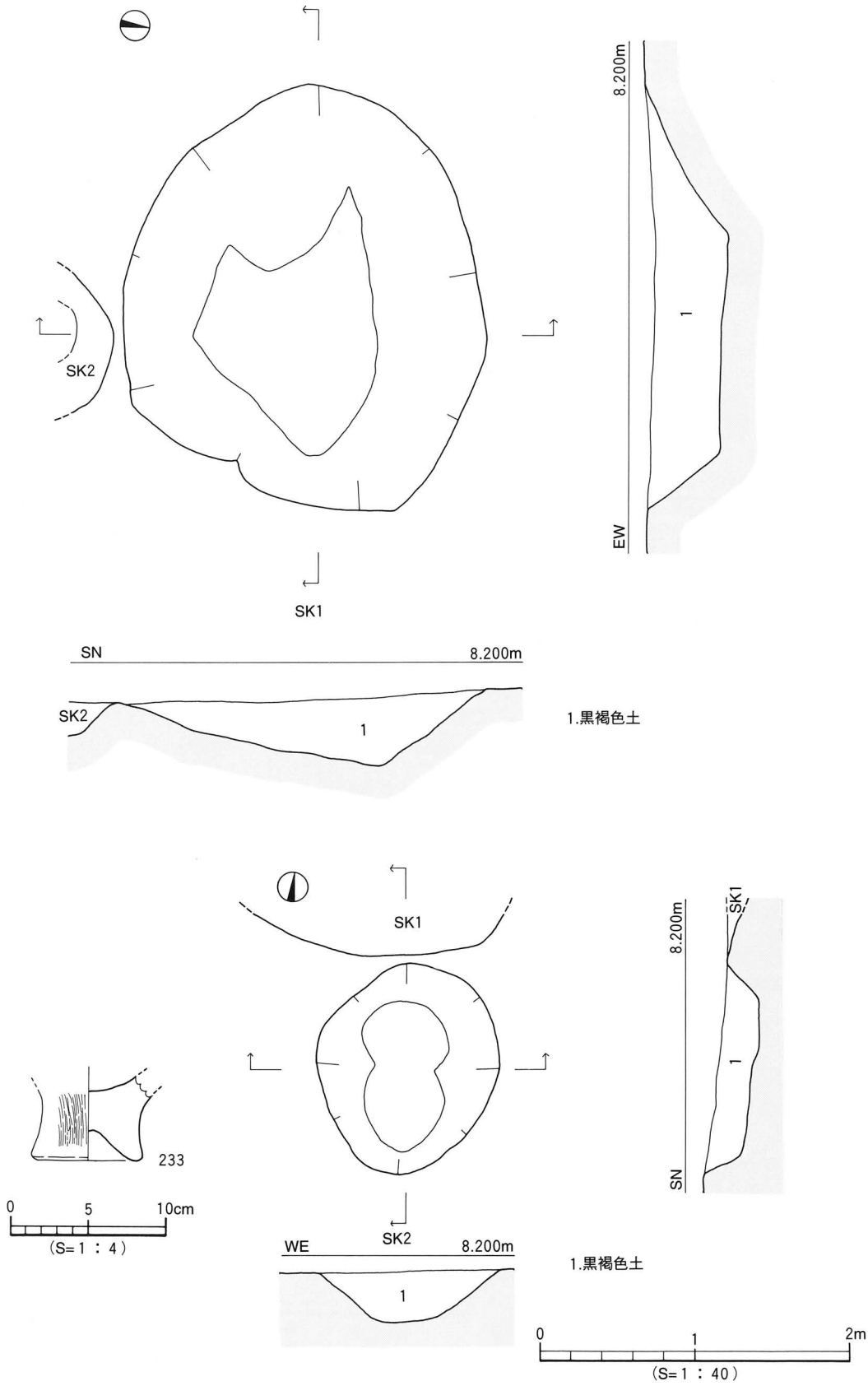
SX 2（第37図）

調査区中央北のD15・16区に位置し、SD 3とトレンチに切られSR 1の底面より検出した。平面形態は不整形な方形である。規模は検出長軸2.64m、短軸1.88m、深さ27cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒色粘質土である。遺物は出土していない。

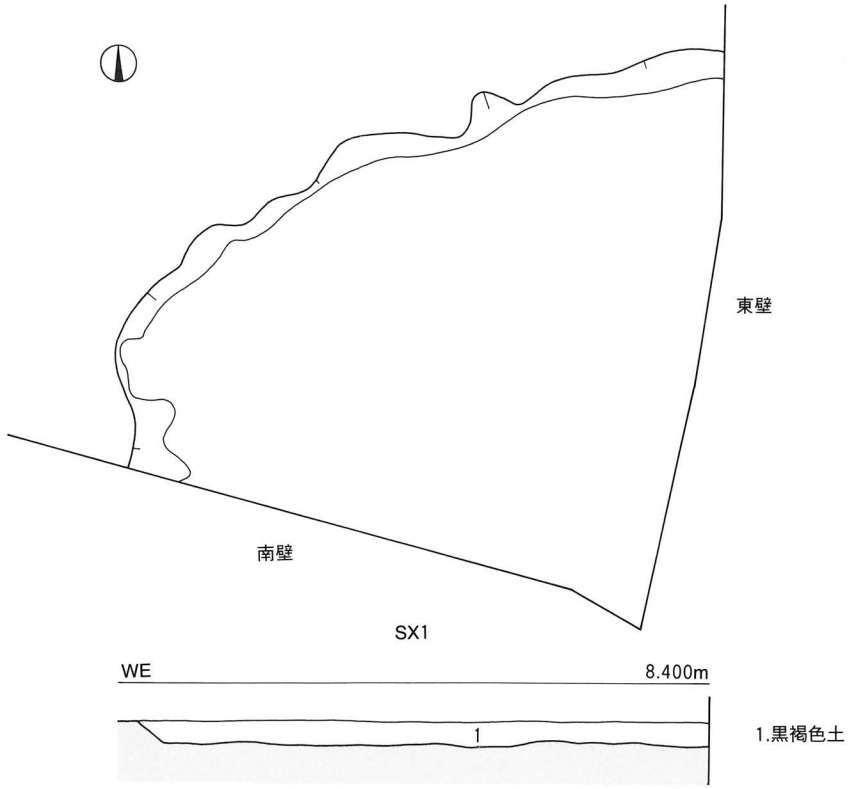
時期：埋土から5世紀末と考えられる。

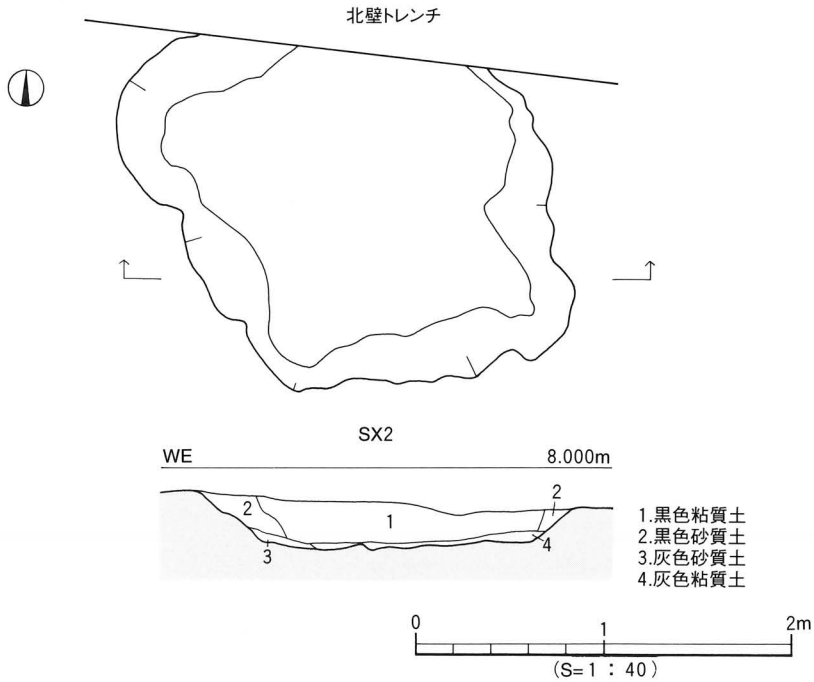


第35図　SK 14測量図及び出土遺物実測図



第36図　SK 1 ・ 2 測量図及び出土遺物実測図





第37図　SX 1 ・ 2 測量図

SX 3 （第38図）

調査区中央のE・F18区に位置し、SD10に切られる。平面形態は不整形な楕円形である。規模は長軸2.80m、短軸1.54m、深さ18cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 4 （第39図）

調査区南のG19区に位置し南側はトレンチに切られる。平面形態は不整形な円形である。規模は検出長軸1.50m、短軸0.76m、深さ35cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

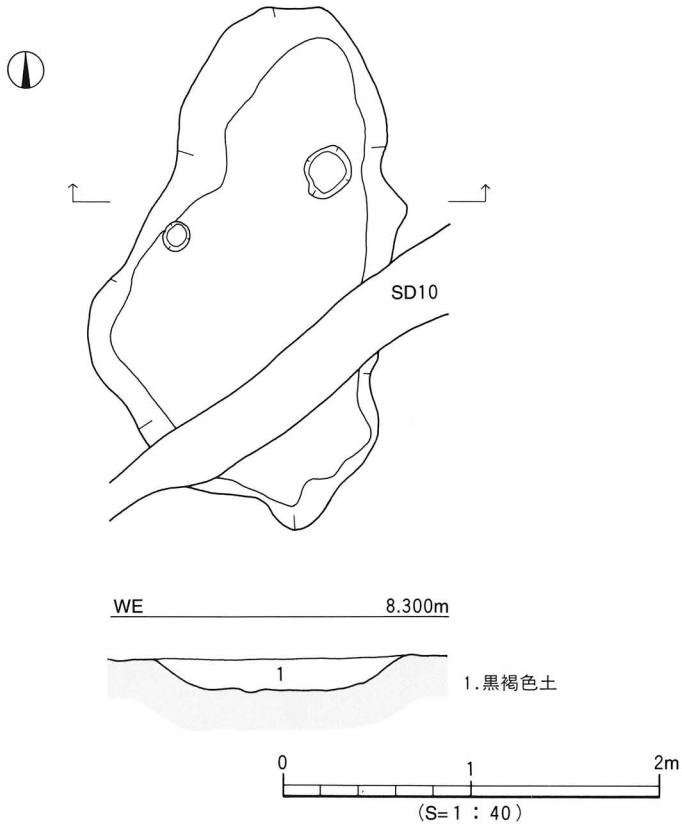
SX 5 （第39図）

調査区西のD19区に位置する。平面形態は円形である。規模は径1.9m、深さ20cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

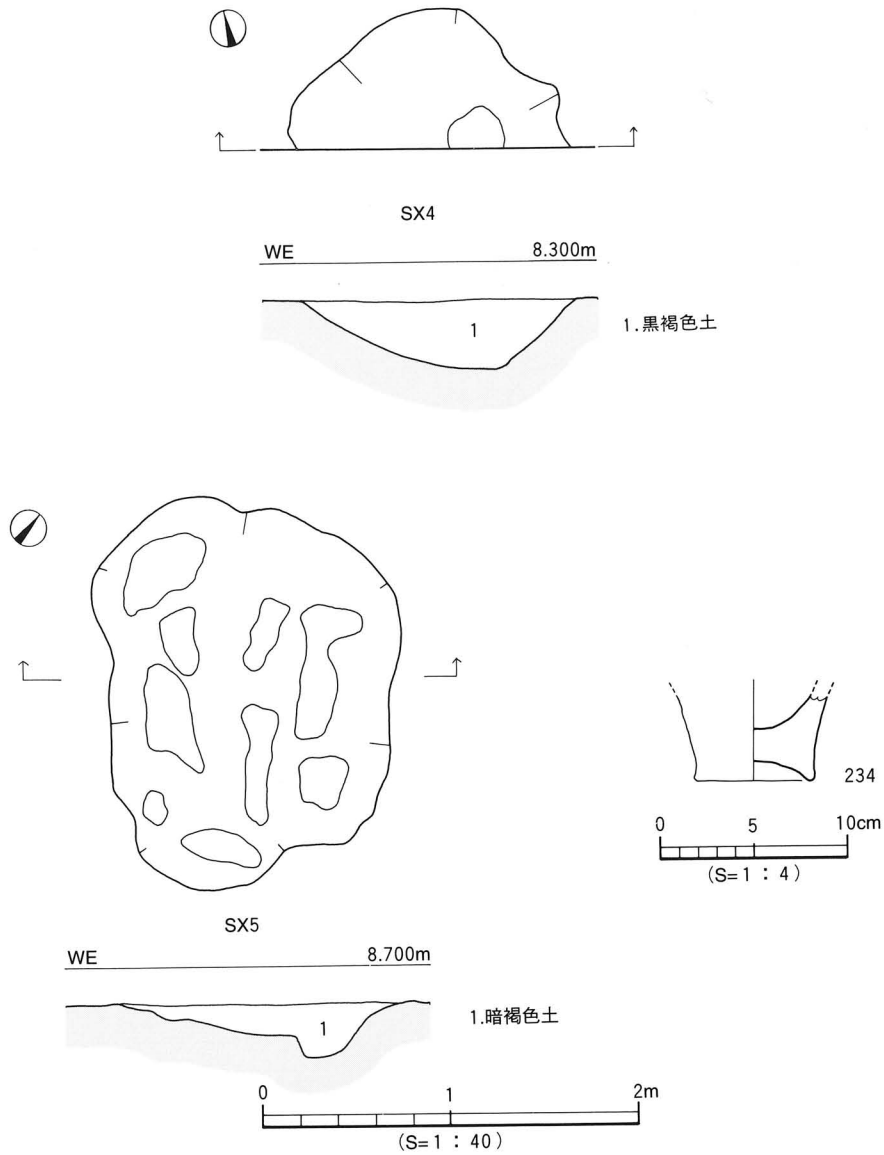
出土遺物（第39図）

234は甕形土器の底部。上げ底である。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。



第38図　SX 3 測量図



第39図　SX 4 ・ 5 測量図及び出土遺物実測図

SX 6 （第40図）

調査区西のC・D18・19区に位置する。平面形態は円形である。規模は径2.3m、深さ50cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 7 （第40図）

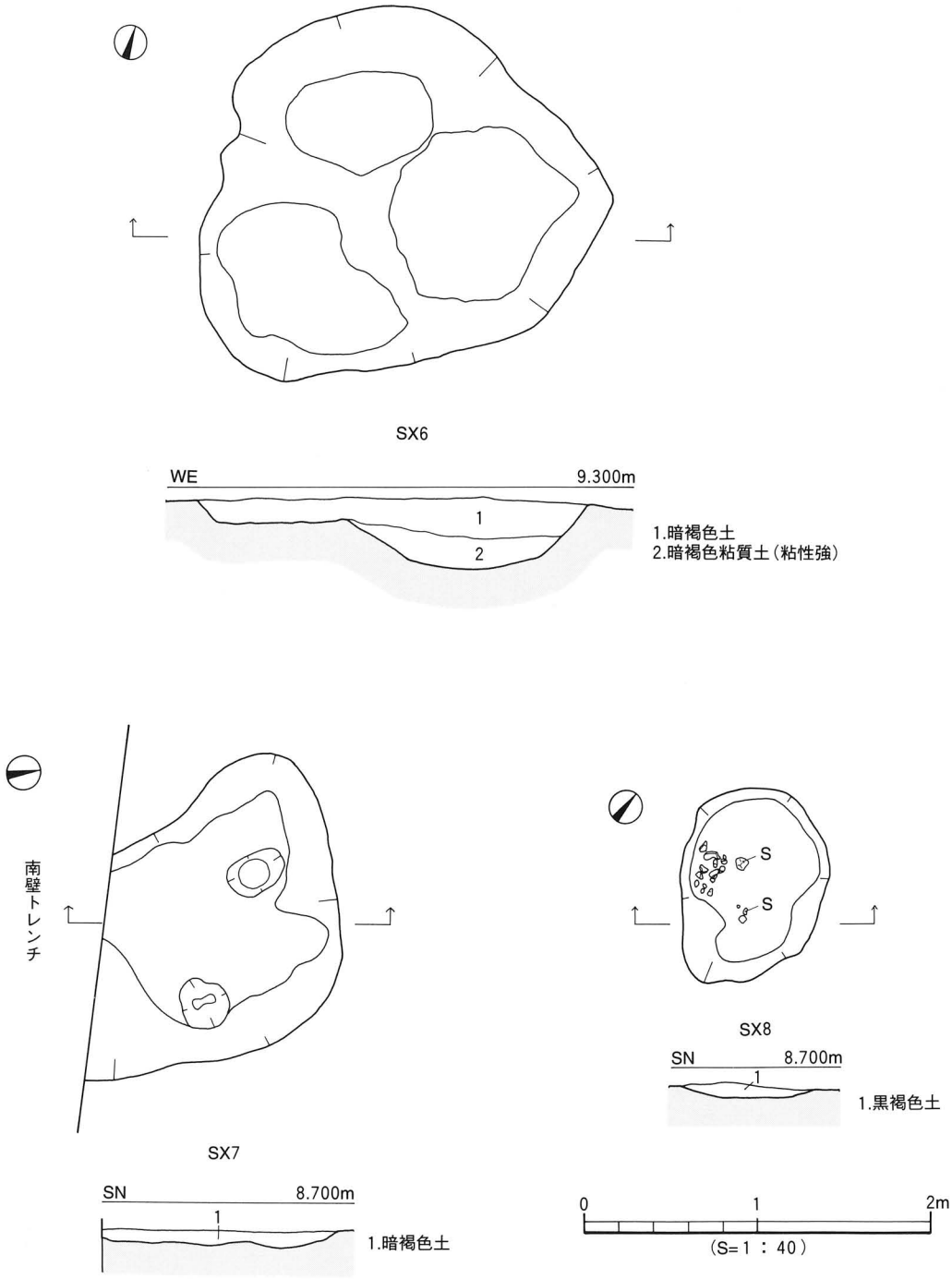
調査区南のG19区に位置し、南側をトレンチに切られる。平面形態は隅丸方形と考えられる。規模は長軸1.4m、短軸1.1m、深さ6cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器片が1点出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 8 （第40図）

調査区西のD・E21区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.1m、短軸0.8m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器と土師器が少量出土した。

時期：埋土から５世紀末と考えられる。



第40図　SX 6・7・8 測量図

SX 9（第41図）

調査区西のD・E20区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.5m、短軸1.0m、深さ30cmを測る。断面形態はすりばち状で、埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

出土遺物（第41図）

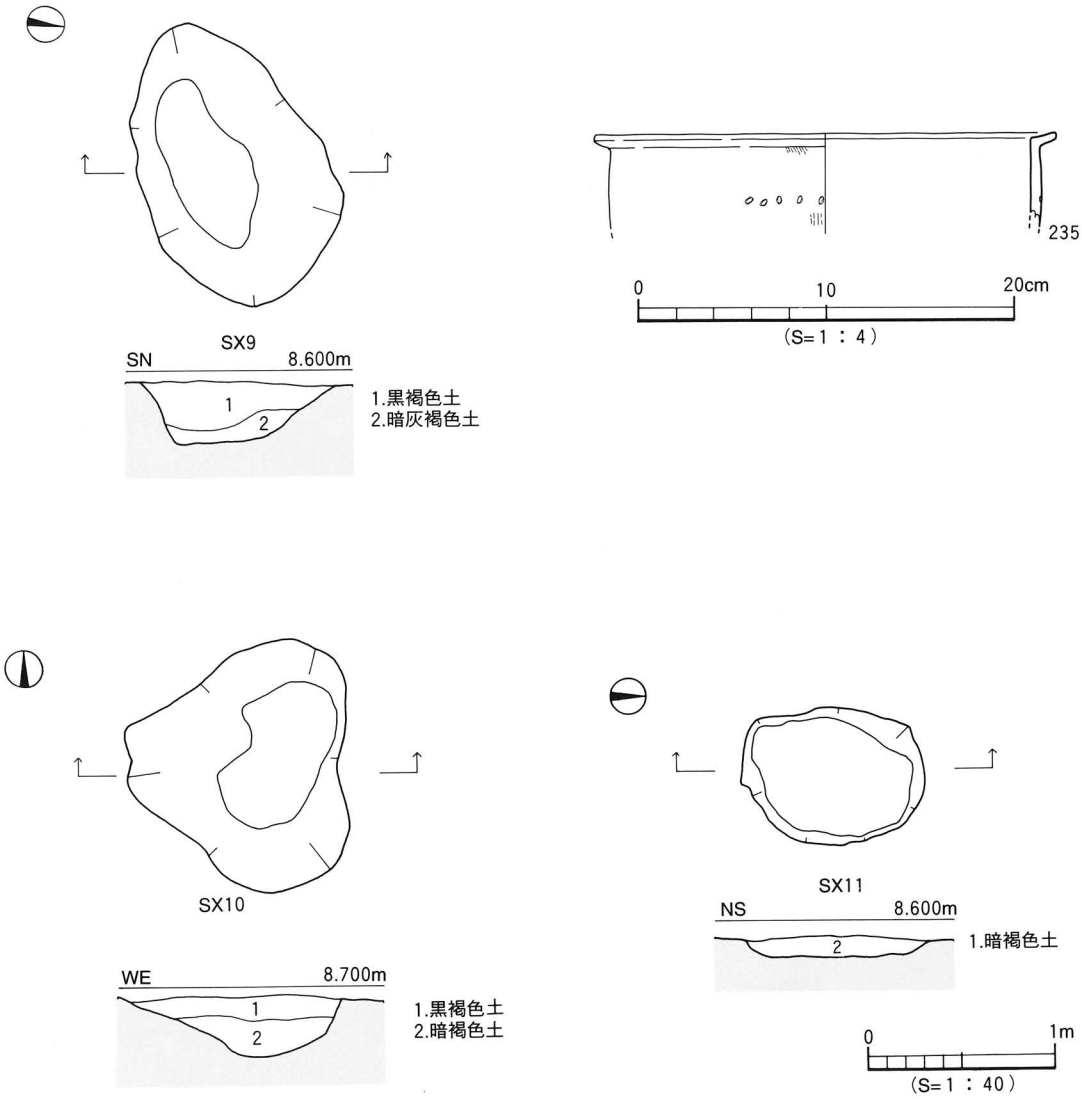
235は弥生土器の甕形土器の口縁部である。口縁部は折り曲げ胴上部に刺突文を施す。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 10（第41図）

調査区西のE21区に位置し、SD 2に切られる。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.3m、短軸1.0m、深さ30cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。



第41図　SX 9・10・11測量図及び出土遺物実測図

SX 11（第41図）

調査区北西のC20区に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長軸1.7m、短軸0.7m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が2点出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 12（第42図）

調査区西のF19区に位置しSD 9に切られる。平面形態は円形と思われる。規模は径1.1m、深さ23cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物（第42図）

236は坏蓋である。扁平な天井部と直立して接地する口縁部の端部はくぼむ。天井部と口縁部を分ける稜は断面三角形状である。

時期：出土遺物の形態と埋土から5世紀末と考えられる。

SX 13（第43図）

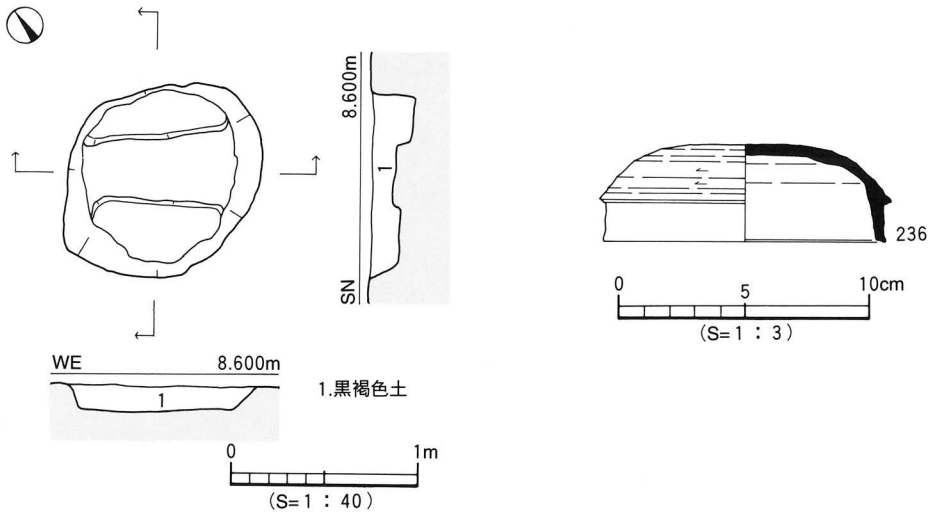
調査区西のE19区に位置し、SD 3に切られる。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.3m、短軸1.2m、深さ23cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

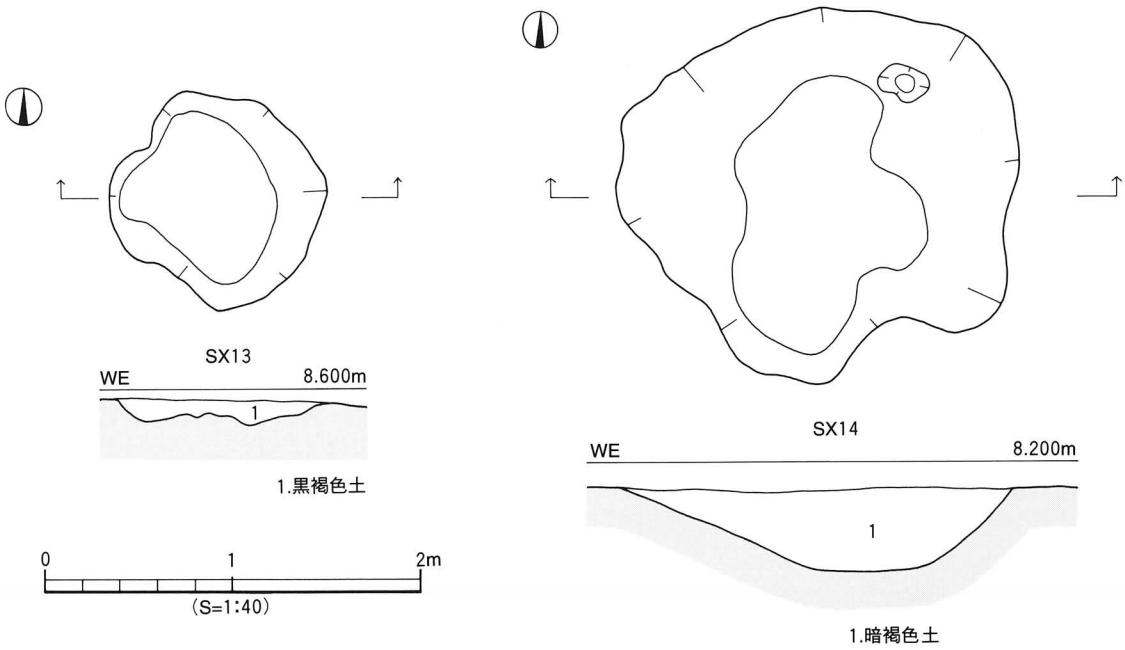
SX 14（第43図）

調査区西のD・E16・17区に位置し、SR 1を切りSD 3に切られる。平面形態は円形である。規模は径2.1m、深さ60cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が少量出土した。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。



第42図　SX 12測量図及び出土遺物実測図



第43図　SX 13・14測量図

SX 15（第44図）

調査区西のC21区に位置し、SD 1・11に切られる。平面形態は円形である。規模は長軸2.3m、短軸2.0m、深さ60cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第44図）

237～240は土師器である。237・238は甕形土器の口縁部。237の口縁部は「く」の字状に折り曲げわずかに内湾する。端部は水平で「コ」の字状である。238は外傾する口縁部。端部は肥厚され丸味をもつ。239・240は高坏形土器である。239は柱部から坏部にかけての残存である。240は「ハ」の字状に開く柱部である。241・242は須恵器である。241は坏蓋。緩やかに丸く低い天井部と直立する口縁部とを分ける稜の断面は丸味のある三角形状である。242は壺形土器の口縁部。外面に凸帯文2条と波状文が3条残る。243・244は支脚形土器である。243は台形状で中実である。244は中空である。受部は「U」字状にカットされる。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

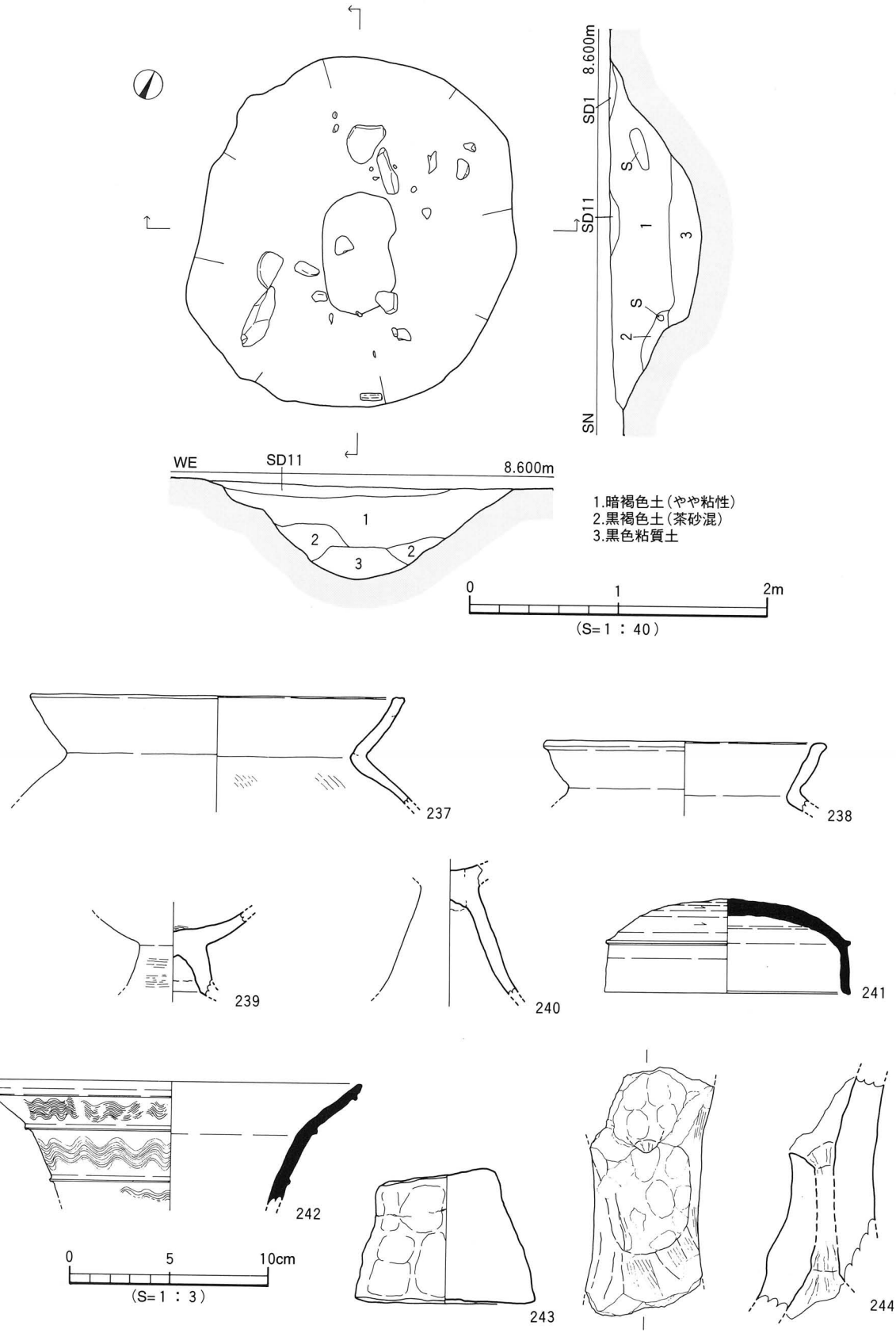
SX 16（第45図）

調査区西のC19・20区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.6m、短軸1.1m、深さ30cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 17（第45図）

調査区西のD22区に位置し、SD 2・5・6に切られる。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.5m、短軸1.0m、深さ18cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器と土師器が少量出土した。

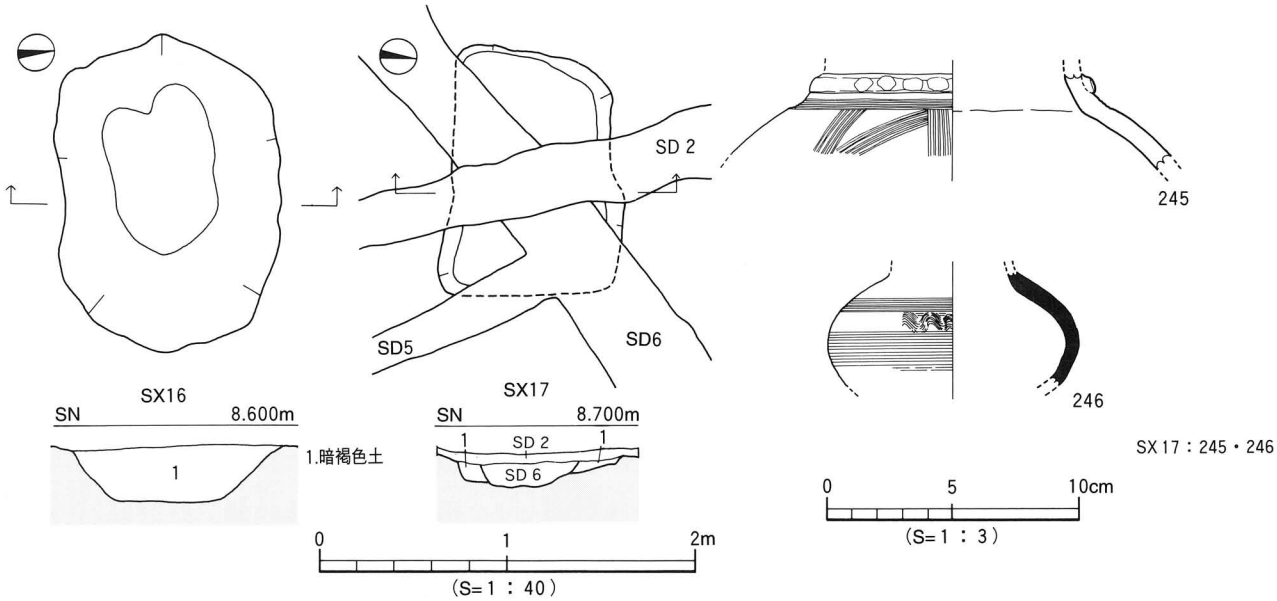


第44図　SX 15測量図及び出土遺物実測図

出土遺物（第45図）

245は弥生土器の壺形土器。頸部に押圧文のある凸帯文を１条、肩部に山形文を施す。246は甕の胴部片と思われる。外面に沈線文と波状文を施す。

時期：出土遺物とSD 6との切合関係から５世紀代と考えられる。



第45図　SX 16・17測量図及び出土遺物実測図

3．古　代

古代の遺構は溝を５条検出した。

(1)　溝（SD）

SD 1（第46図）

調査区北西のC19～22区に位置し、SX 15とSD 6・11を切る東西方向の溝である。規模は検出長10m、幅0.3m、深さ５cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物（第46図）

247は坏蓋である。口縁部は「ハ」の字状に広がり接地する。端部はわずかにくぼむ。天井部と口縁部を分ける稜をもち、稜上部に工具痕と思われる細い溝が２条巡る。248は蓋。口縁部は直立気味に接地し端部はわずかにくぼむ。

時期：出土遺物と埋土から７世紀末と考えられる。

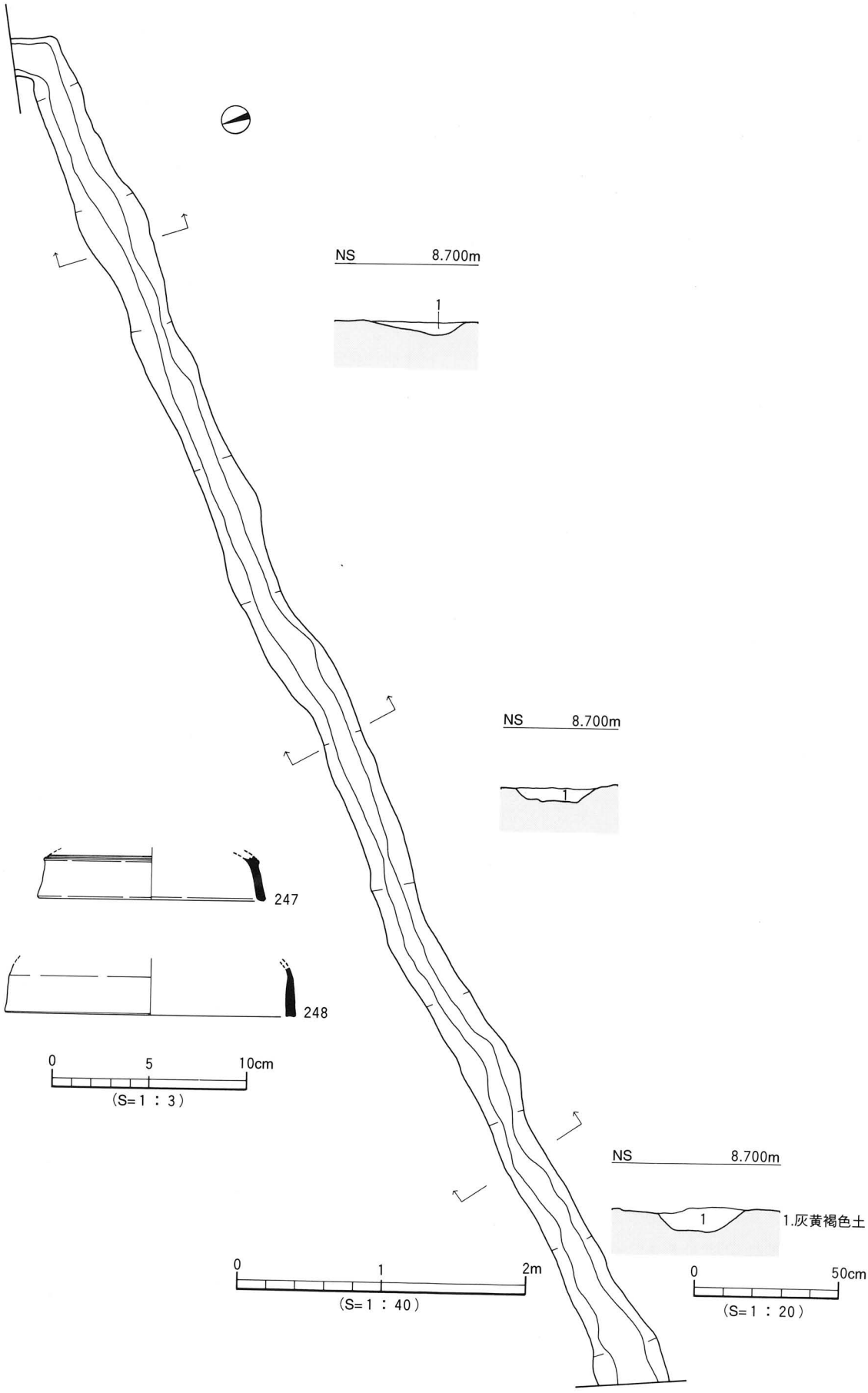
SD 2（第47図）

調査区西のC22～G20区に位置し、SD 6・11を切る。規模は検出長17m、幅0.4m、深さ４cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

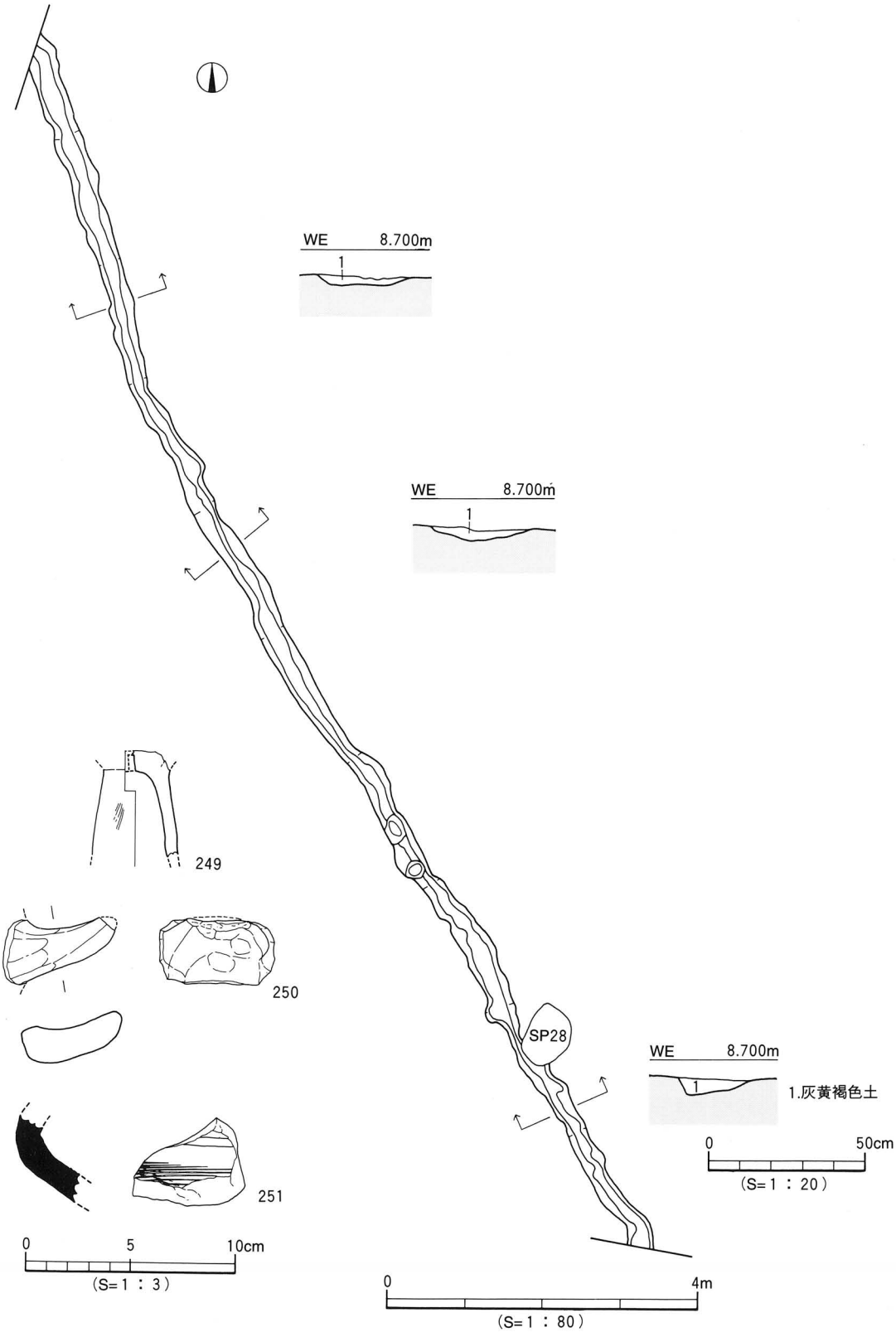
出土遺物（第47図）

249・250は土師器。249は高坏形土器の柱部である。内面上部に径0.25cmの穿孔が残る。250は甑形土器の把手部である。251は須恵器の甕形土器と思われる。

時期：埋土から７世紀末と考えられる。



第46図　SD 1 測量図及び出土遺物実測図



第47図　SD 2 測量図及び出土遺物実測図

SD 3（第48図）

調査区北から南西のD15～E21区に位置し、SR 1、SX 14を切る。規模は検出長25m、幅0.3m、深さ2cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物（第48図）

252は外反する口縁部。端部は下方に拡張する。外面に凸帯文1条と波状文を施す。

時期：出土遺物と埋土から7世紀末と考えられる。

SD 4（第49図）

調査区南西のE22～G21区に位置する。規模は検出長16m、幅0.5m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物（第49図）

253は甕形土器の底部片である。わずかに上げ底である。254は支脚形土器の角部である。255は坏身である。底部の外端部付近に「ハ」の字状の高台が付く。脚端面はナデによりくぼむ。256は礫石錘である。小口に紐掛け用の抉りを打ち欠いて作っている。

時期：出土遺物と埋土から7世紀末と考えられる。

SD 12（第50図）

調査区南西のF22区に位置する。規模は検出長2.5m、幅0.4m、深さ8cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰白色砂質土である。遺物は弥生土器、須恵器、石器が出土した。

出土遺物（第50図）

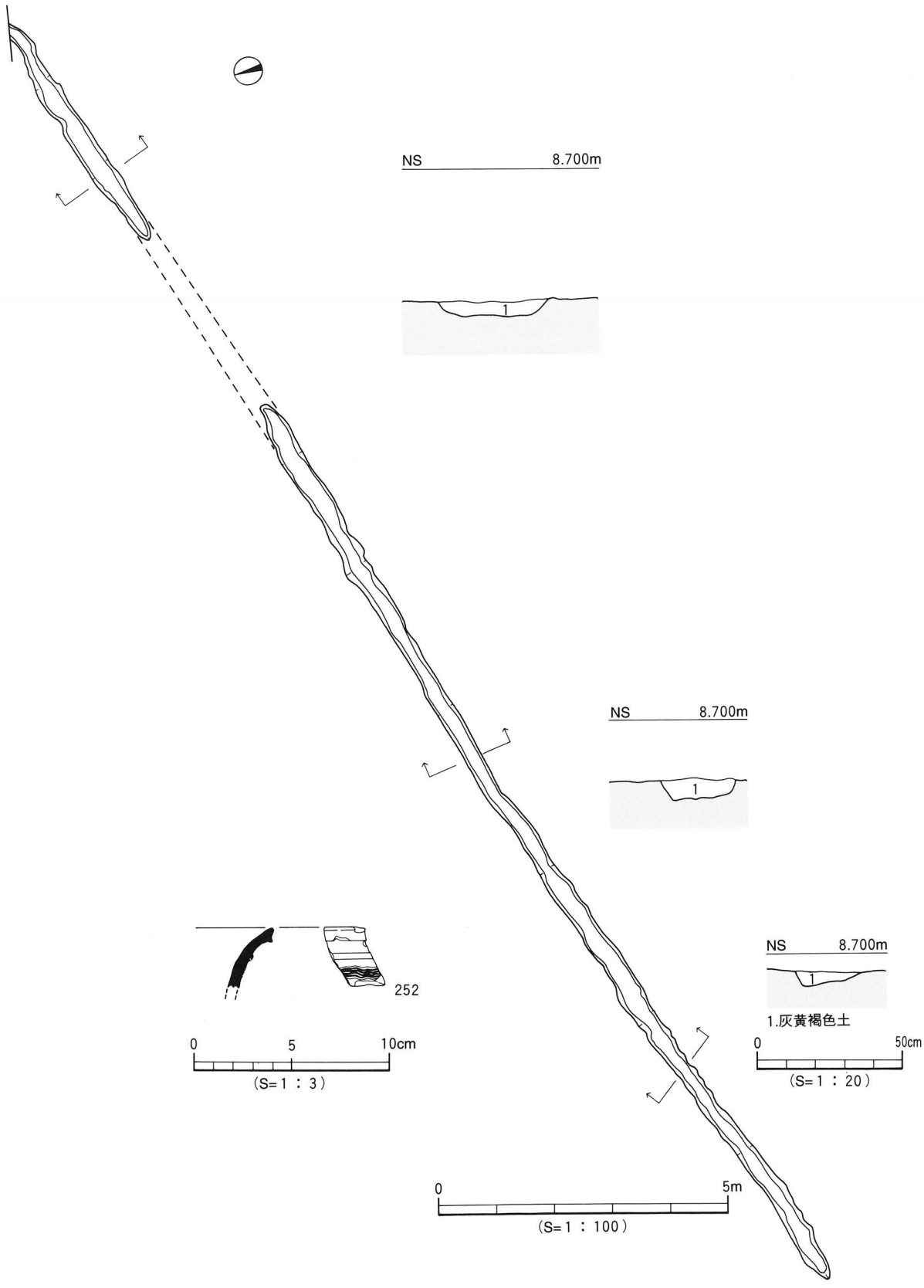
257・258は高坏形土器の柱部である。257は「ハ」の字状に開く柱部の上面にはヘラ状工具によるキザミ痕を施す。258は柱部上面にヘラ状工具によるキザミ痕と穿孔を施す。259は土錘である。

時期：出土遺物から7世紀末と考えられる。

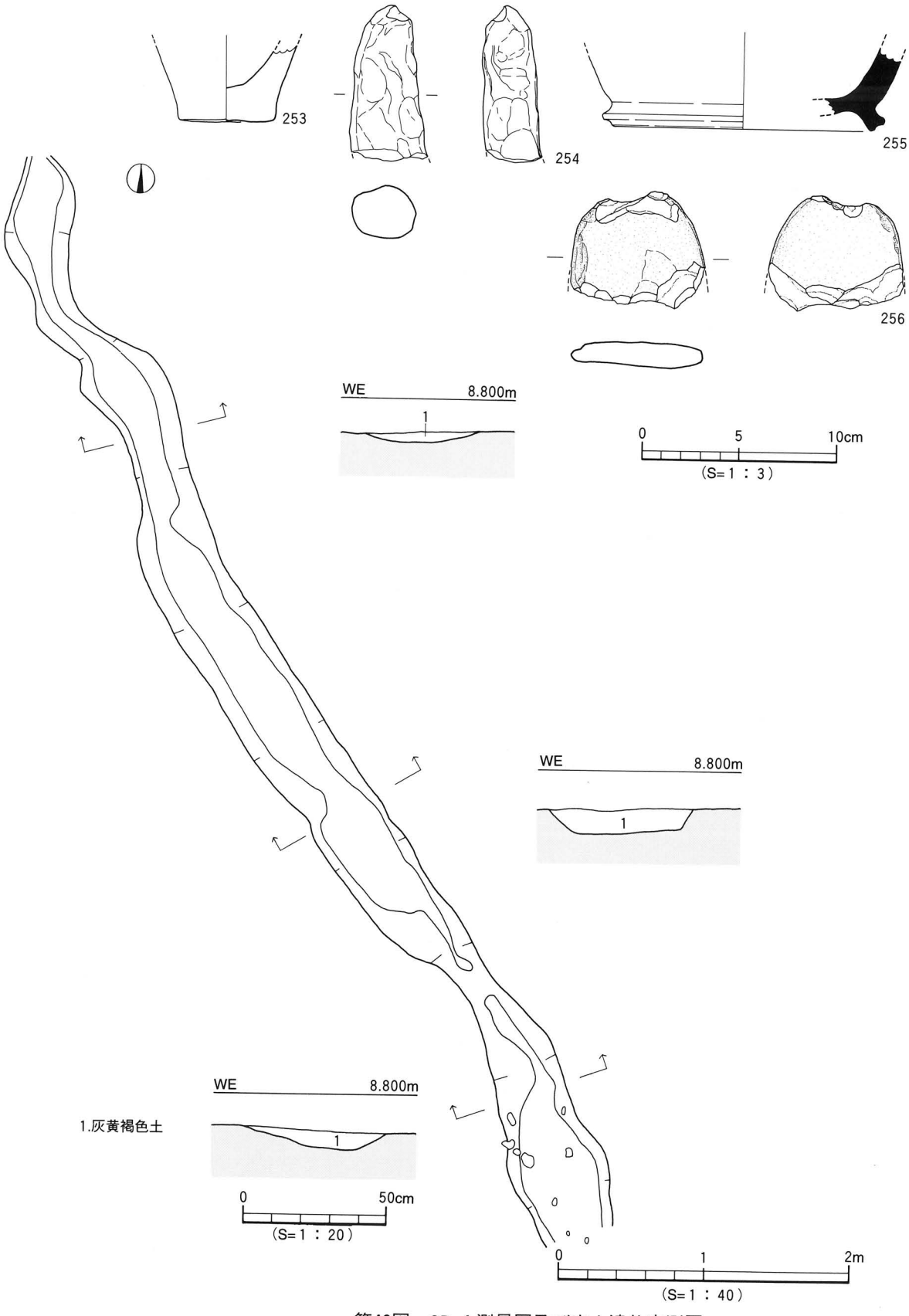
4．その他の出土遺物（第51～53図）

土師器（260～272）260・261は甕形土器の口縁部。260は外傾する口縁部。端面は水平でわずかにくぼむ。261は外傾する口縁部。端部は端部手前で細くなり丸い。262～265は高坏形土器の柱部である。262は上部に穿孔がある。263は径1.2cmの円孔が3方向に残る。266・267は甑形土器の把手である。把手断面は266が円形で、267は楕円形である。268～272は高台付の埦形土器である。268・269の高台端部は丸く、270・271は細く丸い。272は短く「コ」の字状に丸い。

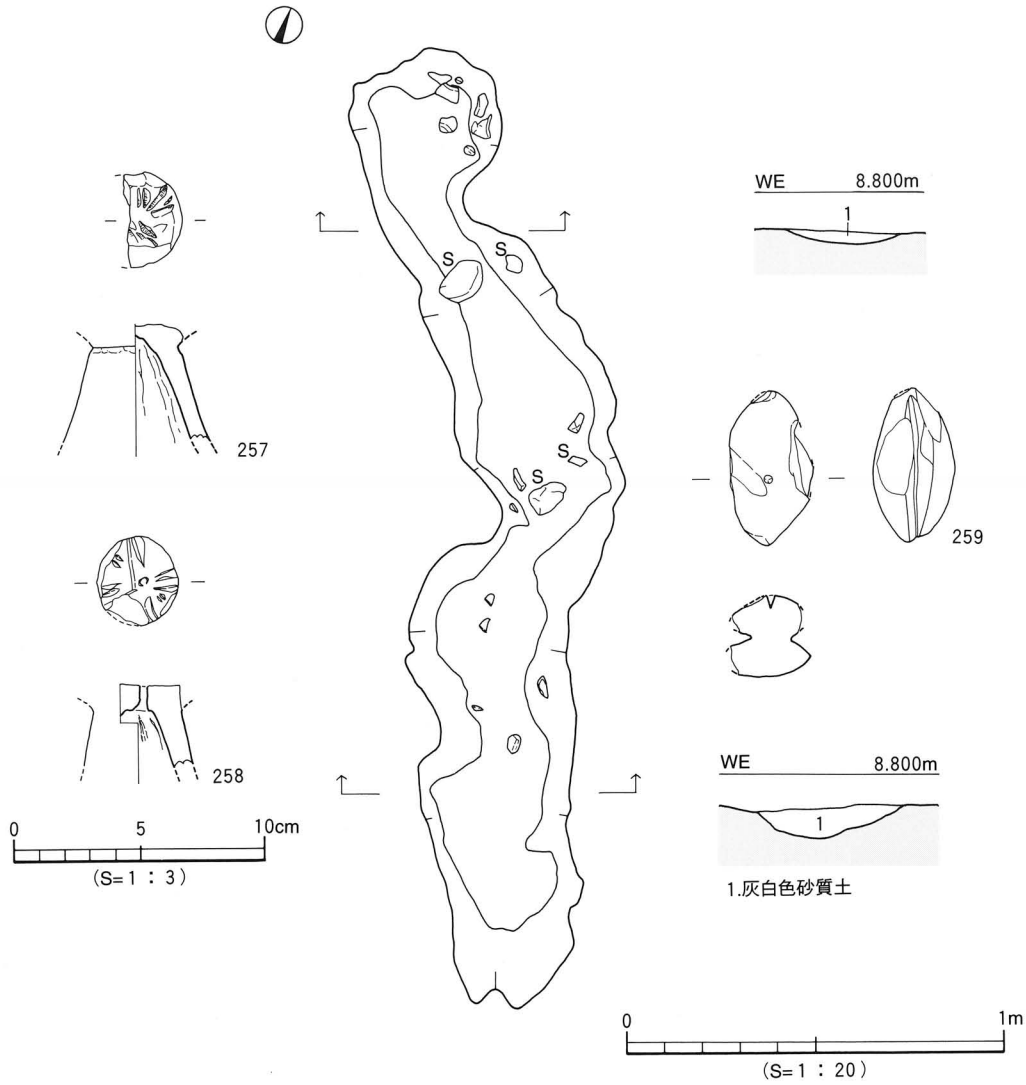
須恵器（273～279）273・274は坏蓋である。273は天井部がわずかにくぼみ、口縁部は直立気味に内湾し口端部はくぼむ。口縁部と天井部を分ける稜は断面三角形で明瞭である。274は緩やかな曲線を描く天井部とわずかに開く口縁部。口端面は内傾し内面に明瞭な稜をもつ。口縁部と天井部を分ける稜は断面三角形状である。275・276は坏身である。275は平坦な浅い底部に内傾し外反気味の口縁部。口端部は「コ」の字状に丸く端面は内傾する。受部は短く水平気味に伸びる。276は短く外上方に伸びる受部。口縁部は内傾し口端部は外方向にわずかに拡張される。端面はくぼむ。底部外面にヘラ記号が看取される。277・278は無蓋高坏の坏部片である。277の口縁部は外傾し内湾気味に立ち上がり端



第48図　SD 3 測量図及び出土遺物実測図



第49図　SD 4 測量図及び出土遺物実測図



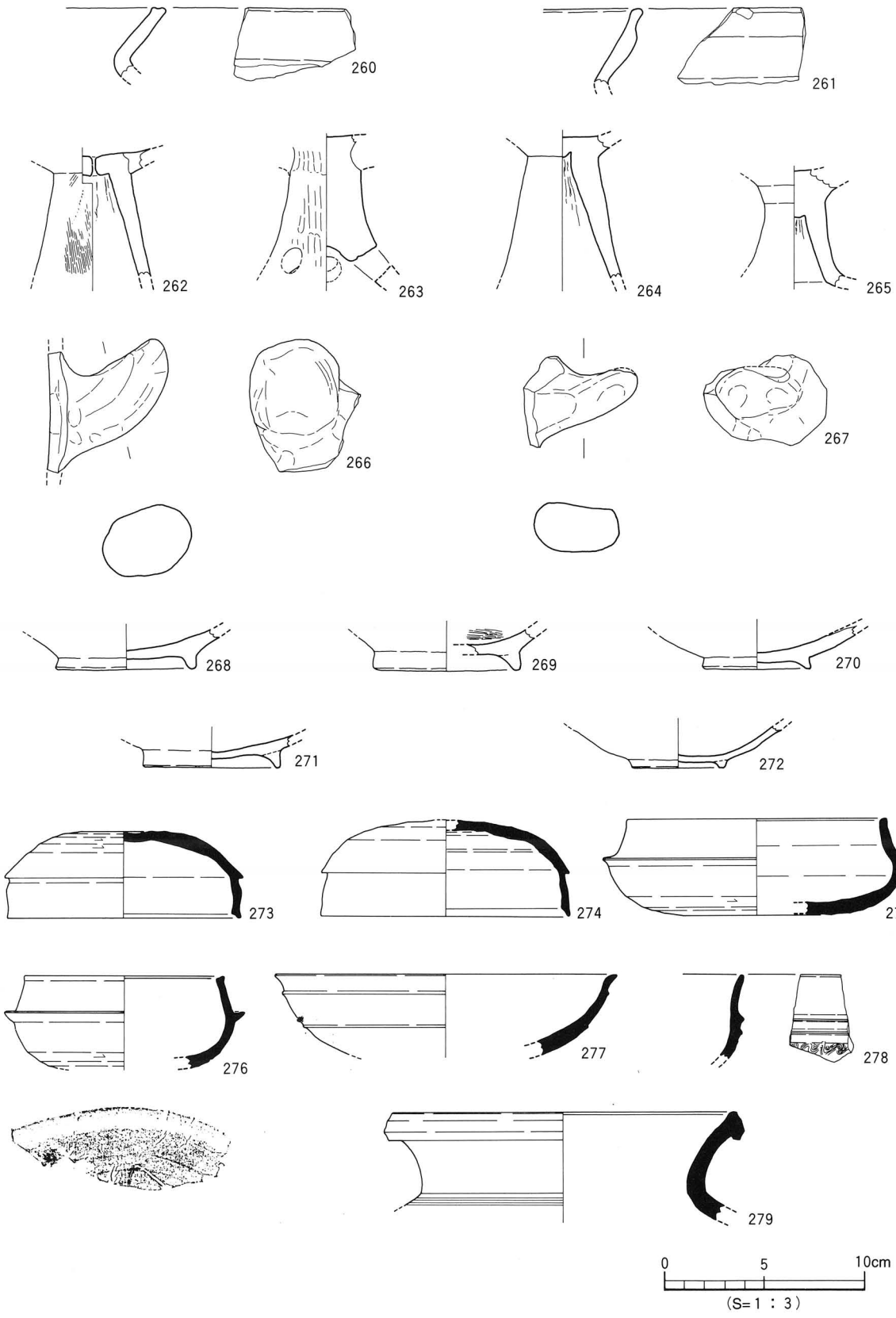
第50図　SD 12測量図及び出土遺物実測図

部はわずかに外反し尖り気味である。外面に明瞭な段が2ヶ所に見られる。278は直立気味で外反する口縁部の端部は丸い。外面に凸帯文2条と波状文を施す。内面に緑色の自然釉が付着する。279は甕形土器。外反する口縁部の端部は上下に拡張される。

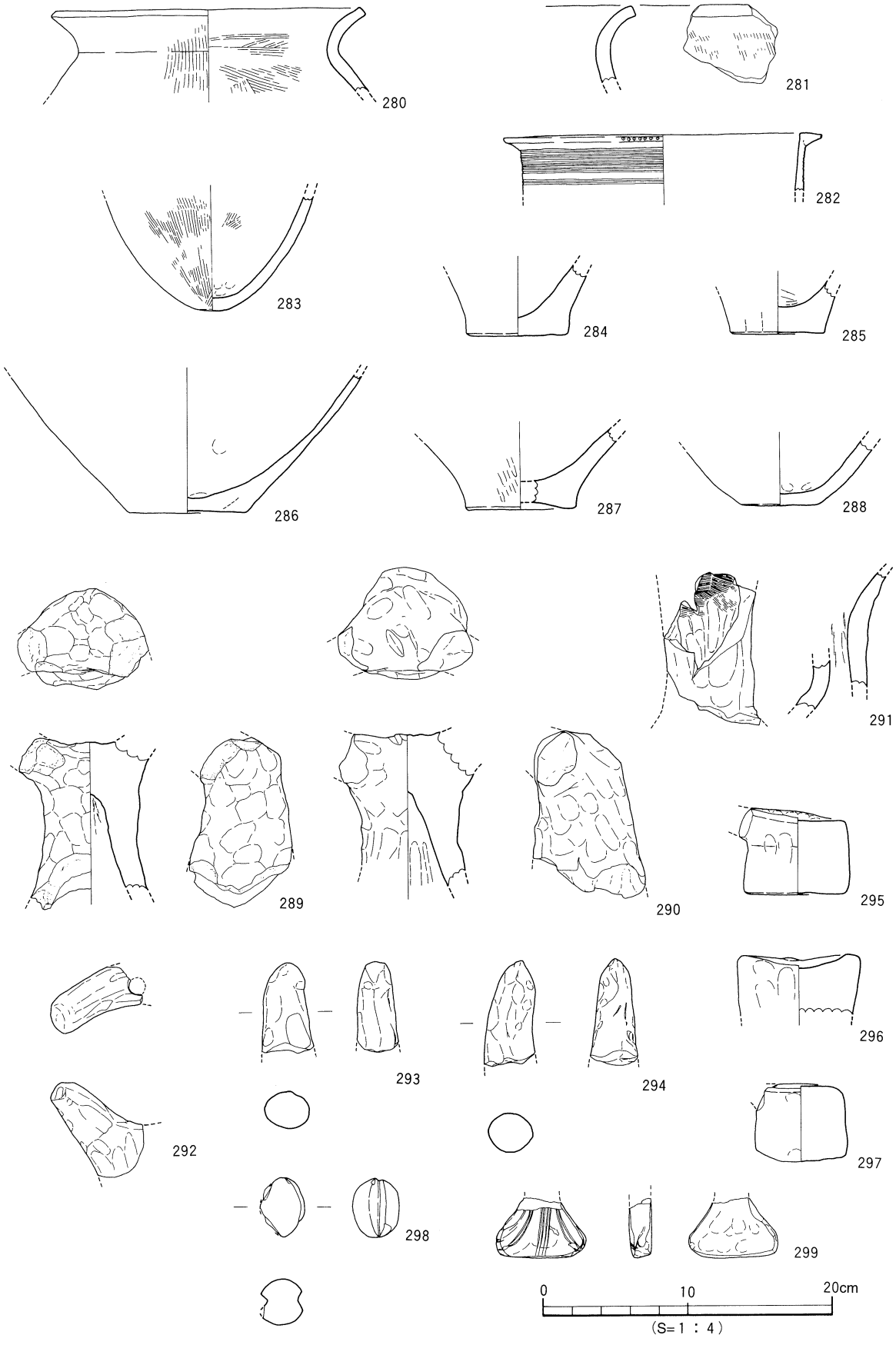
弥生土器（280～299）280～285は甕形土器である。280～282は口縁部。280・281は外反する口縁部の端部は「コ」の字状である。282は貼付口縁で端部にキザミと胴上部に沈線文を施す。283～285は底部片。283は丸底、284・285は平底である。286～288は壺形土器の底部である。286・288は平底、287はわずかに上げ底。289～297は支脚形土器である。289・290は角状突起が付く形態である。291は受部を「U」字状にカットする形態である。292～294は角状の突起部である。295は低い台形状で1ヶ所に短い角状突起が付くと思われるが欠損している。296は底部を欠損しているが台形状と思われる。上面はくぼんでいる。297は台形状で突起部を欠損している。298は土錘である。299は分銅形土製品である。線刻を施している。

石製品（300・301）300は砥石である。よく使い込まれておりくぼみが顕著で線状の使用痕が残る。301は台石（凹石）である。両面に使用によるくぼみが顕著である。

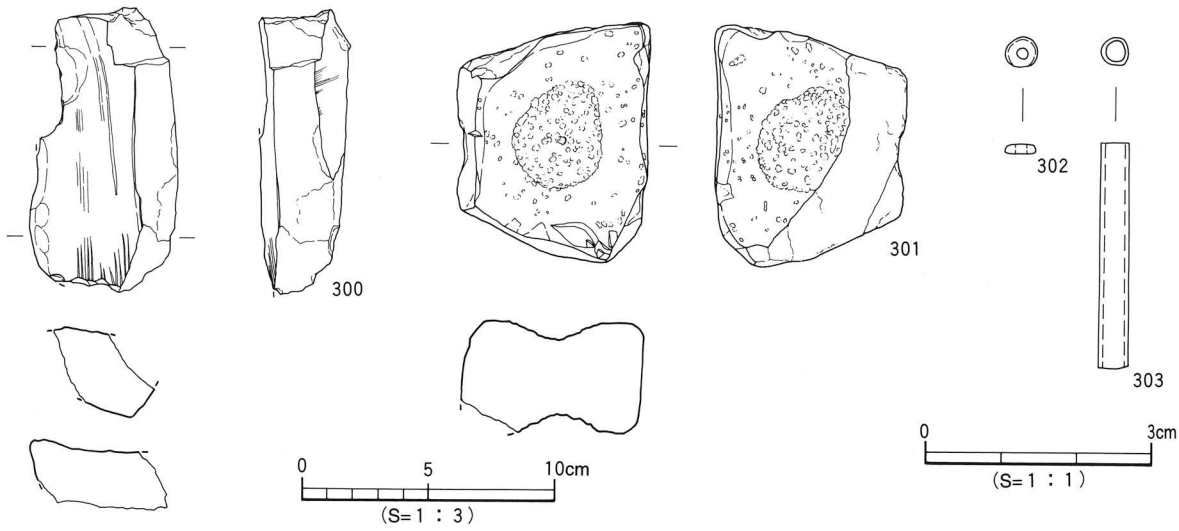
装身具（302・303）302は臼玉、303は管玉である。



第51図　その他出土遺物実測図(1)



第52図　その他出土遺物実測図(2)



第53図　その他出土遺物実測図(3)

遺構・遺物一覧　—凡例—

(1)　以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。
遺構一覧は髙尾が、遺物観察表は髙尾・中村が作成した。

(2)　遺物観察表の各掲載について。

法　量　欄　(　)：復元推定値

形態・施文欄　土器の各部位名称を略記。

例）口→口縁部、胴中→胴部中位、柱→柱部、胴底→胴部～底部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土。(　)中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）砂・長（1～4）、多→「1～4㎜大の砂粒・長石を多く含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表1　自然流路一覧

流路(SR)	地　区	断面形	規　模（m）長さ×幅×深さ	方　向	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	C 18～E 4 G 18～J 3		24×55×1.0	南北	黒褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀前半	SD 3、SK 6・14、SX 2・14に切られる。

表2　溝一覧　(1)

溝(SD)	地　区	断面形	規　模（m）長さ×幅×深さ	方　向	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	C 19～22	皿状	10×0.3×0.05	西～東	灰黄褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	7世紀末	SX 15、SD 6・11を切る
2	C 22～G 20	皿状	17×0.4×0.04	北西～南東	灰黄褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	7世紀末	SD 6・11を切る
3	D 15～E 21	皿状	25×0.3×0.02	西～東	灰黄褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	7世紀末	SR 1、SX 14を切る
4	E 22～G 21	皿状	16×0.5×0.1	北西～南東	灰黄褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	7世紀末	
5	D 21	レンズ状	3.0×0.2×0.05	南～北	暗褐色土		5世紀末	SX 17を切る

溝一覧 (2)

溝 (SD)	地区	断面形	規模（m） 長さ × 幅 × 深さ	方向	埋土	出土遺物	時期	備考
6	B 20～D 22	レンズ状	1.1×0.6×0.12	南西～北東	暗褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	SX 17 を切り SD 1・2 に切られる
7	C 20～E 19	レンズ状	5.0×0.3×0.03	南～北	暗褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	SD 6 に切られる
8	C 18・19	皿状	3.6×0.5×0.08	東～西	暗褐色土		5世紀末	
9	F 18・19	皿状	5.2×0.3×0.07	西～東	褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	
10	D 17～F 19	レンズ状	3.5×0.6×0.2	南西～北東	褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	
11	B 20～C 22	レンズ状	8.5×0.5×0.13	南西～北東	茶褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	SX 15 を切る SD 1・2 に切られる
12	F 22	レンズ状	2.5×0.4×0.08	北西～南東	灰白色砂質	弥生土器 須恵器	7世紀末	

表3 土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模（m） 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋土	出土遺物	時期	備考
1	I 3	円	逆台形状	2.7×2.7×0.55	黒褐色土		5世紀末	
2	I・J 3	円	レンズ状	1.3×1.3×0.34	黒褐色土	弥生土器	5世紀末	
6	D・E 15	不定	すりばち状	2.7×1.0×0.2	黒色粘質土	土師器	5世紀前半	SR 1 を切る
7	F 14	楕円	「U」字状	0.7×0.55×0.45	黒色粘質土	土師器 (高坏)	4世紀末～ 5世紀初頭	SR 1 の底から検出
14	E 16	楕円	すりばち状	2.0×1.8×0.9	黒色粘質土	土師器	5世紀前半	SR 1 を切る

表4 性格不明遺構一覧

性格不明遺構 (SX)	地区	平面形	断面形	規模（m） 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋土	出土遺物	時期	備考
1	J・K 2	円形	皿状	3.16×3.08×0.12	黒褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	東・南は調査区外に続く
2	D 15・16	方形	レンズ状	2.64×1.88×0.27	黒色粘質土		5世紀末	SD 3 に切られる
3	E・F 18	楕円形	レンズ状	2.8×1.54×0.18	黒褐色土		5世紀末	SD 10 に切られる
4	G 19	円形	レンズ状	1.5×0.76×0.35	黒褐色土		5世紀末	
5	D 19	円形	レンズ状	1.9×1.9×0.2	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
6	C・D 18・19	円形	レンズ状	2.3×2.3×0.5	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
7	G 19	隅丸方形	皿状	1.4×1.1×0.06	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
8	D・E 21	楕円形	皿状	1.1×0.8×0.1	黒褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	
9	D・E 20	楕円形	すりばち状	1.5×1.0×0.3	黒褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	
10	E 21	楕円形	すりばち状	1.3×1.0×0.3	黒褐色土	弥生土器	5世紀末	SD 2 に切られる
11	C 20	隅丸長方形	皿状	1.7×0.7×0.1	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
12	F 19	円形	皿状	1.1×1.1×0.23	黒褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	SD 9 に切られる
13	E 19	楕円形	レンズ状	1.3×1.2×0.23	黒褐色土	弥生土器	5世紀末	SD 3 に切られる
14	D・E 16・17	円形	すりばち状	2.1×2.1×0.6	暗褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	SR 1 を切る SD 3 に切られる
15	C 21	円形	すりばち状	2.3×2.0×0.6	暗褐色土	弥生土器 土師器 須恵器	5世紀末	SD 1・11 に切られる
16	C 19・20	楕円形	すりばち状	1.6×1.1×0.3	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
17	D 22	楕円形	皿状	1.5×1.0×0.18	暗褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	SD 2・5・6 に切られる

表5　SR 1出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	甕	口径 16.6 器高 26.5	完形品。球形の体部に外傾する口縁部。口端部は尖り気味に丸く仕上げている。	ハケ(10～11本/cm)→ナデ	㊐ハケ(10～11本/cm)→ナデ ㊋㊎ケズリ	灰黄色 灰黄色	石・長(1～3) ◎	F12・13区 黒斑	8
2	甕	口径(16.8) 残高 11.5	肩の張らない胴部に、外傾して口端部手前で外反する口縁部をもつ。口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	㊐ヨコナデ ㊋マメツ	㊐ヨコナデ ㊋上ナデ上げ ㊋中ケズリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～5) 金 ◎	F12・13区	
3	甕	残高 17.2	肩の張らない丸味のある胴部に外傾する口縁部をもつ。内面にはケズリ痕が顕著である。	㊐ヨコナデ ㊋ハケ(11本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ㊋ケズリ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1～3) ◎	F12・13区 煤付首	
4	甕	残高 17.5	球形の胴部に外傾する口縁部をもつ。内面にはケズリ痕が顕著である。	㊐ヨコナデ ㊋ナデ(一部ハケ(9本/cm)	㊐ナデ ㊋ケズリ→ハケ(9本/cm)	乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1～4) ◎	F12・13区 煤付着	
5	甕	口径 15.1 器高 24.8	胴中位に最大径を測りわずかに長球形化する。口縁部は頸部で「く」の字状に折れ曲がり外傾する。	㊐ハケ(4本/cm)→ヨコナデ ㊋上ハケ(4～7本/cm) ㊋下ハケ(4本/cm)→ナデ	㊐ハケ(4本/cm) ㊋ケズリ	暗黄灰色 暗黄灰色	石・長(1～3) ◎	I7区 煤付着	8
6	甕	口径 14.8 残高 10.6	やや肩の張る胴部と外傾する口縁部をもち口端部はナデにより内側に肥厚され口端面はくぼむ。	㊐ヨコナデ ㊋上ハケ(9本/cm)→ナデ ㊋中ナデ	㊐ヨコナデ ㊋ケズリ 指おさえ	乳黄茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ○	I7区	
7	壺	口径 13.0 器高 36.1	完形品。大型の球形な体部に直立する短い頸部をもち口縁部は外反後、内湾気味に上方に伸びる。	㊐ヨコナデ ㊎ハケ(6本/cm)→ヨコナデ ㊋ハケ(5本/cm)	㊐ヨコナデ ㊎ナデ ㊋上ケズリ→ナデ ㊋下ケズリ	赤褐色・暗灰色 灰色	石・長(1～5) ◎	I7区 黒斑	8
8	壺	口径 16.6 器高 22.5	完形品。球形の胴部に外傾する長い口縁部をもつ。口端面はほぼ水平で丸い。内面に粘土接合痕が顕著である。	ナデ	ナデ	灰黄色 暗灰褐色	石・長(1～2) ◎	F7区 煤付着	8
9	壺	口径(18.0) 残高 19.5	肩部から口縁部にかけての残存である。口縁部は外傾し中位で段をもち口端部は水平な面をもつ。	㊐㊍ヨコナデ ㊋ハケ(5本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ㊋ケズリ→ナデ	乳橙色 灰黄色	石・長(1～2) ◎	F7区	9
10	壺	口径(17.7) 残高 7.8	頸部から口縁部の残存である。口縁部はわずかに外反し口端部はナデによりくぼむ。	㊐端ヨコナデ ㊎カキメ→回転ナデ ㊍マメツ	㊐㊎回転ナデ ㊍マメツ	乳灰色 乳灰色	密 ◎	F7区	
11	甕	口径(14.0) 器高 23.2	完形品。球形な胴部の最大径は胴中位わずかに上方に測る。口縁部はわずかに外反し口端部は丸い。	㊐マメツ ㊋上ハケ(5本/cm) ㊋下板ナデ	㊐ハケ(5本/cm) ㊋上ナデ上げ ㊋下ケズリ	乳灰色 乳灰色	石・長(1～4) ◎	F9区 煤付着	9
12	甕	口径(20.0) 残高 22.4	口縁部から胴部の残存である。緩やかな曲線を描く胴部に外傾する口縁部。口端部はナデにより水平で幅広になる。	㊐ヨコナデ 煤付着の為不明	板ナデ	黄褐色 黄灰色	石・長(1～3) ◎	G5区 煤付着	
13	壺	底径 4.0 残高 8.5	丸味をもつ平底の底部。	ハケ(12～13本/cm)	ハケ(12～13本/cm)→ナデ	灰茶白色 暗灰色	石・長(1～6) ◎	G5区	
14	壺	口径 17.6 残高 7.7	口縁部は短く外反し長く上外方に立ち上がり、口端部は丸くわずかに水平面をもつ。	板ナデ	ナデ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1～3) ◎	G7区	9
15	甕	底径 8.0 残高 19.8	底部から胴部にかけての残存である。わずかに上げ底の底部と、外傾して立ち上がる胴部。	㊎ナデ ㊋ミガキ	ミガキ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1～3) ○	H8区 黒斑	
16	甕	底径 6.7 残高 14.1	底部から胴部。わずかに上げ底の底部と、外傾して立ち上がる胴部。	㊎ナデ ㊋ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 乳黄茶色	石(1～5) 長(1～2) ○	J5区 黒斑	
17	甕	口径(17.4) 残高 32.6	大型品。やや肩の張る胴部は胴中上部で最大径を測る。口縁部は「く」の字状に折り曲げ口端部はナデにより水平な面をもつ。	㊐ヨコナデ ㊋ハケ(7本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ㊋ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1) ◎	J3区	9
18	甕	口径(18.8) 残高 8.3	口縁部は「く」の字状に折り曲げ口端面はナデにより内傾する。	㊐マメツ ㊋ハケ(6本/cm)	マメツ	灰黄茶色 灰橙茶色	石・長(1～3) ◎	J3区	
19	甕	口径(14.9) 残高 5.6	口縁部は「く」の字状に折り曲げ口端部は厚く丸味をもつ。	㊐マメツ ㊋ハケ(5本/cm)	マメツ	暗灰褐色 灰黄褐色	石・長(1～3) ◎	J3区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調(内面)	胎土 焼成	備考	図版
20	甕	口径(16.6) 残高 4.5	「く」の字状に折り曲げる口縁部。口端部はナデにより内傾し面をもつ。	㊐ヨコナデ ㊒ハケ(6本/cm)	㊐ヨコナデ ㊒マメツ	乳黄灰色 (一部暗灰色) 乳黄灰色	石・長(1) ○	J3区	
21	甕	口径(13.0) 残高 5.5	直立して外反する口縁部。口端部はナデにより肥厚され丸味をもつ。	㊐ヨコナデ ㊒ヨコナデ→格子状タタキ	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1～2) ◎	J3区	9
22	甕	残高 3.7	口縁部はわずかに内湾し口端部はナデにより内傾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 黄茶色	石・長(1～5) ◎	J3区	
23	甕	口径 12.2 器高 19.1	完形品。球形の胴部。口縁部は歪みがあり外傾する部分と直立する部分とがある。	㊐マメツ ㊒ハケ(5本/cm) (6本/cm)	㊐マメツ ㊒ケズリ ㊓指圧痕	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1～3) 金 ◎	J3区	9
24	壺	口径 9.4 器高 11.9	小型品。扁球形な胴部から短く外反し外上方に長く伸びる口縁部をもつ。	㊐ナデ ㊒ハケ(8～9本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ㊒ナデ上げ	暗灰黄色 灰黄色	石・長(1～3) ◎	J3区	10
25	壺	口径 (7.6) 残高 7.9	小型品。直立気味に外反する口縁部。口端部は丸味をもつ。内外面に指ナデや指頭痕が見られ粗製土器である。	㊐口端ナデ ㊐ハケ(5本/cm) ㊒ナデ	ナデ	乳黄灰色 暗灰黄色	石・長(1～4) ◎	J3区	10
26	高坏	口径(16.2) 底径 10.3 器高 12.6	完形品。短く大きく広がる裾部。坏部は口縁部が外傾し内湾する。外面に段をもつ。	マメツ	㊐口端ヨコナデ ㊓坏ハケ(6本/cm) ㊓脚ケズリ	灰黄色 灰黄色	石・長(1～2) ◎	J3区 黒斑	10
27	高坏	口径 15.3 底径 (8.3) 器高 11.8	完形品。外傾し内湾しながら立ち上がる口縁部。口端部は外反する。	㊓坏ヨコナデ ㊓指おさえ→ヨコナデ ㊓脚ナデ ㊓脚ヨコナデ	㊐坏上ヨコナデ ㊐坏下ミガキ ㊓脚ケズリ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1) ◎	J3区	10
28	甕	残高 4.6	折曲口縁。	マメツ	マメツ	茶色 茶色	石・長(1～3) ○	J3区	
29	甕	底径 6.4 残高 2.8	平底。	マメツ	マメツ	乳灰色 暗乳灰色	石・長(1～4) ◎	J3区	
30	壺	底径 (6.4) 残高 11.2	外傾して立ち上がる胴部。	ミガキ	ナデ	乳黄灰色 黄灰色	石・長(1～4) ◎	J3区 黒斑	
31	支脚	残高 12.7	角状突起が1ヶ残る。上部に貫通孔をもつ。	タタキ→ナデ	絞り痕	乳灰茶色 黄灰色	石・長(1～3) ◎	J3区	
32	甕	口径 15.8 残高 16.4	なだらかな曲線をもつ胴部に外反する口縁部。口端部は丸い。	㊐ヨコナデ ㊒上ハケ(8本/cm) ㊒中ケズリ	㊐ヨコナデ ㊒ナデ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1) ◎	J4区 黒斑	10
33	甕	口径 15.9 残高 11.3	わずかに外反する口縁部。口端部は尖り気味に丸い。	㊐ハケ(5本/cm) →ヨコナデ ㊒ハケ(5本/cm)	㊐ハケ(5本/cm) ㊒ケズリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～2) ◎	H5・6区	10
34	甕	口径(15.2) 残高 7.5	外反する口縁部。口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	㊐ヨコナデ ㊒マメツ	㊐ヨコナデ ㊒ケズリ？	灰茶色 灰茶色	石・長(1) 金 ◎	H11区	
35	甕	口径(15.8) 残高 11.5	大きく外傾しわずかに内湾する口縁部。口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	㊐ヨコナデ ㊒ハケ(7本/cm)	㊐ヨコナデ ㊒上ナデ ㊒中ケズリ	乳黄茶色 灰黄白色	石・長(1～3) ◎	F3区 黒斑	
36	甕	口径(15.0) 残高 2.8	外反する口縁部。口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～4) ◎		
37	甕	残高 1.8	外反する口縁部。口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～2) ◎		
38	甕	口径(12.0) 残高 10.8	球形の胴部に外傾する口縁部をもち口端部は先細りする。	㊐口端ナデ ㊐マメツ ㊒ハケ(7本/cm)	㊐ハケ(8本/cm) ㊒ナデ	乳灰茶色 暗灰茶色	石・長(1～4) ○	H11区 煤付着	

SR 1 出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
39	甕	口径(11.4) 残高 14.6	直立気味にわずかに外傾する口縁部の端部は尖り気味に丸い。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ ㊂ケズリ	灰白色 灰白色	石・長(1～3) ◎	F9区 煤付着	
40	甕	口径(12.4) 残高 8.9	外傾する口縁部の端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(4本/0.8cm)	㊀ヨコナデ ㊁ナデ ㊂ケズリ→ナデ上ゲ	茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎	H6区 煤付着	
41	甕	口径(16.4) 残高 17.3	外傾する口縁部。口端部は丸い。肩部に「メ」の字状のヘラ記号がある。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(13本/cm)	㊀ヨコナデ ㊁指頭痕 ケズリ	乳黄灰色 暗黄茶色	石・長(1) ◎	P12区 煤付着	10
42	甕	口径(18.4) 残高 5.5	緩やかな曲線の頸部に外傾する口縁部。口端部は水平気味に丸い。	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	㊀端ナデ ㊀ヨコナデ ㊁マメツ	灰色 灰色	石・長(1～2) ◎	F8区	
43	甕	口径(15.2) 残高 9.2	「く」の字状に折れ曲がる口縁部。口端部は先細りし丸い。	㊀ハケ→ナデ ㊁ハケ(9本／cm)	㊀ハケ(9本／cm) ㊁ケズリ	暗灰茶色 暗灰黒色	石・長(1～3) 金 ◎	F13区 黒斑	
44	甕	口径(17.0) 残高 3.9	外傾する口縁部。口端部付近は細く仕上げている。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰茶色 暗灰色	石・長(1～4) ○	F12区	
45	甕	口径(14.0) 残高 3.3	外傾する口縁部。口端部手前はわずかに内湾気味で端部は丸い。	ヨコナデ	マメツ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1) 金 ○	J4区	
46	甕	口径(15.7) 残高 4.5	外傾する口縁部はわずかに内湾気味で口端部は丸い。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(4～5本/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(8～9本/cm)→ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石長(1) ○	F6区	
47	甕	口径(13.8) 残高 8.3	外傾しわずかに内湾気味の口縁部。口端部は丸い。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(6～8本/cm) ㊂ハケ→ナデ	㊀ハケ(4本/cm) ㊁ナデ上げ ㊂ケズリ	灰白色 灰白色	石・長(1～4) ◎	F12区 煤付着	
48	甕	口径(12.0) 残高 18.2	口縁部は直線的に外傾し口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	㊀端ナデ ㊀㊁ハケ(6本/cm)→ナデ	㊀ハケ(6本/cm) ㊁ケズリ→ハケ(6本/cm)	乳灰色 乳灰色	石・長(1～3) ◎	F12区 煤付着	
49	甕	口径(14.2) 残高 18.6	口縁部は外傾して内湾する。口端部は「コ」の字状で丸く口端面は内傾する。	㊀ナデ ㊁タタキ→ハケ(11本/cm)	㊀ナデ ㊁ケズリ	暗灰黄色 灰黄色	石・長(1～2) ◎	D12区 黒斑	
50	甕	口径(13.0) 残高 14.3	球形の胴部に外傾する口縁部をもつ。口端部は内面に粘土を貼り付け内側に突出する。	㊀ヨコナデ ㊁上ハケ(11本/cm) ㊁下ハケ(7本/cm)	㊀ヨコナデ ㊁上ナデ ㊁下ケズリ	暗茶色 黒色	石・長(1～3) ◎	D12区 黒斑	
51	甕	口径(18.8) 残高 7.1	外傾する口縁部。口端部は水平面をなしナデによりややくぼむ。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(5本/cm)	㊀マメツ ㊁ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1～4) ◎	E16区	
52	甕	口径(16.1) 残高 9.7	口縁部は外傾し口端面は内傾する。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(7本/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	灰褐色 灰色	石・長(1～2) ◎	G7区	
53	甕	口径(14.2) 残高 7.6	外傾する口縁部の端部は肥厚され水平気味に丸い。	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1～2) 金 ◎	I12区	
54	甕	口径(17.6) 残高 5.3	口縁部は外傾し口端部は肥厚され水平面をなしナデによりわずかにくぼむ。	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ○	E16区	
55	甕	口径(13.9) 残高 4.8	「く」の字状の口縁部。口端面は水平気味にわずかに内傾する。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳灰茶色 (一部暗灰色) 乳灰茶色	石・長(1～2) ○	D16区	
56	甕	口径(17.8) 残高 4.9	外傾しわずかに内湾する口縁部。口端面は水平気味にわずかに内傾する。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(5本/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳茶色 乳黄茶色	石・長(1～2) ◎		
57	甕	口径(17.6) 残高 3.8	口縁部は外傾しわずかに内湾する。 口端面は水平気味にわずかに内傾する。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1～2) ◎	E16区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品　(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)	焼成		
58	甕	口径(16.1) 残高 4.7	口縁部は直立気味にわずかに内湾する。口端面は内傾する面をもつ。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	D15区	
59	甕	口径(31.2) 残高 4.3	大型品。縁部は外傾して短く屈曲する。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	C18区	
60	甕	口径(19.5) 残高 4.8	口縁部は外傾し口端部は水平な面をもちナデによりわずかにくぼむ。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(6～7本/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳灰茶色 (一部乳橙色) 乳灰茶色 (一部乳橙色)	石・長(1～2) ○	E16区	
61	甕	残高 4.4	口縁部はわずかに内湾し口端部は水平面をなし端面はナデによりわずかにくぼむ。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1～3) ◎	J 7区	
62	甕	口径(15.4) 残高 17.9	口縁部は外傾し内湾して立ち上がる。口端面はナデによりくぼむ。	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	㊀ナデ ㊁上ケズリ→指おさえ ㊁下ケズリ	灰橙白色 灰橙白色	石・長(1～5) ◎	G15区	
63	甕	口径(14.2) 残高 8.2	口縁部は外傾し口端部はナデにより上方に伸び外側に面をもつ。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(8～9本/cm)→ナデ	㊀ナデ ㊁ケズリ	乳白色 乳白色	石・長(1～4) ◎	G15区	
64	甕	残高 12.9	やや肩の張る胴部。内面にケズリ痕が顕著である。	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	㊀ナデ ㊁ケズリ	灰色 暗灰色	石・長(1～3) ◎	F10区 煤付着	
65	甕	残高 7.6	なだらかな肩部。	マメツ	ケズリ	乳黄茶色 乳黄灰色	石・長(1～4) ○	F 8区	
66	甕	残高 12.2	球形状の胴部。	ハケ(5～6本/cm)	ケズリ→板ナデ	黒灰色 (一部乳黄灰色) 乳灰色	石・長(1～3) ○	H 7区 煤付着	
67	甕	残高 10.2	なだらかな肩部。	マメツ	マメツ	灰橙色 灰色	石・長(1～6) ○	G 7区 煤付着	
68	壺	口径(14.8) 残高 9.7	肩の張る胴部に外反する口縁部。口端部は先細りし丸い。	㊀ヨコナデ ハケ(9～10本/cm)	㊀マメツ ケズリ→ハケ(9～10本/cm)	灰茶色 乳茶褐色	石・長(1～4) ○	F 8区	
69	壺	口径(16.4) 残高 6.1	口縁部は頸部より直立気味に短く立ち上がり外反する。口端部は丸い。	ナデ	㊀ナデ ケズリ	灰茶色 灰茶色	石・長(1～7) ◎	F 8区	
70	壺	口径(15.9) 残高 6.4	口縁部は外傾し口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。頸部にナデによる段をもつ。器壁は厚い。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳黄茶色	石・長(1～6) ◎	F11区	
71	壺	口径(16.4) 残高 5.7	外反する口縁部。口端部は面をもちわずかにくぼむ。	ハケ(8～10本/cm)→ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1～4) ◎	D14区	
72	壺	口径(13.8) 残高 4.4	口縁部は外傾し口端部手前で外反する。	㊀口端ヨコナデ ハケ(6本/cm)→ヨコナデ	ハケ(6本/cm)	黒色 乳灰黄色	石・長(1) 金 ◎	H 6区	
73	壺	口径(10.4) 器高 14.8	完形品。球形の胴部に直立気味に立ち上がる口縁部。口端部は尖り気味に丸い。	㊀ ㊁ヨコナデ ハケ(5本/cm)	ナデ	暗灰黄色 暗灰黄色	石・長(1～2) ◎	E12区 黒斑	
74	壺	口径 (8.4) 残高 6.5	長めの胴部に弱く屈曲する頸部と外傾する口縁部。口端部は丸い。	平行タタキ→ナデ	ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～5) ◎	D14区	
75	壺	口径 (9.0) 残高 6.7	口縁部は外傾し口端部は尖り気味である。	㊀ハケ(5本/cm)→ナデ ナデ	㊀ハケ(5本/cm)→ナデ ケズリ	灰茶色 暗灰色	石・長(1) 金 ◎	F12区	
76	鉢	口径(31.5) 残高 15.0	口縁部は短く外傾したのち屈折し直立気味に立ち上がる。 口端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	㊀ ㊁ナデ ハケ(7本/cm)→ナデ	㊀ハクリ ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～4) ◎	F13区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品　(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
77	壺	口径(21.0) 残高 5.7	口縁部は口縁下部で屈曲し外傾する。口端部は丸い。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳橙色	石・長(1～2) ◎	F8区	
78	壺	口径(18.0) 残高 6.8	口縁部は外傾し中位で屈折する。口端部は丸く，内側に肥厚される。	㊐ ㊒ヨコナデ ハケ(4本/cm)	ナデ	灰茶色 乳灰黄色	石・長(1～3) ◎	D15区 黒斑	
79	壺	口径(20.6) 残高 8.8	口縁部は大きく外反し口縁上位で屈曲し短く立ち上がる。	㊐ヨコナデ ハケ(6本/cm)→ ヨコナデ	㊐ヨコナデ ㊒ハケ(6本/cm) →ナデ ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎	E7区	
80	壺	口径(21.0) 残高 7.1	口縁部は短く外反し段をなして屈曲したのち外反気味に立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1～6) ◎	F7区	
81	高坏	口径(18.0) 残高 5.1	坏部。水平に伸びる坏底部。口縁部は外傾し口端部は尖り気味に丸い。	㊐端ミガキ ㊐ヨコナデ ㊐底ハケ	ミガキ (マメツが著しい)	乳橙色 乳橙色	石・長(1～2) 金 ◎	F13区	
82	高坏	口径(18.0) 残高 6.1	坏部。口縁部は外傾し外面に稜をもち屈曲して立ち上がる。口端部は尖り気味である。	マメツ	㊐ヨコナデ マメツ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1～2) 金 ◎	H7区 黒斑	
83	高坏	口径(17.7) 残高 4.0	坏部。水平な坏底部より屈曲して立ち上がる。口端部は丸い。	㊐ヨコナデ マメツ	㊐ヨコナデ マメツ	乳橙色 乳橙色	石・長(1～3) 金 ◎	F12区	
84	高坏	底径(10.4) 残高 8.0	柱部。裾部は屈曲して広がる。端部は丸味をもち接地する。	マメツ	㊐底マメツ ㊐脚ケズリ ㊐裾マメツ	乳橙色 乳橙色	長(1) 密 ◎	C17区	
85	高坏	残高 4.8	柱部。	マメツ	㊐脚絞り痕 マメツ	乳橙色 橙色	石・長(1～2) ◎	H14区	
86	高坏	残高 6.6	柱部。	マメツ	マメツ	乳黄色 乳橙色	石・長(1～2) ◎	G区	
87	高坏	残高 5.2	柱部。	マメツ	㊐脚上絞り痕 ナデ	乳茶色 乳茶灰色	長(1) 密 ◎	F15区	
88	埦	口径(12.2) 器高 5.4	口縁部は丸底の底部より内湾しながら立ち上がる。口端部は尖り気味に丸い。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ○	H10区	
89	甑	残高 3.8	舌状の把手部。断面は隅丸長方形。	ハケ(6本/cm)→ ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ◎	E15区	
90	甑	残高 4.5	舌状の把手部。断面は丸い。	ナデ	マメツ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1～3) ◎	D15区	
91	甑	残高 3.7	舌状の把手部。上部が溝状にくぼんでいる。	ナデ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～2) ◎	D14区	
92	甑	残高 3.5	棒状に水平に伸びる把手部。断面は丸い。	ナデ	指頭痕	黄茶白色 黄茶白色	石・長(1～3) ◎	H5区 黒斑	
93	坏蓋	口径(13.9) 残高 5.0	丸い天井部。口縁部は直立気味に接地する。口端部はくぼむ。	㊍回転ヘラケズリ ㊐回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	E15区	
94	坏蓋	口径(12.2) 残高 4.4	丸い天井部。口縁部は直立気味に接地する。口端部はくぼむ。	㊍回転ヘラケズリ ㊐回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	I12区	
95	坏蓋	口径(12.4) 残高 3.8	口縁部は内湾気味に接地する。口端部はくぼむ。	㊍回転ヘラケズリ ㊐回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	E15区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品

(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
96	坏蓋	口径(12.2) 残高 3.0	口縁部はわずかに開き気味に接地する。口端部はくぼむ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	E15区	
97	坏蓋	口径(12.6) 残高 4.1	丸い天井部に開き気味の口縁部。口端部はくぼむ。	㋮回転ヘラケズリ ㋺回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	E16区	
98	坏蓋	口径(14.0) 残高 4.5	平坦な天井部に中央部がくぼむつまみが付く。口縁部は「ハ」の字状に広がり口端部はくぼむ。	㋑回転ナデ ㋮カキメ(6本/cm)→回転ナデ ㋺回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	E15区	
99	坏蓋	つまみ径3.25 残高 1.45	中央部がくぼむつまみ部である。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	E15区	
100	坏身	残高 4.4	内傾する口縁部。受部は短く水平気味に外上方に伸びる。	回転ナデ	回転ナデ	乳青灰色 灰色	密 ◎	E15区	
101	坏身	残高 2.4	直立気味に外反する口縁部。受部は水平に短く伸びる。	㋺回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	F16区	
102	高坏	底径(10.9) 残高 6.3	「ハ」の字状に広がる短い脚部に台形状の透かしを施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	F15区	
103	鼈	残高 5.6	肩の張る小型品。胴上半部に沈線文2条と波状文を施す。	㋥回転ナデ ナデ	㋥回転ナデ ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	F15区	
104	鼈	残高 6.5	胴上半部に沈線文2条と波状文を施す。	回転ナデ	㋭回転ナデ 指おさえ	青灰色 青灰色	密 ◎	E16区 釉付着	
105	壺	口径 16.9 残高 13.0+8.6	口縁部は外反し口端部は上下に拡張する。	㋑回転ナデ ㋺カキメ(7本/cm) ㋬格子タタキ(3本/cm)→ナデ	㋺回転ナデ ナデ、指おさえ	青灰色 青灰色	長(1～5) 密 ◎	E16区	
106	壺	口径(16.4) 残高 7.8	口縁部は中位に段をもち外傾する。口端部はわずかに内傾し端面中央部がわずかにくぼむ。	㋺回転ナデ カキメ(7～8本/cm)	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密 ◎	E16区	
107	壺	口径(15.6) 残高 11.4	口頸部は外傾し口端部は水平で中央部がわずかにくぼむ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	E15区	
108	壺	口径(17.8) 残高 6.0	口縁部は外傾して外反し口端部は下方に伸びる。口端部直下に1条の凸帯文、頸部に波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	紫灰色 灰色	密 ○	C17区	
109	壺	口径(15.95) 残高 5.8	外反する口縁部の端部は上方に伸び先細りする。	㋺回転ナデ カキメ(10本/cm)	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	F16区	
110	壺	残高 11.7	小型の胴部。球形の胴中央部にカキメ調整を施す。	㋬タタキ、カキメ(9本/cm)ハケ(7～8本/cm)→回転ナデ ㋮回転ヘラケズリ→回転ナデ	回転ナデ	灰色(暗青灰色) 青灰色	密 ◎	E15区 釉付着	
111	器台	残高 5.0	高坏形器台の坏部片である。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	D17区	
112	甕	口径(21.0) 残高 6.5	如意形口縁。	ハクリ	ナデ	茶黄色 (一部黒色) 灰茶白色	石・長(1～7) ○	H5区	
113	甕	口径(20.0) 残高 5.0	如意形口縁。	ハクリ	ナデ	茶色 (一部黒色) 灰色	石・長(1～3) ◎	I7区	
114	甕	口径(18.4) 残高 4.7	如意形口縁。	㋑ハクリ ㋺ヨコナデ ㋥ナデ	ハクリ	乳灰色 乳黄色	石・長(1～3) ○	F10区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品　(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
115	甕	残高 4.8	如意形口縁。	㊀口端ヨコナデ ナデ	㊁ヨコナデ ミガキ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1～3) ◎	H8区	
116	甕	残高 4.1	如意形口縁。	マメツ	マメツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ○		
117	甕	残高 1.8	如意形口縁。	㊁ヨコナデ ハケ(4～5本/cm)→ヨコナデ	ナデ	黒灰色 茶色	石・長(1～3) ◎	D16区	
118	甕	残高 1.7	如意形口縁。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1～3) ○	G18区	
119	甕	残高 3.1	如意形口縁。沈線文と刺突文を施す。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1～3) ○	D15区	
120	甕	口径(17.5) 残高 5.1	折曲口縁。	ハクリ マメツ	ハクリ マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1～4) ○	F12区	
121	甕	残高 3.8	折曲口縁。	ハクリ マメツ	ハクリ マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1～3) ○	H5区	
122	甕	残高 2.9	折曲口縁。	ハクリ マメツ	ハクリ マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1～3) ○	H5区	
123	甕	残高 2.3	折曲口縁。胴上半部に沈線文を施す。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1～3) ○	H4区	
124	甕	口径(19.0) 残高 2.6	貼付口縁。胴上半部にクシ状工具による沈線文を施す。	㊁マメツ ㊂ハケ(5本/cm)	マメツ	茶橙白色 茶橙白色	石・長(1～3) ◎	E16区	
125	甕	口径(25.4) 残高 6.0	貼付口縁。	㊁ナデ マメツ、ハクリ	マメツ ハクリ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～5) ○	I7区	
126	甕	口径(29.0) 残高 8.2	口縁部は断面三角形状の粘土を貼り付ける。	ナデ	ナデ	黒灰茶色 黒灰茶色	石・長(1～4) ○	H5区	
127	甕	口径(21.0) 残高 6.3	貼付口縁。口端部は「コ」の字状である。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 (一部黒色) 乳茶色	石・長(1～3) ◎	E16区	
128	甕	口径(22.4) 残高 3.2	貼付口縁。先細りの口縁部。	㊁ヨコナデ マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1～4) ◎	E15区	
129	甕	口径(16.3) 残高 8.5	貼付口縁。器壁はうすい。	㊁ヨコナデ マメツ	ミガキ	茶色 乳灰茶色	石・長(1～5) ◎	G18区	
130	甕	残高 3.5	貼付口縁。	マメツ ハクリ	マメツ ハクリ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1～4) ◎		
131	甕	口径(12.6) 残高 3.6	貼付口縁。小型品。	㊁ナデ マメツ	マメツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎		
132	甕	残高 5.4	直口口縁。口端部外面にキザミ。胴上半部に沈線文と刺突文を施す。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1～3) ○	F16区	
133	甕	残高 4.0	口縁下部に凸帯を貼り付ける。	㊁ヨコナデ ハケ(5本/cm)	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～2) ◎	G15区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品　(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
134	甕	残高 6.2	胴部片。沈線文と刺突文を施す。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～4) ◎	G15区	
135	甕	口径 8.6 残高 11.4	短く外傾する口縁部。端部は丸い。	ハケ(6本/cm)	㊐ナデ ケズリ	淡灰橙色 淡灰橙色	石粒多 ◎	F13区	
136	甕	口径(11.4) 残高 6.8	外反する口縁部と肩の張らない胴部。口端部は下方に拡張する。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～5) ◎	H7区	
137	甕	底径 6.2 残高 4.9	平底。	マメツ	マメツ	乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1～3) ○	H区 黒斑	
138	甕	底径 6.3 残高 4.2	平底。	ハケ(6本/cm) ㊎マメツ	ナデ	乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1～2) ◎	F14区	
139	甕	底径 (5.6) 残高 4.0	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1～2) ◎	I7区	
140	甕	底径 (5.7) 残高 5.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳橙灰色	石・長(1～3) ◎	G4区 黒斑	
141	甕	底径 5.2 残高 4.2	わずかに上げ底。	ミガキ ㊎ナデ	ナデ	乳橙色 乳橙色	石・長(1～2) ◎	F15区	
142	甕	底径 6.8 残高 4.0	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳茶黄色 乳灰褐色	石・長(1～3) ○	F5区	
143	甕	底径 4.7 残高 5.4	わずかに上げ底。	ミガキ ㊎マメツ	マメツ	暗灰褐色 乳灰色	石・長(1～3) ◎	H3区	
144	甕	底径 4.8 残高 4.3	わずかに上げ底。	ハクリ ㊎ナデ	ナデ	乳灰橙色 灰色	石・長(1～3) ◎		
145	甕	底径 6.0 残高 4.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1～3) ◎		
146	甕	底径 5.9 残高 2.2	わずかに上げ底。	マメツ ㊎ナデ	マメツ	黒灰色 黒灰色	石・長(1～2) ◎	D15区	
147	甕	底径 6.9 残高 2.4	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	黒灰色 灰色	石・長(1～4) ◎	G15区	
148	甕	底径 7.4 残高 1.7	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1～4) ◎	D16区	
149	甕	底径 8.3 残高 3.0	上げ底。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1～5) ◎	I7区 黒斑	
150	甕	底径 (7.0) 残高 4.2	くびれの上げ底。	ハケ(10本/cm)→ナデ ㊎マメツ	マメツ	灰茶褐色 乳灰茶褐色	石・長(1～5) ○		
151	甕	底径 5.5 残高 4.1	上げ底。	マメツ ㊎ナデ	マメツ	乳橙色 乳灰色	石・長(1～5) ◎	J4区	
152	甕	底径 (2.5) 残高 9.5	小さな上げ底。	ハケ(4～5本/cm) ㊎マメツ	マメツ	黒灰色・乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1～5) ◎	H7区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品

(9)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
153	壺	口径(15.8) 残高 15.9	外反する口縁部。頸部外面に凸帯文と沈線文、胴部に沈線文と木葉文を施す。	㊐ヨコナデ ㊙ミガキ マメツ	㊐ミガキ ナデ	茶橙色 茶橙色	石・長(1～4) ◎	D14区	
154	壺	口径(18.4) 残高 4.7	外反する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。	マメツ	マメツ	黄灰白色 黄灰白色	石・長(1～5) ○	F 9区	
155	壺	口径(13.4) 残高 3.4	短く外反する口縁部。	㊐ヨコナデ ハケ(4～5本/cm)→ヨコナデ	㊐ヨコナデ ナデ	白橙色 白橙色	石・長(1～4) ◎	E16区	
156	壺	口径(18.0) 残高 1.8	外反し水平に開く口縁部。端部はクシ状工具によるキザミを施す。	ヨコナデ	マメツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎	D16区	
157	壺	口径(26.0) 残高 2.5	大きく外反して開く口縁部。口端部に沈線文、下端部にキザミ、内面に2条の凸帯文を施す。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1～5) ○	F 9区	
158	壺	残高 2.6	外反する口縁部。端面に沈線文とキザミ、内面に凸帯文が1条残る。	㊐ヨコナデ ハケ(6～7本/cm)	ハケ(6～7本/cm)	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎	D15区	
159	壺	口径(18.8) 残高 3.3	外反する口縁部の端部は下方に垂れる。端面に波状文を施す。	㊐ヨコナデ ハケ(8本/cm) (12～13本/cm)	ハケ(8本/cm)	乳橙色・灰茶白色 灰白色	石・長(1～3) ◎	D14区	
160	壺	口径(14.8) 残高 3.7	複合口縁の拡張部。内傾する拡張部の外面に横・縦・斜めの3方向の沈線文を施す。	マメツ	マメツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～4) ◎	H 7区	
161	壺	残高 1.8	複合口縁。	㊐ヨコナデ ハケ(5～6本/cm)	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1～3) ◎	E区	
162	壺	口径 (8.4) 残高 3.8	直口口縁。わずかに外反する口縁部。端部下に凸帯文を貼り付け、凸帯端部にキザミを施す。	マメツ	マメツ	茶白色 (一部黒色) 茶白色	石・長(1～3) ○	G15区	
163	壺	残高 5.4	胴部片。沈線文と刺突文を施す。	ハケ(7本/cm)	マメツ	乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎	E16区	
164	壺	残高 3.5	胴部片。沈線文を施す。	マメツ	ナデ	乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1～2) ◎	D17区	
165	壺	底径 13.8 残高 11.6	平底の大型品。	マメツ	マメツ	灰色 乳黄灰色	石・長(1～4) ◎	H 6区 黒斑	
166	壺	底径(17.0) 残高 9.9	平底の大型品。	ナデ	ナデ	黒色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	D16区	
167	壺	底径 7.8 残高 6.9	平底。	ミガキ ㊡マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1～3) ◎	F 7区	
168	壺	底径 9.5 残高 6.4	平底。	マメツ	ナデ	灰白色 乳茶色	石・長(1～4) ◎	G16区	
169	壺	底径 7.6 残高 5.6	平底。	ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) 金 ◎	H 6区 黒斑	
170	壺	底径 6.0 残高 5.1	わずかに上げ底。	マメツ ハクリ	マメツ ハクリ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～5) ◎	H 3区	
171	壺	底径 (7.0) 残高 5.8	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 暗灰色	石・長(1～3) ◎	E 9区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品

(10)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
172	壺	底径 10.7 残高 2.3	わずかに上げ底。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長(1～4) ◎	E18区	
173	壺	底径 5.3 残高 14.8	丸味のある底部。	タタキ（3本/cm) →ハケ(10本/cm) ㊇タタキ	ハケ(10本/cm)→ ナデ	乳灰色 (一部黒色) 乳黄灰色	石・長(1～3) ◎	D12区	
174	壺	底径 3.8 残高 2.5	小さな平底。	ハケ(6本/cm)→ ナデ	ハケ(6本/cm)→ ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	D15区	
175	鉢	口径(25.0) 残高 4.8	直口口縁。端部は「コ」の字状に丸い。	㊐ヨコナデ ハケ(5～6本/cm)	ナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1～3) ◎	H4区	
176	鉢	残高 3.9	外反する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	H7区	
177	鉢	残高 3.0	外反する口縁部。端部付近で細くなる。	㊐端マメツ ヨコナデ	ナデ	黄灰白色 黄灰白色	石・長(1～3) ◎	H5区	
178	鉢	底径 1.5 残高 3.1	ボタン状突起をもつ底部片。	ハケ(20本/cm)→ ナデ	マメツ	黒灰色 黒灰色	石・長(1～3) ◎	D15区	
179	高坏	口径 24.8 残高 8.2	坏部。坏底部は水平に伸び口縁部は外反しながら立ち上がる。	㊐端ヨコナデ ハケ→ミガキ	ミガキ	黄灰色 (一部乳橙色) 黄灰色	長(1) ◎	H6区	
180	高坏	底径(19.6) 残高 2.0	大きく広がる脚部片。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1～3) ○	E区	
181	甑	底径 (6.9) 残高 4.5	平底の底部に径1.6cmの穿孔。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳橙灰色	石・長(1～3) ◎	H9区	
182	ミニチュア	口径 5.6 器高 3.7	手捏土器。	ナデ	ナデ	淡灰茶色 淡灰茶色	石・長(1～2) ◎	J5区	
183	支脚	底径 9.3 残高 10.5	中空の脚部。角部を欠損している。	ナデ 指おさえ	ナデ 指おさえ	乳灰黄色 灰色	石・長(1～5) ◎	F6区	
184	支脚	残高 10.0	中空の脚部。角部を欠損している。	ナデ 指おさえ	絞り痕 ナデ	乳灰茶色 黒色	石・長(1～3) ◎	E15区	
185	支脚	残高 10.3	中空の脚部。わずかに角部が残る。	タタキ→ナデ	ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～4) ◎	E15区 黒斑	
186	支脚	残高 8.7	円筒状の体部。受部は「V」字状にカットする。	ナデ 指おさえ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	F15区	
187	支脚	残高 7.7	小型の円筒状の体部。受部は「U」字状と思われる。	ハケ(4本/cm)	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	F17区	
188	支脚	残高 8.8	細い「U」字状の受部より「ハ」の字状に広がる脚部。	ハケ(5～6本/cm)→ナデ 指おさえ	絞り痕→ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ◎	D16区	
189	支脚	底径 10.4 残高 9.0	直立する胴部に大きく広がる脚部。	ナデ 指おさえ	ナデ ㊈ハケ(6本/cm)	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎	E16区	
190	支脚	残高 4.3	上げ底の底部よりくびれて立ち上がる。	ハケ(6本/cm)→ ナデ	ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1～4) ◎	C17区	

SR 1 出土遺物観察表　土製品　(11)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
191	支脚	上部径6.0 底径 7.8 器高 5.8	台形状で中空である。内外面はナデにより凹凸がある。	ナデ 指おさえ	ナデ 指おさえ	乳灰茶色 茶色	石・長(1～4) ◎	D17区	
192	支脚	上部径7.0 底径 6.9 器高 4.1	円盤状で下面がわずかにくぼむ。	ナデ 指おさえ		灰茶白色 (一部灰色)	石・長(1～4) ◎	F15区	

表6　SR 1 出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
193	伐採斧	1/3	結晶片岩	9.7	5.1	2.4	225.78	E16区	
194	加工斧		結晶片岩	9.1	2.8	0.8	40.65	D17区	
195	スクレイパー		サヌカイト	3.3	3.8	0.65	9.68	E17区	
196	不明		結晶片岩	4.9	1.1	0.45	5.11	D15区	
197	礫石錘	1/2	結晶片岩	5.4	7.0	0.65	48.50	F17区	

表7　SD 6 出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
198	支脚	底径 (7.1) 残高 7.6	裾部はわずかに開き上げ底状である。	ナデ 指おさえ	ナデ 指おさえ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～4) ◎		
199	甕	口径(17.4) 残高 3.2	外傾する口縁部の端部は丸い。	ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～2) ◎		
200	壺	口径(15.4) 残高 5.5	緩やかな頸部に外傾する口縁部。口端面は外側に面をもつ。	㊀ヨコナデ ハクリ	㊀ヨコナデ ハクリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～4) ○		
201	甕	口径(24.0) 残高 6.0	外傾する口縁部の端面は水平気味に丸い。	ハクリ	ハクリ	灰茶色 灰色・灰茶色	石・長(1～3) ○		
202	高坏	残高 4.7	柱部。	ミガキ ㊁マメツ	絞り痕 ㊁押圧痕	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ◎		
203	埦	口径(13.4) 残高 4.4	口縁部はわずかに内湾し端部は尖り気味に丸い。	ハケ(6本/cm) マメツ・ハクリ著しい	マメツ ハクリ	灰茶色・灰橙色 灰色	石・長(1～3) ○		
204	埦	口径(13.4) 残高 3.8	口縁端部は内傾する面をもつ。	マメツ	マメツ	乳茶色 灰色	石・長(1～4) ○		
205	埦	口径(14.8) 残高 4.1	口縁端部は内傾する面をもつ。	ナデ	ナデ	乳灰黄茶色 乳黄茶色	石・長(1～4) ◎		
206	甑	残高 4.4	把手。接合面に突起するボタン状の粘土を貼り付ける。	ナデ		乳灰茶色	石・長(1～3) ◎		
207	坏蓋	口径(13.4) 残高 3.5	口縁部は内湾気味に接地し端面は内傾し段をもちくぼむ。	㊄不明 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		

SD 6 出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
208	坏蓋	口径(12.4) 残高 3.5	直立する口縁部の端部は尖り気味である。	㊦回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		
209	坏蓋	口径(12.8) 残高 3.8	直立気味に接地する口縁部の端部はくぼむ。	㊦回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		
210	坏蓋	口径(13.0) 残高 4.1	口縁部はわずかに開き端面は内傾しわずかにくぼむ。	㊦回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	長(1) 密 ◎		
211	埦	口径 (9.6) 残高 4.5	口縁部は内湾気味に立ち上がり段をもち外反する。外面に凹線文2条と波状文を施す。	回転ヨコナデ	自然釉付着の為不明	灰色 灰色	密 ◎	釉付着	

表 8　SD 7 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
212	高坏	残高 4.6	柱部。	ハケ(5本/cm)→ ナデ	㊦ナデ ケズリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ◎		
213	坏蓋	口径(11.6) 残高 4.25	低い天井部に直立気味に接地する口縁部。端面は内傾しくぼむ。	㊦回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰色 青灰色	長(1) 密 ◎		
214	坏蓋	口径(11.6) 残高 3.5	丸味のある天井部にわずかに開く口縁部の端部はくぼむ。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	長(1～2) 密 ◎		

表 9　SD 9 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
215	坏身	口径(11.4) 残高 2.9	短く水平に伸びる受部に内傾して立ち上がる口縁部。口端部はくぼむ。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	長(1) 密 ◎	釉付着	

表10　SK 6 出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
216	壺	口径(18.6) 残高 6.9	口縁部は外傾し中位で折れ曲がり立ち上がる。端部内面はナデにより肥厚される。	ヨコナデ	㊐ヨコナデ ナデ	乳黄灰茶色 乳黄灰色	石・長(1～3) ◎		
217	埦	口径 11.3 器高 5.4	完形品。底部は丸く口縁部は「コ」の字状に丸い。	㊐ナデ ハケ(マメツが著しい)	ナデ	乳灰黄色 乳黄灰茶色	石・長(1～3) ◎		
218	埦	口径 11.3 器高 5.2	平たい底部の中央部がわずかにくぼむ。口縁部は内湾し端部はわずかに外反し丸い。完形品。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ	㊐ヨコナデ ナデ	乳橙灰色 乳橙灰色	石・長(1～3) ◎		
219	埦	口径 10.8 器高 5.9	口縁部は内湾して立ち上がり端部は外反し丸い。内面にヘラ状工具による強いナデが放射状に伸びる。	㊐ヨコナデ マメツ	㊐ヨコナデ ナデ	乳橙灰色 橙灰色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
220	埦	口径 12.5 器高 5.8	凹凸のある底部から内湾して立ち上がる口縁部。端部はナデにより外方向にわずかに伸びる。	㊐ヨコナデ ハケ(5本/cm)	㊐ヨコナデ ナデ	褐橙色 褐橙色	石・長(1～4) ◎		
221	埦	口径 13.1 器高 5.5	丸い底部に内湾して立ち上がる口縁部。端部は外反しナデにより先細りし丸い。	㊐ナデ ケズリ→ナデ	㊐板ナデ→ヨコナデ ナデ	灰茶褐色 乳灰黄色	石・長(1～2) ◎		
222	埦	口径 11.9 器高 5.6	丸い底部より外傾して立ち上がり口縁部は大きく外反する。	ナデ	㊐ヨコナデ 押圧痕	乳灰黄色 灰黄色	石・長(1) 金 ◎	黒斑	
223	埦	口径(12.0) 器高 6.0	丸い底部に外反して立ち上がる口縁部。端部は先細りし外反する。	ナデ (マメツが著しい)	ナデ	乳黄茶色 乳茶黄色	石・長(1～2) ◎		

SK 6 出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土/焼成	備考	図版
224	埦	口径 13.5 器高 6.5	丸い底部にわずかに外反する口縁部。端部は先細りし丸い。	㊐ヨコナデ ナデ (マメツが著しい)	ナデ	乳灰黄茶色 (一部暗灰色) 乳灰黄茶色	石・長(1～2) ◎		
225	甕	口径 27.6 底径 11.1 器高 28.6	わずかに丸い底部に外傾する胴部。口縁部は若干外反する。口端部は「コ」の字状である。	㊐ハケ(7本/cm)→ヨコナデ ㊒ハケ(7本/cm)→ナデ ㊓ナデ	㊐ハケ(7本/cm)→ヨコナデ ㊒ハケ(7本/cm) ㊒下ハケ(7本/cm)→ナデ ㊓ナデ	乳橙茶色・乳灰色 黒色 乳茶灰色	石・長(1) ◎		
226	壺	底径 (7.8) 残高 5.5	厚みのある底部。	ナデ	マメツ ㊓ナデ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1～4) ◎	黒斑	

表11　SK 7 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土/焼成	備考	図版
227	高坏	口径 30.2 残高 12.2	大型品。坏部は外傾しわずかに内湾し端部手前で外反する。	㊐端ヨコナデ ㊒ハケ(4～5本/cm)(7～8本/cm)→ヨコナデ ㊒底ハケ(4～5本/cm)→ナデ	㊒ハケ(4～5本/cm)→ヨコナデ ㊒底ハケ(7～8本/cm) ㊒ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1～5) ◎		

表12　SK 14出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土/焼成	備考	図版
228	甕	口径 12.4 残高 9.7	口縁部は内湾気味に立ち上がり端部は肥厚され内傾する面をもつ。	㊐ヨコナデ ハケ(8本/cm)	㊐ハケ(8本/cm)→ヨコナデ ㊒上ナデ ケズリ	乳茶灰色 乳茶灰色	石・長(1～3) ◎		
229	甕	口径 17.2 残高 11.8	口縁部は内湾し端部は「コ」の字状に丸い。	㊐ハケ(6本/cm)→ヨコナデ ㊒上ハケ(6本/cm) ㊒中ハケ(10本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ナデ上げ	黄灰茶色 黄灰色	石・長(1～3) ◎		
230	甕	口径 16.8 残高 17.5	口縁部は外傾し端部は「コ」の字状に丸い。	㊐ヨコナデ ハケ(6本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ナデ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1～3) ◎		
231	甕	口径(11.2) 器高 17.7	小型の完形品。胴部はやや肩の張る長い球形である。口縁部はわずかに内湾し端部は「コ」の字状に丸い。	㊐ヨコナデ ハケ(6～7本/cm)→ナデ	㊐ヨコナデ ケズリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1) ◎		
232	甕	底径 (7.0) 残高 6.7	くびれの上げ底。	ハケ(8本/cm) ㊓ナデ	ケズリ	白灰色 暗灰色	石・長(1～3) ◎		

表13　SK 2 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土/焼成	備考	図版
233	甕	底径 7.0 残高 5.5	くびれの上げ底。	ミガキ ㊓マメツ	マメツ	乳灰茶色 茶色	石・長(1～5) ◎		

表14　SX 5 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土/焼成	備考	図版
234	甕	底径 6.2 残高 4.6	上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1～4) ◎		

表15　SX 9 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土/焼成	備考	図版
235	甕	口径(24.6) 残高 5.0	口縁部は折り曲げ胴上部に刺突文を施す。	マメツ わずかにハケ(7本/cm)	マメツ	茶橙色 黄白色・茶橙色	石・長(1～4) ○		

表16　SX 12出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
236	坏蓋	口径 11.1 器高 3.8	扁平な天井部と直立して接地する口縁部。口端部はくぼむ。	㊇回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	㊇ナデ 回転ヨコナデ	灰白色 灰白色	石(1～2) 密 ◎		

表17　SX 15出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
237	甕	口径(18.8) 残高 5.3	口縁部は「く」の字状に折れ曲がりわずかに内湾する。	㊐ヨコナデ ハケ(6～7本/cm)→ヨコナデ	㊐マメツ ハケ(4～5本/cm)→ナデ	黄灰白色 黄灰白色	石・長(1～3) ◎		
238	甕	口径(13.9) 残高 3.4	外傾する口縁部。端部は肥厚され丸味をもつ。	ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1) ◎		
239	高坏	残高 4.5	柱部から坏部。	㊇底ナデ ハケ(9本/cm)	㊇底ナデ (一部ハケ9本/cm) ナデ	黄茶白色 黄茶白色	石・長(1～4) ◎		
240	高坏	残高 6.5	「ハ」の字状に開く柱部。	マメツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～3) ◎		
241	坏蓋	口径(12.2) 残高 4.7	天井部は緩やかに丸く低い。口縁部は直立する。	㊇回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰色 灰紫色	石・長(1～2) 密 ◎		
242	壺	口径(18.8) 残高 6.1	外面に凸帯文2条と波状文が3条残る。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 (一部灰白色) 灰色	密 ◎		
243	支脚	上部径5.8 底径 9.0 器高 6.7	台形状で中実である。	ナデ 指おさえ		乳灰茶色	石・長(1～4) ◎		
244	支脚	残高 11.8	中空。受部は「U」字状。	ナデ 一部ハケ(6本/cm)	絞り痕	灰白色 灰白色	石・長(1～7) ◎		

表18　SX 17出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
245	壺	残高 3.8	頸部に押圧文のある凸帯文1条、肩部に山形文を施す。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1～4) ○	黒斑	
246	甕	残高 4.5	沈線文と波状文を施す。	㊇上回転ヨコナデ カキメ(8本/cm)→ナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表19　SD 1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
247	坏蓋	口径(11.8) 残高 2.3	「ハ」の字状に広がり接地する口縁部。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰色 青灰色	長(2) 密 ◎		
248	蓋	口径(15.0) 残高 2.5	口縁部は垂直気味に接地し端部はわずかにくぼむ。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表20　SD 2出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
249	高坏	残高 5.0	柱部。内面上部に2.5㎜の穿孔が残る。	ハケ(9本/cm)→ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1) 密 ◎		

SD 2出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
250	甑	残高 3.2	把手部。	ナデ	ナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1～2) ◎		
251	甕	残高 4.1	外面にカキメが残る。	(頸)ナデ カキメ(5本/cm)	回転ヨコナデ	乳灰紫色 灰色	長(1) 密 ◎		

表21　SD 3出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
252	壺	残高 3.1	外反する口縁部。端部は下方に拡張する。外面に凸帯文1条と波状文を施す。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表22　SD 4出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
253	甕	底径 (4.8) 残高 4.0	上げ底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1～2) ◎		
254	支脚	残高 8.0	角部。	ナデ		乳灰橙色	石・長(1～3) ◎		
255	高台付坏	底径(13.2) 残高 4.3	底部の外端部付近に「ハ」の字状の高台が付く。	回転ヘラケズリ (高台)回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰白色 灰白色	石・長(1～2) ◎		

表23　SD 4出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
256	礫石錘	1/2	結晶片岩	6.0	6.8	1.3	82.76		

表24　SD 12出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
257	高坏	残高 4.7	「ハ」の字状に開く柱部。上面にはヘラ状工具によるキザミを施す。	マメツ	絞り痕	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ◎		
258	高坏	残高 3.3	柱部。上面にヘラ状工具によるキザミと穿孔を看取する。	マメツ	絞り痕→ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	長(1) ◎		
259	土錘	長さ 6.1 幅 3.2 厚さ 3.2	有溝環状土錘。	ナデ		乳黄茶色	石・長(1～2) ◎	重さ 34.029 g	

表25　その他出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
260	甕	残高 4.4	口縁部は外傾し端部は水平でわずかにくぼむ。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳黄茶色 乳黄灰茶色	石・長(1～3) ◎		
261	甕	残高 3.8	口縁部は外傾し端部手前で細くなり丸い。	ヨコナデ	マメツ	暗灰黄色 灰黄色	石・長(1～2) ◎		
262	高坏	残高 6.4	柱部。	ハケ(12～13本/cm)	(坏底)ナデ 絞り痕	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ◎		
263	高坏	残高 7.6	柱部。	ミガキ	(坏底)ミガキ ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～3) ◎		

その他出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
264	高坏	残高 7.1	柱部。	マメツ	(坏底)ナデ (脚上)絞り痕 (脚下)ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ◎		
265	高坏	残高 5.9	柱部。	マメツ	(坏底)ナデ 絞り痕	茶色・黄茶色 黄茶色	石・長(1～2) ◎		
266	甑	残高 6.7	把手。断面円形。	ナデ	マメツ	乳橙色 暗灰色	石・長(1) ◎		
267	甑	残高 4.5	把手。断面楕円形。	ナデ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1～2) ◎		
268	埦	底径 6.7 残高 2.0	高台端部は丸い。	マメツ (高台)ヨコナデ (底)ナデ	マメツ	乳黄灰色 乳灰色	石・長(1) ◎		
269	埦	底径 (6.8) 残高 2.1	高台端部は丸い。	ナデ (高台)ヨコナデ	ミガキ	乳黄色 黒色	石・長(1～2) ◎		
270	埦	底径 5.2 残高 2.0	高台端部は細く丸い。	ナデ	ミガキ (マメツが著しい)	乳灰色 暗灰黄色	石・長(1) ◎		
271	埦	底径 (6.6) 残高 1.6	高台端部は細く丸い。	ナデ (高台)ヨコナデ	ミガキ (マメツが著しい)	乳灰色 暗灰色	石・長(1) ◎		
272	埦	底径 (4.0) 残高 2.1	高台端部は「コ」の字状。	ナデ	マメツ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1) ◎		
273	坏蓋	口径(11.6) 器高 4.3	天井部がわずかにくぼみ口縁部は直立気味に内湾し口端部はくぼむ。	(天)回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色・黒色 灰色	長(1～4) 密 ◎		
274	坏蓋	口径(12.4) 器高 4.8	緩やかな曲線の天井部。わずかに開く口縁部。口端面は内傾する。	(天)回転ヘラケズリ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	長(1) 密 ◎		
275	坏身	口径(12.8) 器高 4.8	平坦な浅い底部。口縁部は内傾し外反気味である。	(口)回転ヨコナデ 回転ヘラケズリ →ナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	石(1) 密 ◎		
276	坏身	口径 9.9 残高 4.6	短く外上方に伸びる受部。口縁部は内傾する。底部外面にヘラ記号。	(口)回転ヨコナデ 回転ヘラケズリ	回転ヨコナデ	青灰色 青灰色	長(1～4) ◎		
277	高坏	口径(17.0) 残高 4.0	口縁部は外傾し内湾気味に立ち上がる。端部はわずかに外反し尖り気味である。	回転ヨコナデ	(口)回転ヨコナデ ナデ	灰色 灰色	長(1) 密 ◎		
278	高坏	残高 3.2	口縁部は直立気味に外反する。凸帯文2条と波状文を施す。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰色 青灰色	長(1～3) ◎	釉付着	
279	甕	口径(17.0) 残高 5.4	口縁部は外反し端部は上下に拡張する。	(口)回転ヨコナデ カキメ(4本/cm)	回転ヨコナデ	灰色 灰色	長(1) ◎		
280	甕	口径(20.8) 残高 5.9	口縁部は外反し端部は「コ」の字状である。	(口)ヨコナデ ハケ(5～6本/cm)	(口)ヨコナデ ハケ(5～6本/cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1～3) ◎		
281	甕	残高 5.4	口縁部は外反し端部は「コ」の字状である。	(口)ヨコナデ ハケ(5～6本/cm)	マメツ	乳灰茶色 暗灰色	石・長(1～5) ○		
282	甕	口径(19.0) 残高 4.0	貼付口縁。端部にキザミ、胴上部に沈線文を施す。	(口)ヨコナデ マメツ	(口)ヨコナデ マメツ	乳黄灰色 乳茶色	石・長(1～3) ○		
283	甕	底径 2.1 残高 7.8	丸底。	ハケ(7本/cm) (底)ナデ	ハケ(7本/cm)→ ナデ	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1～3) ◎	黒斑	

その他出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
284	甕	底径 (6.6) 残高 4.8	平底。	マメツ ㊦ナデ	マメツ	茶色 乳茶色	石・長(1～4) ○		
285	甕	底径 (6.4) 残高 3.7	平底。	ナデ	ナデ	乳茶灰色 乳灰黄色	石・長(1～2) ◎		
286	壺	底径 (8.0) 残高 9.4	平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1～2) ○		
287	壺	底径 (7.2) 残高 5.5	わずかに上げ底。	ミガキ ㊦ナデ	ナデ	乳橙色 (一部黒色) 乳黄灰色	石・長(1～5) ○		
288	壺	底径 (5.4) 残高 4.4	平底。	ナデ	ナデ	乳灰茶色 (一部黒灰色) 黄茶色	石・長(1～4) ◎		
289	支脚	残高 11.5	角状突起が付く。	ナデ 指おさえ	ナデ	乳茶色 暗灰茶色	石・長(1～4) ◎	黒斑	
290	支脚	残高 11.7	角状突起が付く。	ナデ 指おさえ	㊤絞り痕 ㊦ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1～4) ◎	黒斑	
291	支脚	残高 10.5	受部は「U」字状。	ナデ	㊤ハケ(10本/cm) 絞り痕、ナデ	乳灰色 暗灰色	石・長(1～4) ◎	黒斑	
292	支脚	残高 6.6	角状の突起部。	ナデ		乳灰茶色	石・長(1～3) ◎		
293	支脚	残高 7.3	角状の突起部。	ナデ		乳灰黄茶色	石・長(1～2) ◎		
294	支脚	残高 6.2	角状の突起部。	ナデ		黄灰茶色	石・長(1～4) ◎		
295	支脚	底径 6.3 器高 5.9	低い台形状で1ケ所短い角状突起が付く形態。	ナデ		乳灰茶色 (底部黒色)	石・長(1～3) ◎		
296	支脚	上部径8.1 残高 4.1	台形状。底部を欠損している。	ナデ		黄橙色	石・長(1～3) ◎		
297	支脚	底径 6.0 残高 5.4	台形状で突起部が付く形態。	ナデ		乳黄茶色	石・長(1～2) ◎		
298	土錘	長さ 4.0 幅 3.1 厚さ 3.1	有溝環状土錘	ナデ		乳黄茶色	石・長(1～2) ◎	黒斑 重さ 34.029 g	
299	分銅型土製品	長さ 4.1 幅 6.15 厚さ 1.55	上半部欠損。形状は撥形に近く扁平である。表面と両側面に沈線文を施す。裏面は無文。	ナデ		灰茶白色	石・長(1～2) 褐色粒 ◎		

表26　その他出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
300	砥石	1/2	角閃安山岩	11.2	5.7	2.9	251		
301	台石	ほぼ完形	砂岩	9.4	7.5	4.3	409		

表27　その他出土遺物観察表　装身具

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ(mm)	法量 径(mm)	法量 孔径(mm)	法量 重さ(g)	備考	図版
302	臼玉	完形	緑色凝灰岩	緑灰色	1.0	4.3	1.4	0.033		
303	管玉	ほぼ完形	緑色凝灰岩	緑灰色	30.0	4.0	2.7	0.827		

第III章　自然科学分析

株式会社　古環境研究所

船ヶ谷遺跡２次調査出土木材の樹種同定

１．試　料（第３図）

試料は、船ヶ谷遺跡２次調査SR １で出土した木材３点である。試料の詳細を表28に示す。

２．方　法

カミソリを用いて、新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

３．結　果

結果を表28に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表28　船ヶ谷遺跡２次調査から出土した木材の樹種同定結果

試料	遺構、地点	備考	樹種（和名／学名）
101	SR １、E ９	板状	コナラ属アカガシ亜属 Quercus subgen.　Cyclobalanopsis
102	SR １、F ９	杭状	モミ属　Abies
103	SR １、E14	根	マツ属複維管束亜属　Pinus subgen.　Diploxylon

ａ．モミ属　Abies マツ科（第54図１）

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は比較的緩やかである。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、小型のスギ型で１分野に１～４個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、じゅず状末端壁を有する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、モミ属に同定される。モミ属は日本に５種が自生し、その内ウラジロモミ、トドマツ、シラビソ、オオシラビソの４種は亜寒帯に分布し、モミは温帯を中心に分布する。常緑高木で高さ45m、径1.5mに達する。材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

ｂ．マツ属複維管束亜属 Pinus subgen.　Diploxylon マツ科（第54図２）

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質より、マツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布し、常緑高木である。材は水湿によく耐え、広く用いられる。

c．コナラ属アカガシ亜属 Quercus subgen. Cyclobalanopsis ブナ科（第54図３）

横断面：中型から大型の道管が、１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は同性で、ほとんどが平伏細胞であるが、ときおり上下の縁辺部に方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

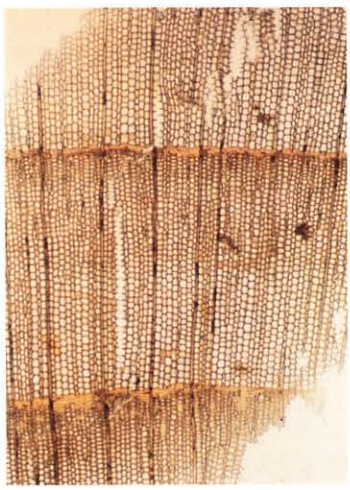
４．所　見

船ヶ谷遺跡２次調査のSR １から出土した板状と杭状の材は、コナラ属アカガシ亜属、モミ属であり、根はマツ属複維管束亜属（アカマツ、クロマツ）であった。コナラ属アカガシ亜属は暖温帯の照葉樹林の主要構成要素であり、モミ属は温帯に広く分布する。マツ属複維管束亜属は二次林性の性格ももつが、多様に生育し、照葉樹林内にも分布する。

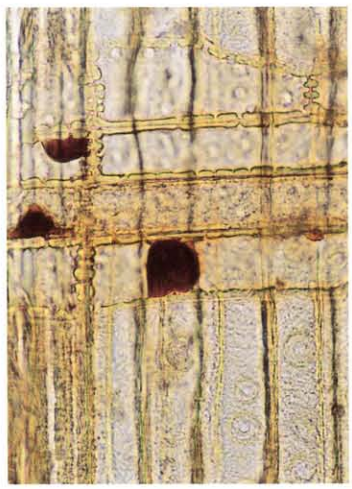
文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造、文永堂出版、ｐ.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造、文永堂出版、ｐ.49-100.



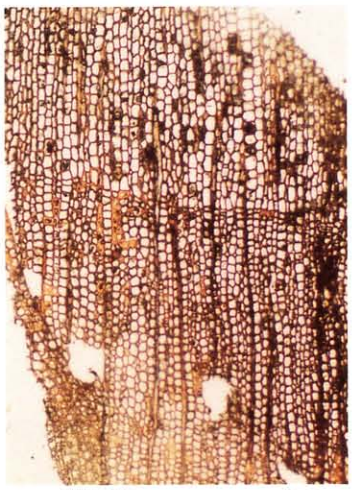
横断面 ——— :0.5mm



放射断面 ——— :0.05mm

接線断面 ——— :0.2mm

1．102　モミ属



横断面 ——— :0.5mm

放射断面 ——— :0.05mm

接線断面 ——— :0.2mm

2．103　マツ属複維管束亜属

横断面 ——— :0.5mm

放射断面 ——— :0.5mm

接線断面 ——— :0.5mm

3．101　コナラ属アカガシ亜属

第54図　船ヶ谷遺跡２次調査出土木材の顕微鏡写真

第IV章　調査の成果と課題

船ヶ谷遺跡２次調査は、古墳時代から古代までの集落範囲や集落構造の解明を主目的として始めた。調査の結果、古墳時代の遺構や遺物を多数検出することになったが、古代の遺構や遺物は希薄であった。なお、弥生時代の遺物が少数ながら得られている。

古墳時代　土坑５基、溝６条、自然流路１条、性格不明遺構17基は古墳時代前期から後期までに時期比定されるものである。これらの遺構は切り合いや出土遺物から４つの段階に分かれた。第１段階は４世紀末～５世紀初頭のSK ７、第２段階は５世紀前半のSR １、第３段階は５世紀前半のSR １に続くSK ６とSK 14、第４段階は５世紀末～６世紀前半のSK １・２、SD ６～11、SX １～17となる。注目遺構はSK ６・７とSR １である。

SK ６とSK ７は、出土状況から祭祀的な様相を示す遺構である。SK ６では甕形土器を中心におき北側に埦形土器を配列した出土状況にあり、SK ７では大型の高坏形土器坏部を据え置いた状態にあった。松山平野では、高坏形土器１点が遺構内から据え置いた状態で出土する例は、北久米浄蓮寺遺跡３次調査地の竪穴式住居址（SB ９）でみられている。同遺跡SB ９では柱穴内から完形の高坏形土器が据え置いた状態で出土し、住居廃絶時の祭祀と認定されている。また、本調査のSK ７も、出土状況からは祭祀的意味合いの強い土坑と考えられる。

SR １は幅55mを測る流路である。河床は凹凸が激しく、埋土は粘質土で、砂の堆積はなく、水が流れた状況ではない。したがって、沼のような水無川様であったと推察される。調査区北1.5kmの大渕遺跡と調査区北200mの船ヶ谷遺跡においては、縄文時代晩期の湿地帯と水の流れていない河川状遺構を検出しており、縄文時代晩期には広い範囲に沼状の湿地帯が広がっていたことも確認している。SR １は当地一帯に縄文時代晩期以降、古墳時代前期にいたっても湿地帯が広がっていたことを示したものである。

また、SR １からは５世紀前半の遺物が多数出土している。土器には完形品と大型破片が多く、磨滅が見られないため、流れきたものではなく、この場所に破棄したものであろう。加えて松山平野ではこの時期の土器が多量に出土した例は少なく、貴重であり、土器研究を行うための好資料である。

古　代　SD １～４・12の５条は７世紀以降の溝である。５条の溝は灰色砂質土の埋土をもつため、水が流れていたことを示している。溝に伴う遺構は検出されていないため、溝の用途は明確ではない。

以上、調査結果についてまとめを行った。本調査では古墳時代の集落に関連する溝、土坑、自然流路を検出することはできたが、住居址は検出するにいたらなかった。これは、調査地が集落の周辺部に位置するからである。よって、住居址は調査地の西、丘陵山麓にあることが推測され、居住域の構造は今後の発掘調査によって解明されるであろう。

〔文献〕

阪本安光　1984　『船ヶ谷遺跡』愛媛県教育委員会

栗田茂敏　1989　「大渕遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報II』松山市教育委員会

武正良浩　1991　「大渕遺跡２次調査地」『松山市文化財年報III』松山市教育委員会、(財)松山市埋蔵文化財センター

橋本雄一　1994　『北久米浄蓮寺遺跡３次調査地』松山市教育委員会、(財)松山市埋蔵文化財センター

写 真 図 版

写真図版例言

1．遺構の撮影は、調査担当及び大西朋子が行い、高所作業車を利用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン　90㎜他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67　55㎜他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール　28～85㎜他
フィルム	プラスXパン・ネオパンSS・エクタクロームEPP		

2．遺物の撮影は、大西が行った。

使用機材：

カメラ	トヨ／ビュー45G	レンズ	ジンマーS240㎜
ストロボ	コメット／CA—32・CB2400（バンク使用）		
スタンド他	トヨ／無影撮影台・ウエイトスタンド101		
フィルム	プラスXパン		

3．白黒写真の現像・焼き付けは、一部を除いて大西が行った。

使用機材：

引伸機	ラッキー450MD	レンズ	エル・ニッコール135㎜
	ラッキー90MD		エル・ニッコール50㎜
印画紙	インフォードマルチグレードIVRC		
フィルム現像剤	コダックD－76・HC110		

【参考】『埋文写真研究』Vol．1～9

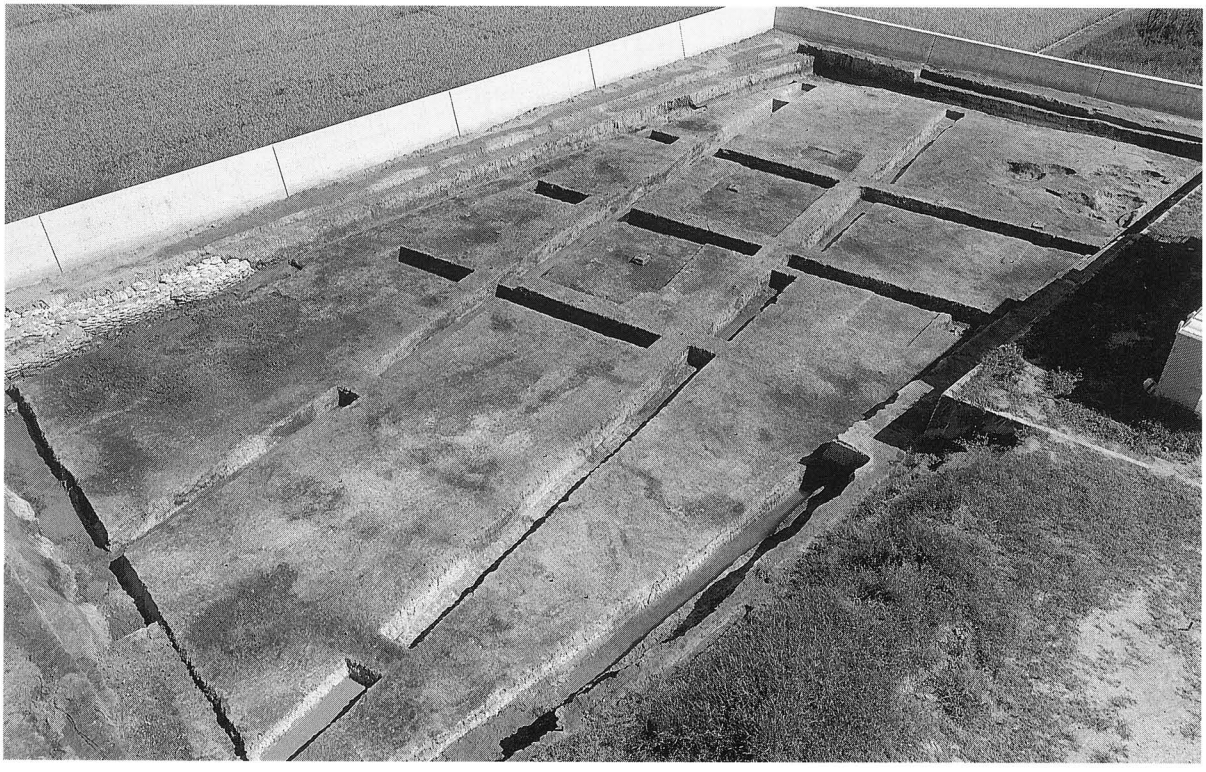
〔大西　朋子〕

1．調査前（西より）

2．東区遺構遺存状況（東より）

図版二

1．東区遺構遺存状況（南西より）



2．東区遺構検出状況（南西より）

1．西区遺構遺存状況（南より）

2．西区遺構検出状況（南西より）

図版四

1．SR 1 遺物出土状況①第 2 地点（東より）

2．SR 1 遺物出土状況②第 1 地点（東より）

3．SR 1 遺物出土状況③第 3 地点（東より）

1．SR 1 遺物出土状況④（北東より）

2．SR 1 遺物出土状況⑤（南より）

3．SR 1 遺物出土状況⑥（東より）

1．SD 1・6・11完掘状況（西より）

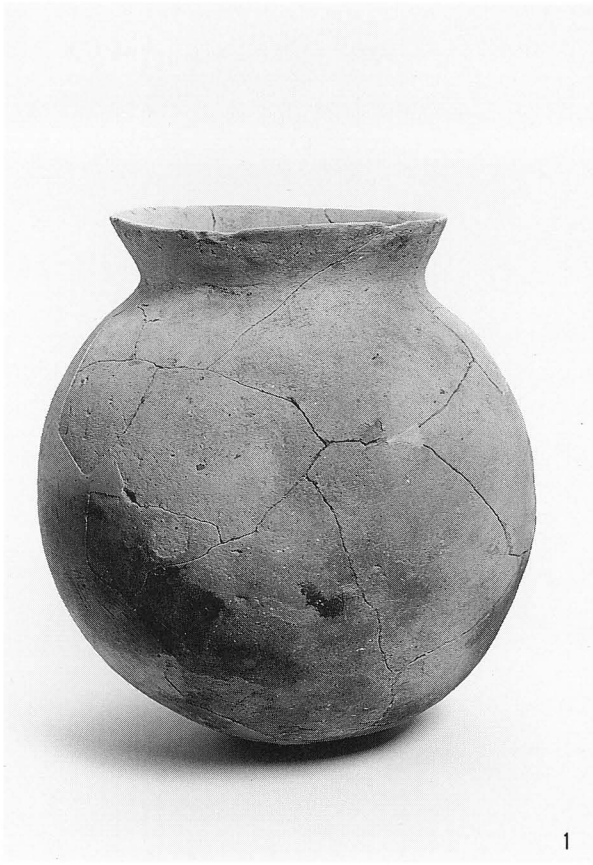
2．SD 3完掘状況（西より）

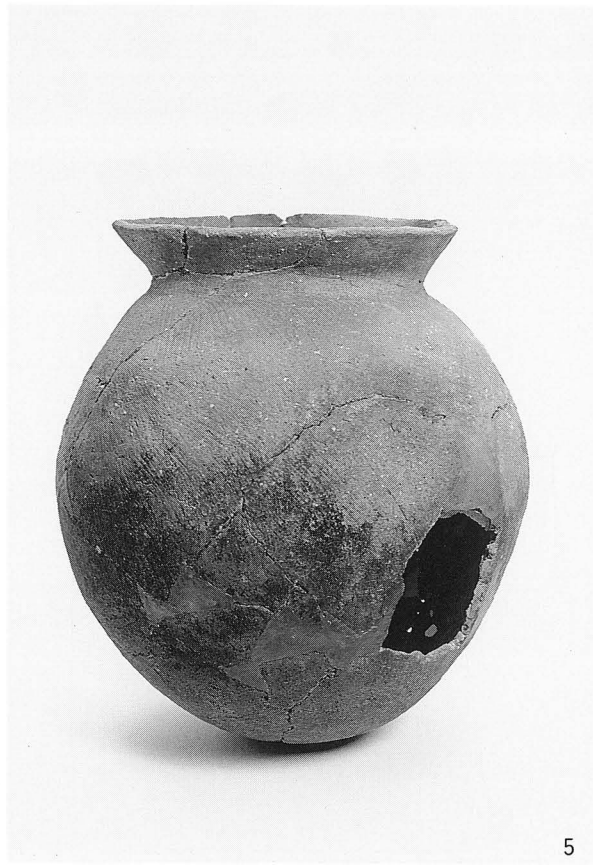
1．SK 6 遺物出土状況（北より）

2．SK 7 遺物出土状況（北より）

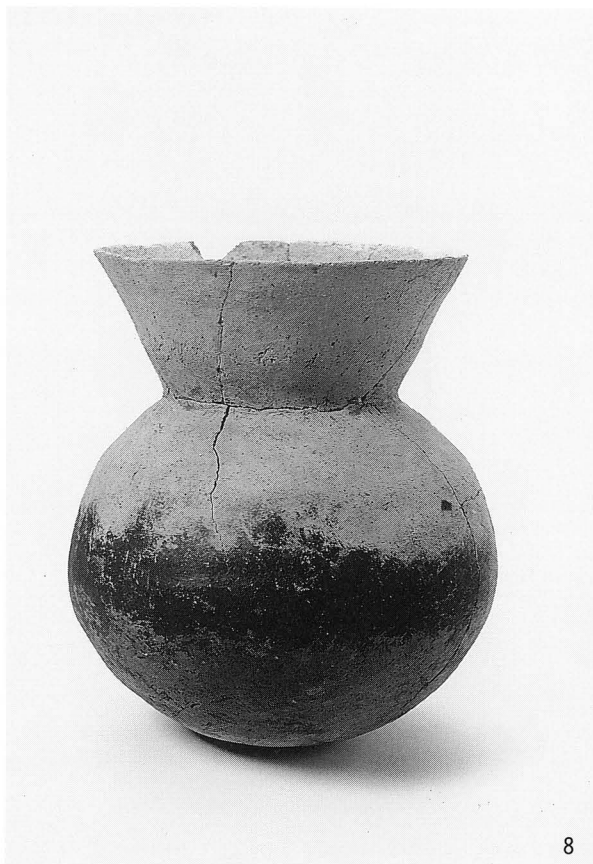
3．SK 14遺物出土状況（西より）

図版八

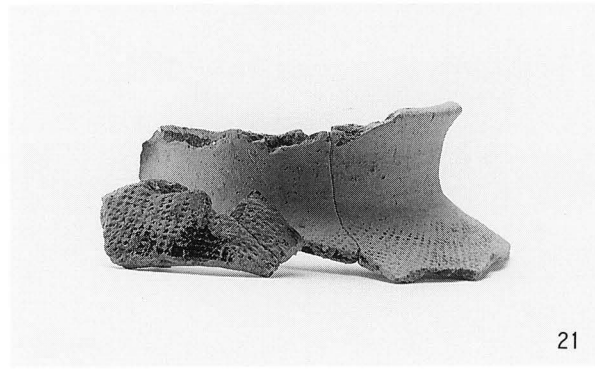

1


5

7


8

1．SR 1 出土遺物①



1．SR 1 出土遺物②

24

25

26

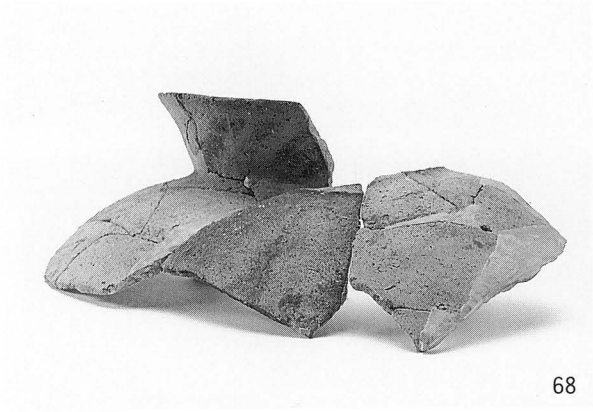
27

41

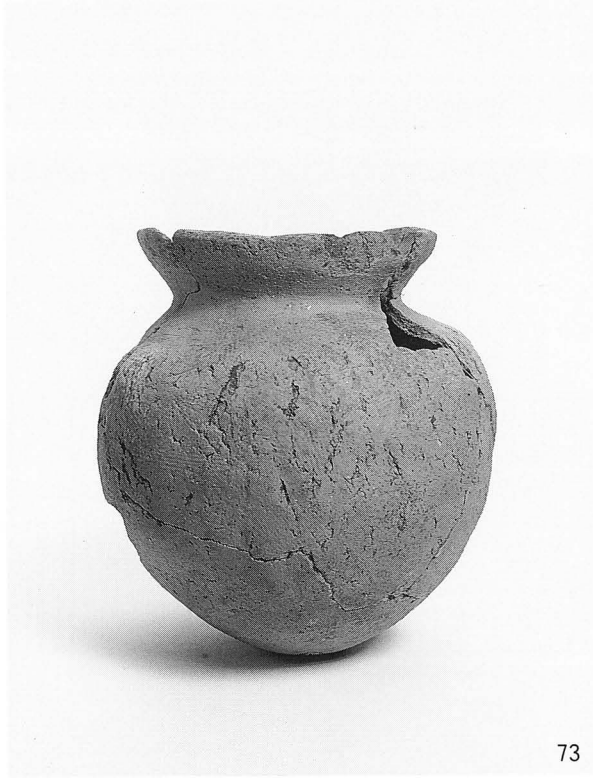
32

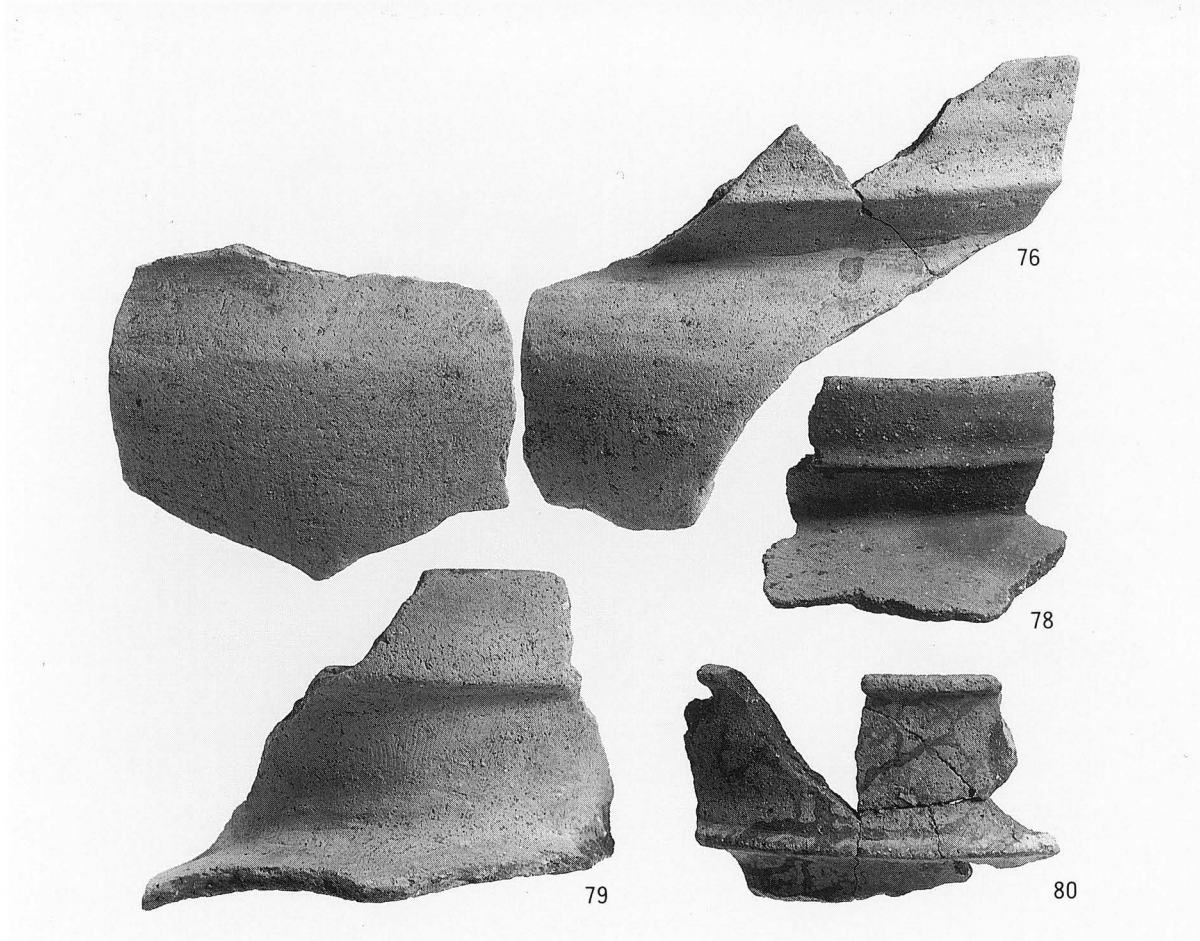
33

1．SR 1 出土遺物③

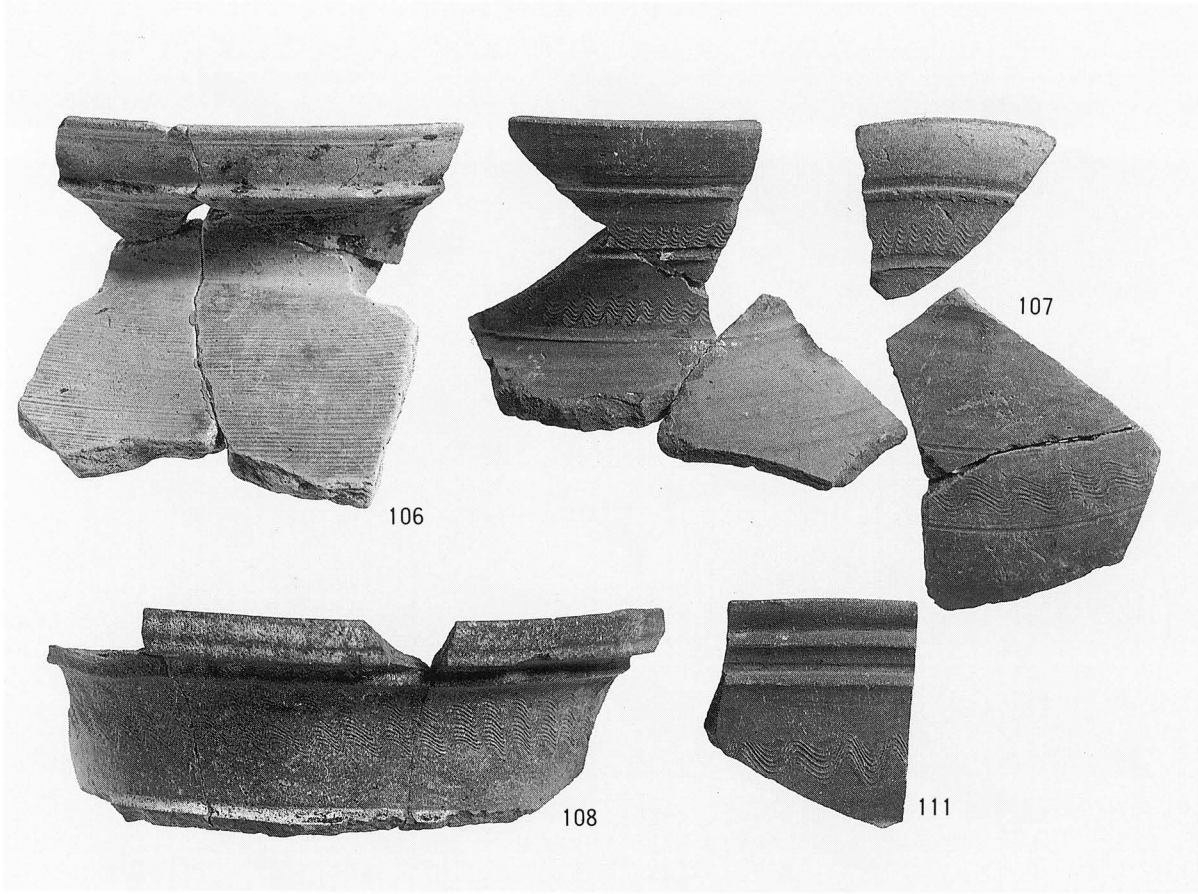

68

88

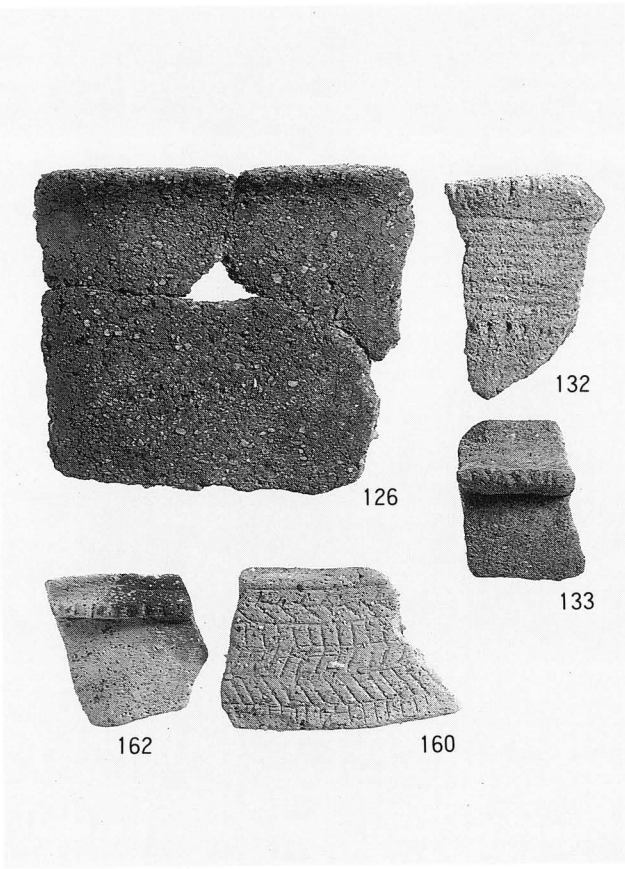

73

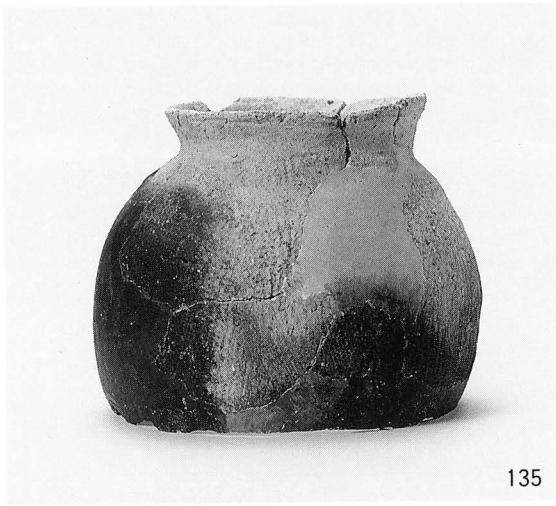


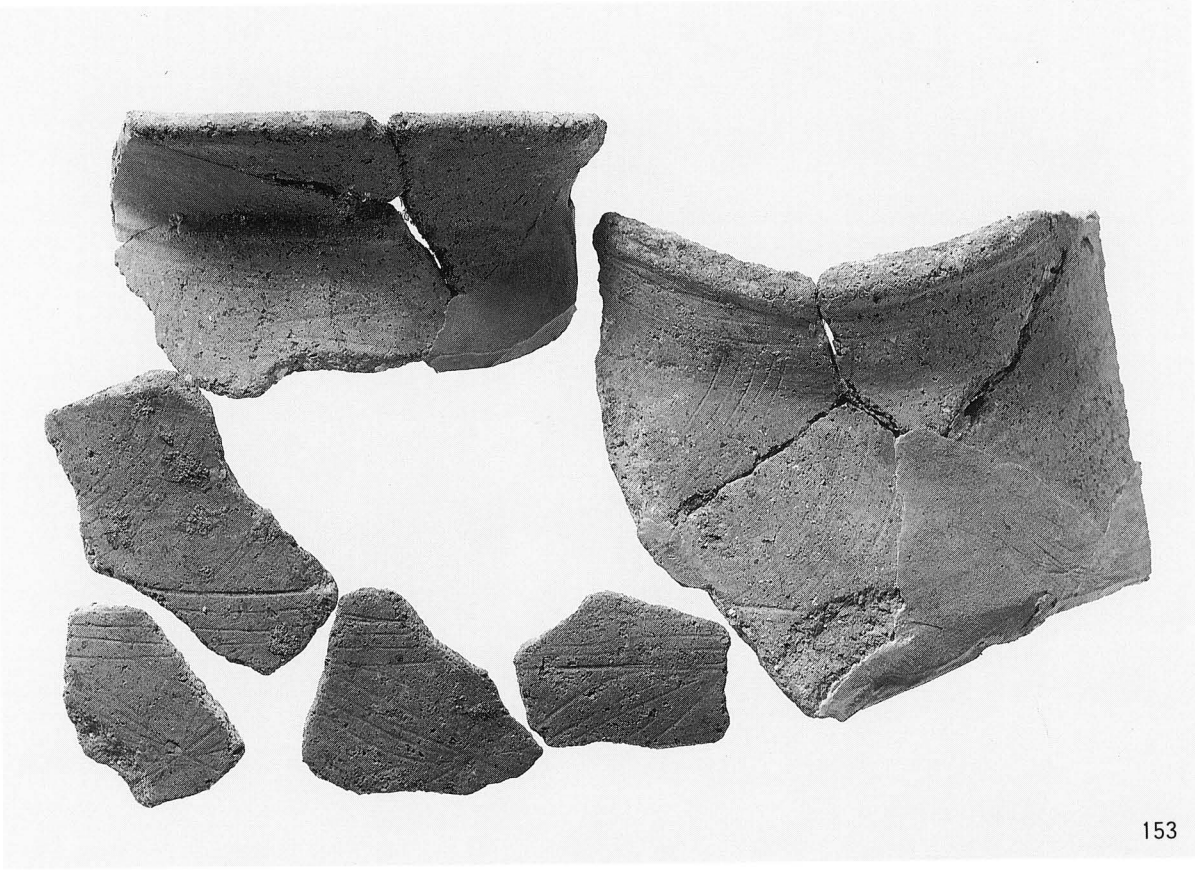
1．SR 1 出土遺物④



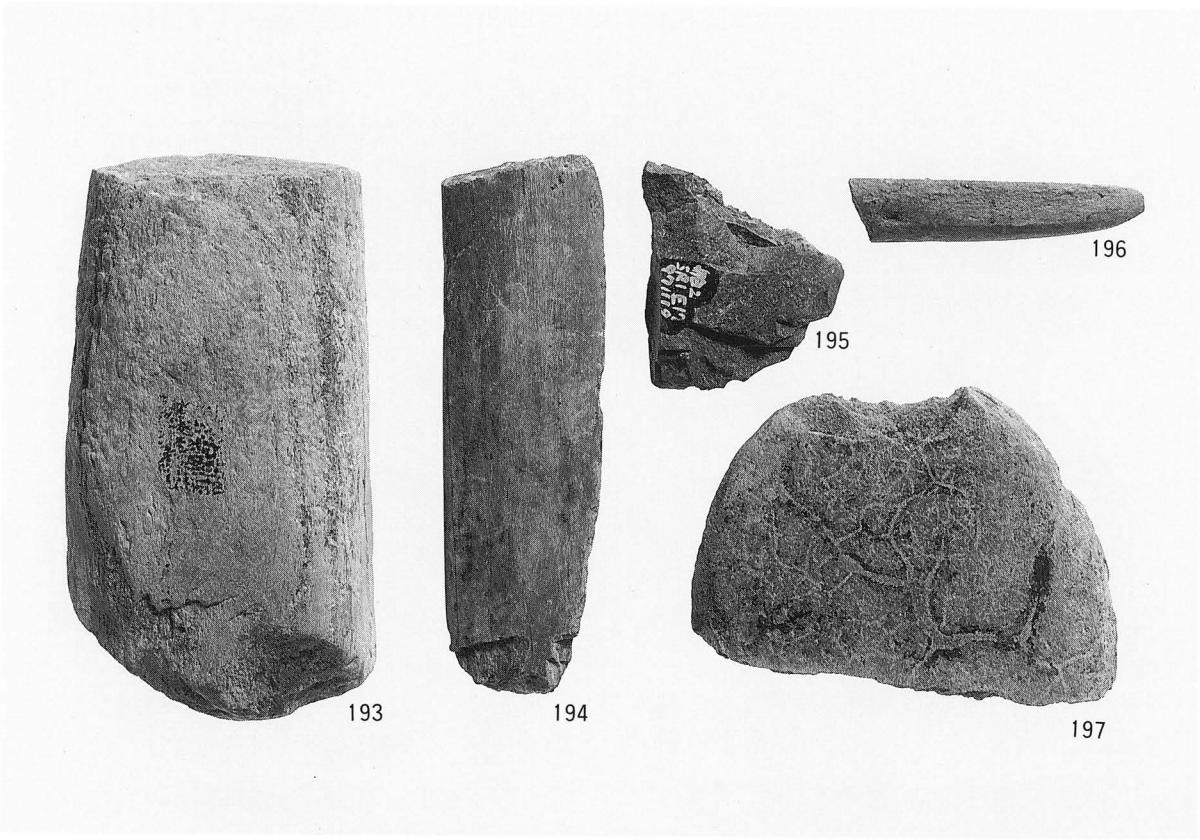
1．SR 1 出土遺物⑤







1．SR 1 出土遺物⑥



1．SR 1 出土遺物⑦

216

217

219

218

220

222

221

224

223

1．SK 6 出土遺物①

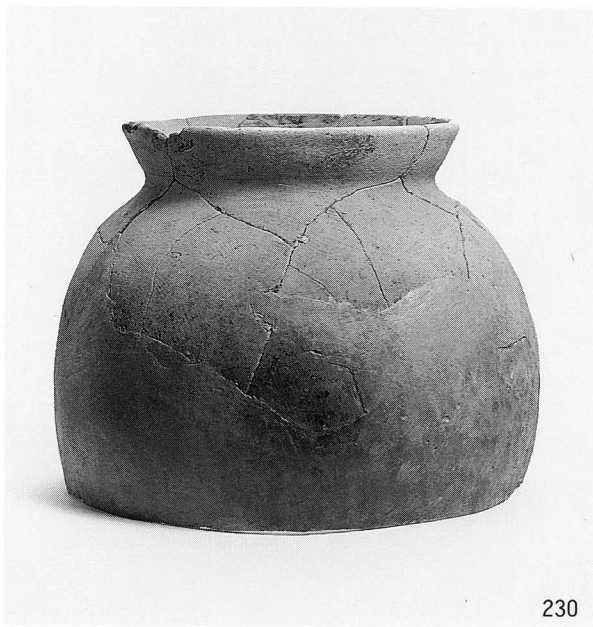
225

228

227

229

231


230

1．SK 6 出土遺物②（225）・SK 7 出土遺物（227）・SK 14出土遺物（228～231）

報告書抄録

ふりがな	ふながたにいせき
書名	船ヶ谷遺跡
副書名	2次調査
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第70集
編著者名	高尾　和長・大西　朋子・㈱古環境研究所
編集機関	松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委：〒790-0003　松山市三番町6丁目6－1　　TEL089-948-6605 埋　文：〒791-8032　松山市南斎院町乙67－6　　TEL089-923-6363
発行年月日	西暦　1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
船ヶ谷(ふながたに)2次	松山市西長戸(まつやましにしながと)	38201		33° 51′ 55″	132° 44′ 26″	19970801～ 19980130	4,543	学校給食調理場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
船ヶ谷2次	集落	古墳	自然流路、溝、土坑	土師器、須恵器 弥生土器	祭祀遺構

松山市文化財調査報告書　第70集

船ヶ谷遺跡２次調査

平成11年３月31日　　発行

編・集　　松山市教育委員会
発　行　　〒790—0003　松山市三番町６丁目６－１
TEL（089）948-6605
財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791—8032　松山市南斉院町乙67番地６
TEL（089）923-6363
印　刷　　セキ株式会社
〒790—8686　松山市湊町７丁目７－１
TEL（089）945-0111